

史跡 武田氏館跡IX

平成12年度大手馬出土罌・主郭部・御隠居曲輪南、
平成12～13年度無名曲輪、試掘調査概要報告書

2002

甲府市教育委員会

序

年月の流れは早いもので、甲府市教育委員会が史跡武田氏館跡整備活用委員会を設置し、武田氏館跡の学術発掘調査に着手してから、7年になります。

この調査は、近世以降に宅地や耕地、境内地として開発された史跡指定区域内に、武田氏三代の時代の遺構がどの程度残っているのか確認することを大きな目的としておりましたが、幸運にも保存状況が良く、武田氏の築城技術や居館の移り変わりを知る上で多大な成果をあげることができ、喜ばしい限りでございます。

本市ではこうした調査成果を一般市民に公開すべく、昨年10月13・14の両日に、山梨県考古学協会と共催してシンポジウム「武田系城郭研究の最前線」及び見学会を開催しましたところ、市民はもとより全国各地の城郭研究者からも申込みが相次ぎ、240名を超える参加者を記録することができました。このことは、武田氏館跡発掘調査への関心が、全国的に高まっている状況を物語っているのではないのでしょうか。

本書には、昨年度に実施した大手馬出^{うまだし}及び無名曲輪の発掘成果を収録致しましたが、古絵図に描かれていない堀や土塁の痕跡が検出され、また、武田氏滅亡後の館の再整備状況が具体的に把握されるなど、貴重な学術データが提示されております。

最後に、本書が史跡整備事業にとどまらず、中世城郭の研究やまちづくり、教育など多方面にわたって活用されますよう切にお願い申し上げますとともに、発掘調査に御指導と御協力を賜りました関係各位に、心より感謝申し上げます次第でございます。

平成14年2月

甲府市教育委員会

教育長 金丸 晃

例 言

1. 本書は山梨県甲府市古府中町・屋形三丁目・大手三丁目地内に所在する国指定史跡武田氏館跡の、平成12～13年度に実施した整備基本構想・基本計画策定に関わる事前の試掘調査、及び暫定整備に伴う事前の試掘調査の概要報告書である。
2. 本館跡は、昭和13年（1938）に国史跡の指定を受けており、文化庁・県教育委員会・史跡武田氏館跡調査団の指導の下、甲府市教育委員会が主体となって調査を実施した。調査経費は国・県の補助金の交付を受けている。
3. 本書に関わる試掘調査の担当は伊藤正彦・望月小枝であり、対象地区・調査面積は以下の通りである。

御隠居曲輪	30.3 m ²
主郭部	107.5 m ²
大手馬出土塁	190.7 m ²
無名曲輪	130.8 m ²
4. 本書の編集・執筆は、目黒 秀(文化芸術課長)を責任者とし、伊藤正彦が行った。
5. 本書の挿図は林 久美子・望月小枝が作成した。
6. 本書に関わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。
7. 発掘調査及び報告書作成に際して次の機関及び諸氏からご指導、ご協力を賜った。厚くお礼を申し上げる次第である。

文化庁文化財部記念物課 山梨県教育委員会学術文化財課 武田神社
伊藤正義 磯貝正義 小野正敏 北垣聡一郎 清雲俊元 笹本正治
鈴木 誠 萩原三雄 宮武正登 八巻與志夫 (敬称略)

凡 例

1. 本書に掲載した遺構番号は、調査現場において付したものである。
2. 遺構名は各遺構の形状・検出状況に応じ、調査現場において付したものである。
3. 全体図、遺構・遺物実測図の縮尺は図中に表示した通りである。
4. 遺構断面図における水平数値は、海拔高度を示し、単位はmである。
5. 報告書中の方位は磁北を示している。
6. 写真図版の遺物番号は挿図中の番号と対応している。

発掘調査参加者

(一般)

雨宮英郎	池谷富士子	金井いく代	金子利雄
川口格一	岸本美苗	北原洋子	倉田勝子
栗田宏一	小池孝男	坂本しのぶ	佐田村孝一
末木義光	鈴木木正文	井美知子	中村屋袈裟男
長澤晴雄	花曲敬子	樋口進	古屋月宏美
本道歌子	本道政清	望月貴美子	望月宏美
渡辺			

(信州大学)

長田純佳 高平香理

(都留文科大学)

浅木一希	金子正	川中裕二	野沢南海子
法月麻友美	林雅彦	力武浩史	

(東京大学)

斎藤拓弥	酒井由梨佳	佐藤雄基	辻畑圭亮
初鹿野博之	松本貴智	矢野奈苗	

(東京理科大学)

片岡薫香

目 次

序
例 言
凡 例
目 次
挿図・表目次

第 1 章 御隠居曲輪南

第 1 節	調査概況	
1	調査に至る経緯	1
2	調査の方法と経過	1
第 2 節	調査の成果	
1	土 層	1
2	出土遺物	1

第 2 章 主郭部

第 1 節	調査概況	
1	調査に至る経緯	4
2	調査地の概要	4
3	調査の方法と経過	4
第 2 節	調査の成果	
1	基本層序	7
2	遺構と遺物	7
第 3 節	小 括	8

第 3 章 大手馬出土塁

第 1 節	調査概況	
1	調査地の概要	9
2	調査の方法と経過	9
第 2 節	調査の成果	
1	基本層序	9
2	遺構と遺物	10
第 3 節	小 括	27

第 4 章 無名曲輪

第 1 節	調査概況	
1	調査地の概要	48
2	調査の方法と経過	48
第 2 節	調査の成果	
1	基本層序	48
2	遺構と遺物	49
第 3 節	小 括	58

挿図目次

図1	年度別調査範囲	
図2	スポット公園暫定整備図	2
図3	トレンチ図・出土遺物	3
図4	調査区平面図・セクション	5
図5	A-2グリッド平面図・セクション、出土遺物	6
図6	調査地点地形変遷図	8
図7	大手馬出土墓トレンチ1平面図・セクション(1)	11~12
図8	大手馬出土墓トレンチ1平面図・セクション(2)	13
図9	大手馬出土墓トレンチ1平面図・セクション(3)	14
図10	大手馬出土墓トレンチ1平面図・セクション(4)	15
図11	大手馬出土墓トレンチ2平面図・セクション	17~18
図12	大手馬出土墓トレンチ2・3平面図・セクション	19~20
図13	大手馬出土墓トレンチ4・5平面図・セクション	21
図14	1号石墓・1号溝・3号石列石積側面図	23~24
図15	1号堀推定範囲	28
図16	集石状遺構・2号溝平面図・セクション	29
図17	3~5・8・10号溝平面図・セクション	30
図18	6・7・9号溝、1号土坑平面図・セクション	31
図19	2・3号土坑、ピット1~7・11平面図・セクション	32
図20	ピット8~10、18~23平面図・セクション・エレベーション	33
図21	掘立柱建物平面図・セクション	34
図22	大手出土遺物(1)	35
図23	大手出土遺物(2)	36
図24	大手出土遺物(3)	37
図25	大手出土遺物(4)	38
図26	大手出土遺物(5)	39
図27	大手出土遺物(6)	40
図28	大手出土遺物(7)	41
図29	大手出土遺物(8)	42
図30	無名曲輪トレンチ1平面図・セクション	50
図31	無名曲輪トレンチ2・3平面図・セクション	51~52
図32	無名曲輪トレンチ4平面図・セクション	53~54
図33	無名曲輪変遷推定図	59
図34	無名曲輪出土遺物(1)	60
図35	無名曲輪出土遺物(2)	61
図36	無名曲輪出土遺物(3)	62
図37	無名曲輪出土遺物(4)	63
別添	史跡武田氏館跡大手馬出地点平面図No.1	
別添	史跡武田氏館跡大手馬出地点平面図No.2	

表目次

表1	御隠居曲輪出土遺物観察表	1
表2	主郭部出土遺物観察表	7
表3	ピット一覧表(大手馬出土墓)	26
表4	大手馬出土墓出土遺物観察表	43~47
表5	ピット一覧表(無名曲輪)	56
表6	無名曲輪出土遺物観察表	64~67

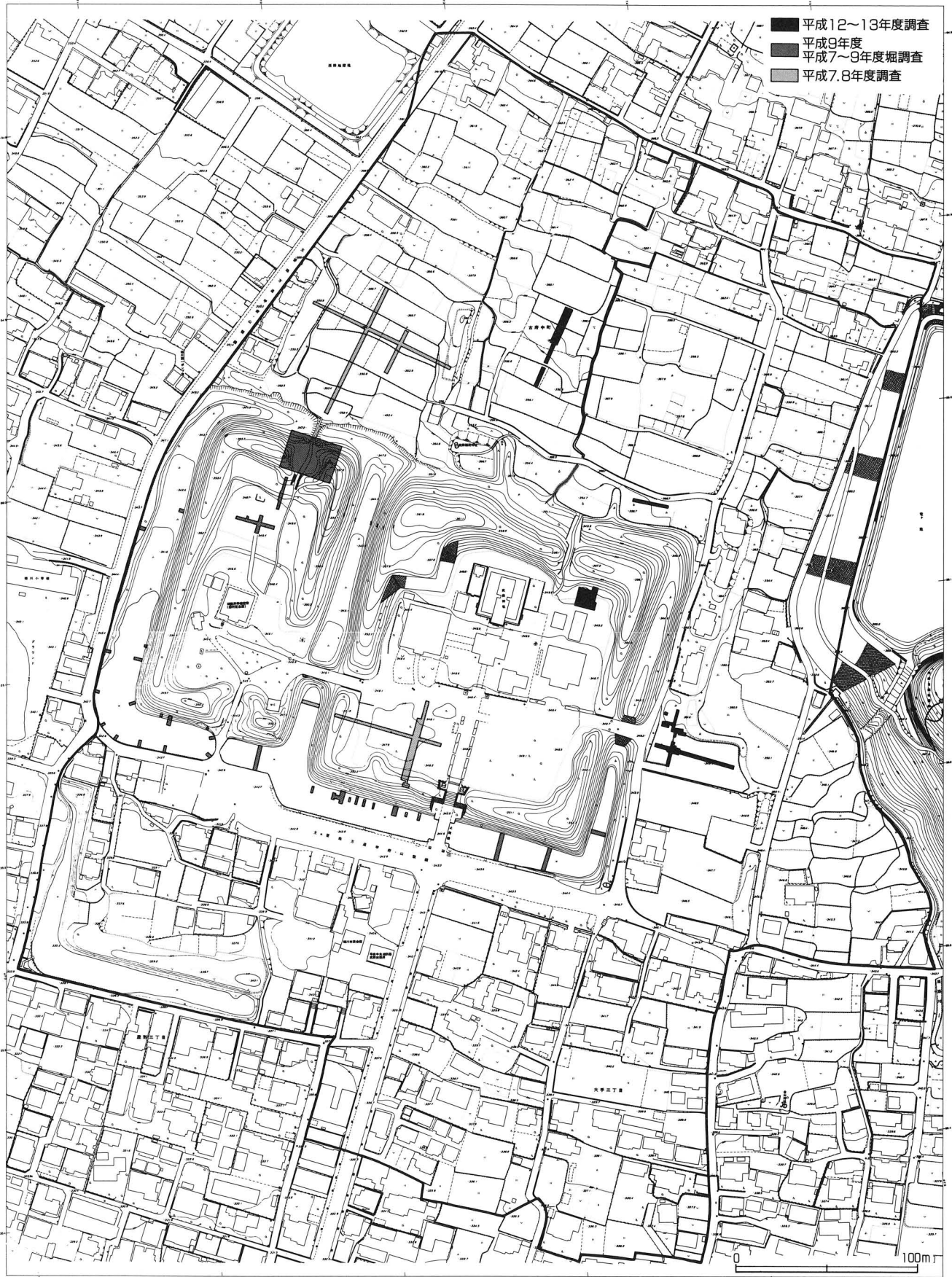


図1 年度別調査範囲

第1章 御隠居曲輪南

第1節 調査概況

1. 調査に至る経緯

平成11年度、甲府ロータリークラブより甲府市に、創立50周年記念事業として史跡武田氏館跡公有地の一角をスポット公園として暫定整備し、寄附したい旨の申し出があった。甲府市教育委員会はこれにあわせ、史跡公有地の美観形成と活用を推進するため、平成12年度にスポット公園予定地の西側隣接地の暫定整備と、武田神社北側公有地一帯への砂利敷き散策路の設定を計画した。御隠居曲輪南側に位置する当該地は、現在策定中の整備基本構想原案において修景地区にゾーニングされているため、あくまで暫定的な整備であること、史跡景観に調和した整備内容とすること、地下遺構に影響を与えないことなどが現状変更許可の条件に付された。暫定整備に先立ち試掘調査を実施し、遺構の有無と文化面の確認を行った。

2. 調査の方法と経過

平成12年7月、ミニ公園西側隣接地約400m²を対象として試掘調査を行った。公有地化の前段階で対象地全体にわたり土砂や人頭大の礫が廃棄されている状況であり、暫定整備計画では一部整地を施すが、現状地形を生かしたまま盛土し、整備することとした。対象地内には幅1.5m、長さ25mのトレンチを設定し、重機と人力によって掘り下げた。予想以上に盛土されていたため排土処理が困難となり、一部のみを掘り下げ、土層堆積・文化面の確認を実施した。

7月27日より調査を開始し、記録図面の作成、及び写真撮影後の8月4日に埋め戻している。引き続き暫定整備と散策路の設定工事を行い、9月27日には御隠居曲輪南スポット公園のオープニング式を挙行し、散策路の渡り初めを行っている。

第2節 調査の成果（図3・表1）

1. 土層

対象地全体にわたり東側から西側にかけて、土砂や人頭大の礫が廃棄されている状況であり、建物解体にともなうガラや礫が多数混入する盛土が厚く堆積していた。その下層に灰色土・黒褐色土が堆積し、灰色土までが盛土と考えられる。盛土層は、東側で1.28m、西側では0.5mとなり、黒褐色土以下が文化層となる。

2. 出土遺物

全ての遺物が盛土層から出土しており、建物解体にともない混入したものであろう。2点のみを図化している。

表1 御隠居曲輪出土遺物観察表

() 復元値

図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考(時代等)
				口径	底径	器高					
3	1	一括	磁器 皿	(14.8)	(8.2)	(4.3)	口縁 ~底部	蛇ノ目高台	密	灰白色	
3	2	一括	磁器 碗	(9.0)			口縁 ~体部		密	灰白色	

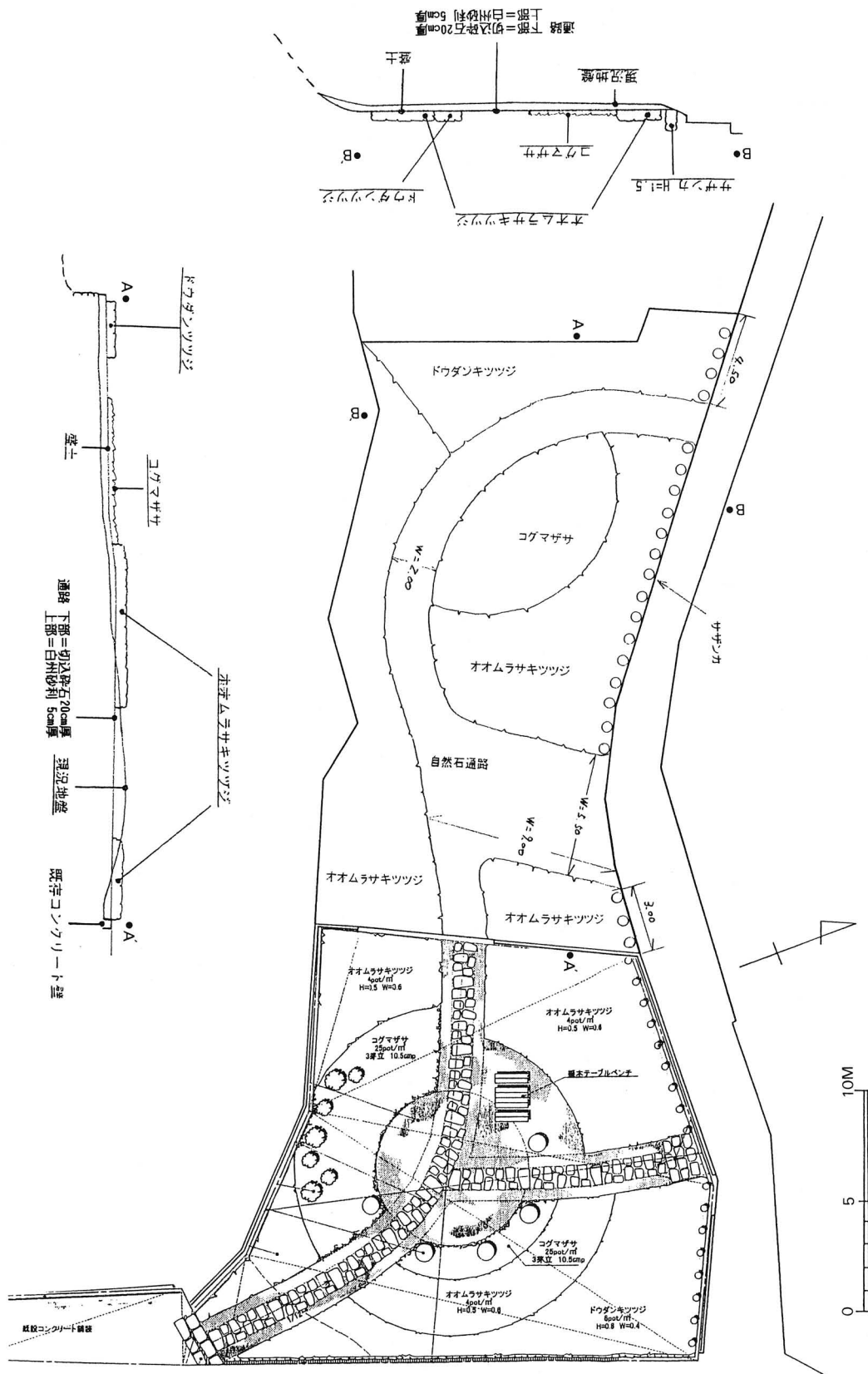
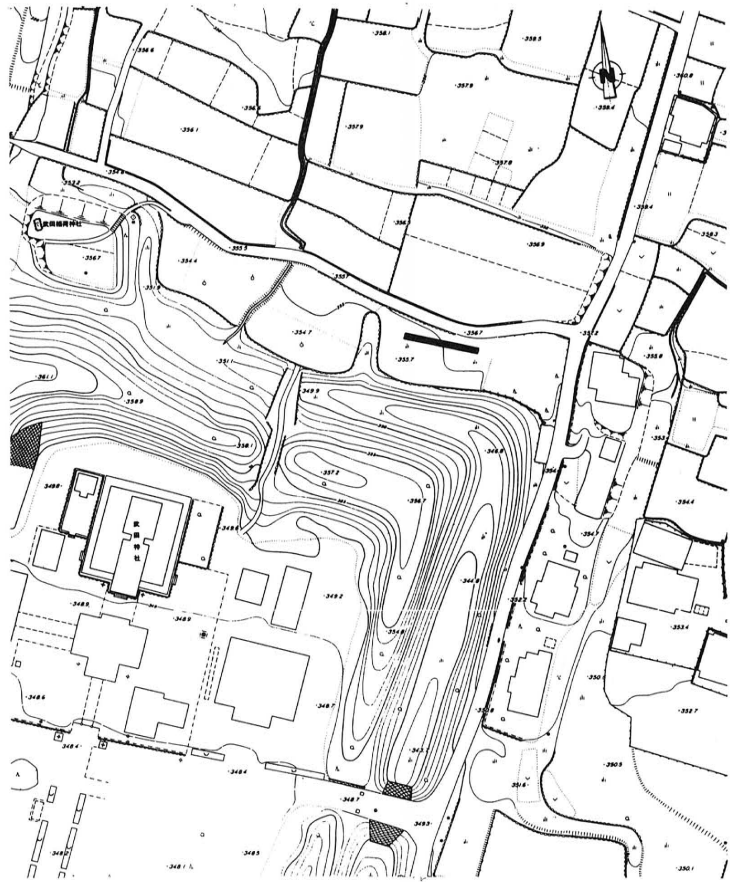
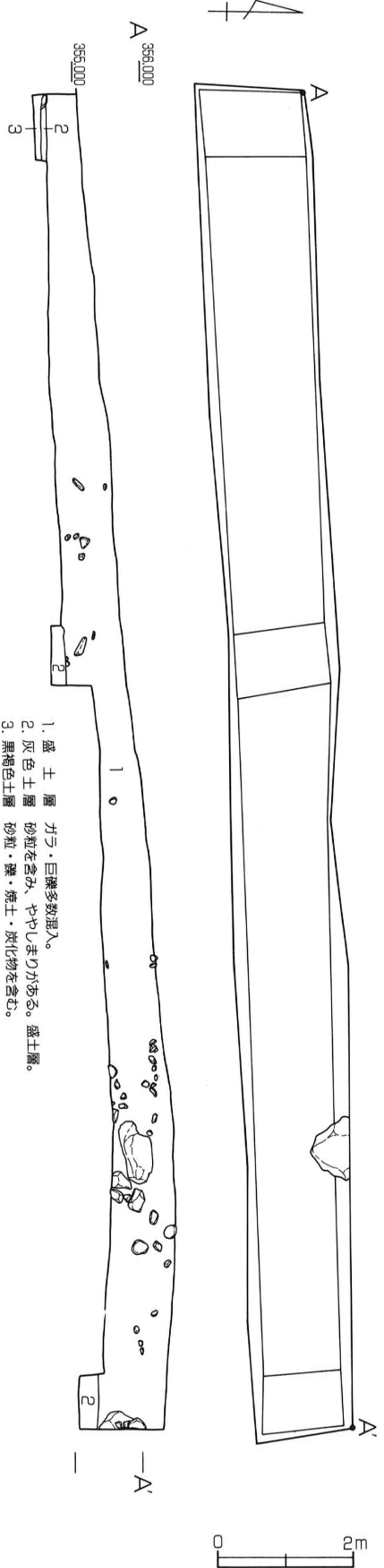


図2 スポット公園暫定整備図(会議資料より)



トレンチ位置図 (S=1:2000)



1. 盛土層 カラ・巨礫多数混入。
2. 灰色土層 砂粒を含み、ややしまりがある。盛土層。
3. 黒褐色土層 砂粒・礫・焼土・灰化物を含む。

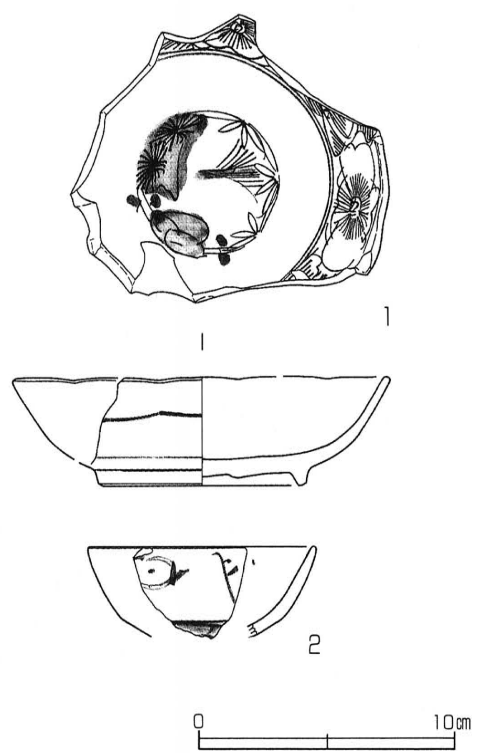


図3 トレンチ図・出土遺物

第2章 主郭部

第1節 調査の概況

1. 調査に至る経緯

平成7年から実施している史跡武田氏館跡整備基本構想・基本計画策定に関する、基礎資料収集を目的とした試掘調査の一環である。平成11年度までの調査成果は『史跡武田氏館跡発掘調査報告書』Ⅲ・Ⅳとしてすでに刊行している。平成12年度は主郭部北東隅・大手馬出土壘を、平成12～13年度にかけて無名曲輪の各地点を調査した。調査地点の選定に際しては、史跡武田氏館跡調査団会議に諮り、検討・承認を経ている。

2. 調査地の概要

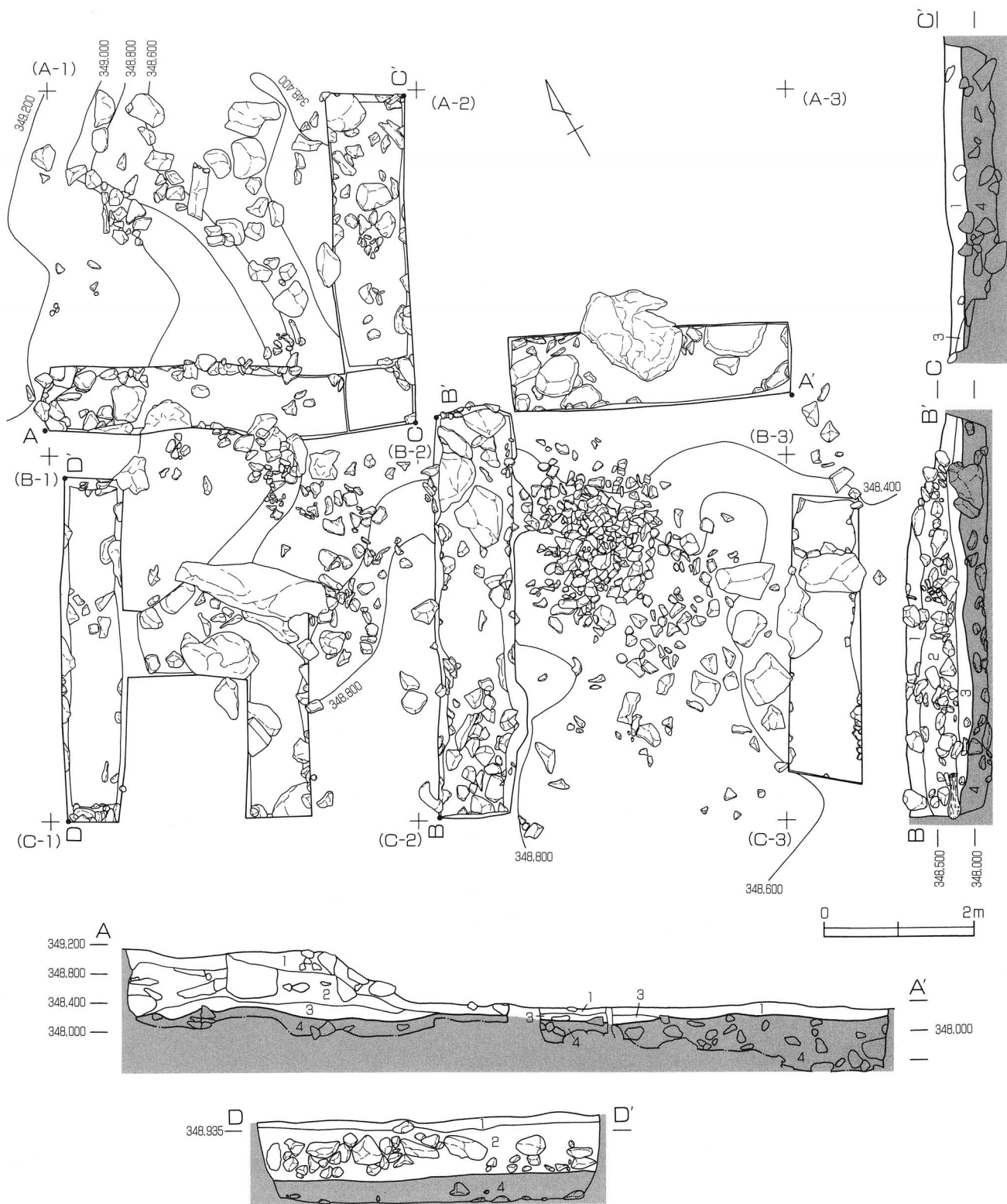
主郭部は、二町四方となる方形の郭で周囲に土壘と堀が巡る。現在、郭内は平坦化しているが、近世の絵図によると石壘により何区画かに区分されており、『甲斐国志』は「東曲輪」・「中曲輪」と、大きく東西に二分して呼称している。この石壘は武田氏滅亡後、加藤光泰によって天正19年から文禄元年の間に築かれたものであり、これまでの調査により東西方向に築造された石壘の基底部を確認している。また、郭内は自然地形の影響のため武田氏の時代から南北軸で三段程度の段構造となることが判明している。

調査地点は、主郭部（東曲輪）の北東隅に位置し、北側郭への出入り口に隣接する。この出入り口は、各種絵図では石壘などの表現が見られ、外柵形虎口と内側にL字状に折れた土壘が描かれる。永禄年間の主郭部の建物配置を描いたとされる「武田信玄公屋形図・伝来之絵図」（尊経閣文庫・他所蔵）は、この地点に「毘沙門堂・不動堂」などを描き、「甲州古城勝頼以前図」（恵林寺所蔵）には、「毘沙門堂前」・「立石アリ」の注記がある。

主郭の北東隅に位置し、絵図などの記述から宗教施設等の存在が予想され、高さ約1.5mの立石も存在するなど、「甲州古城勝頼以前図」の注記と符合していた。調査前、この地は径10mほどの窪地となり、立石の周辺は一面に礫が散乱している状況であった。

3. 調査の方法と経過

主郭部調査は、平成12年7月27日から開始している。任意に5mグリッドを設定したのち、基本土層を確認するため各グリッドにトレンチを設定し、人力で掘り下げを行った。各トレンチの土層堆積状況から、調査地点一帯がすでに大きく削平されている可能性が窺われ、8月後半には土壘基底部を確認するため、新たにトレンチを延長して調査を続けた。この間、地形平面図の作成も並行して行い、11月13日にいったん調査を終了している。他の調査地点と並行して調査を行ったため中断を挟みつつ実施したが、12月19日に写真測量を、12月20日には調査団会議を開催し、現地説明を行っている。川砂・土のうなどにより養生処置を行ったのち、重機で埋め戻し、12月28日に調査を終了した。



1. 黒褐色土層 表土・腐植土。砂礫・小礫を含む。
2. 混礫黒褐色土層 多量の礫とともにコンクリート片・ガラスびんが混入する。盛土層。
3. 明茶褐色土層 砂粒・礫を含みしりなし。盛土層。
4. 混礫黄褐色土層 地山

図4 調査区平面図・セクション

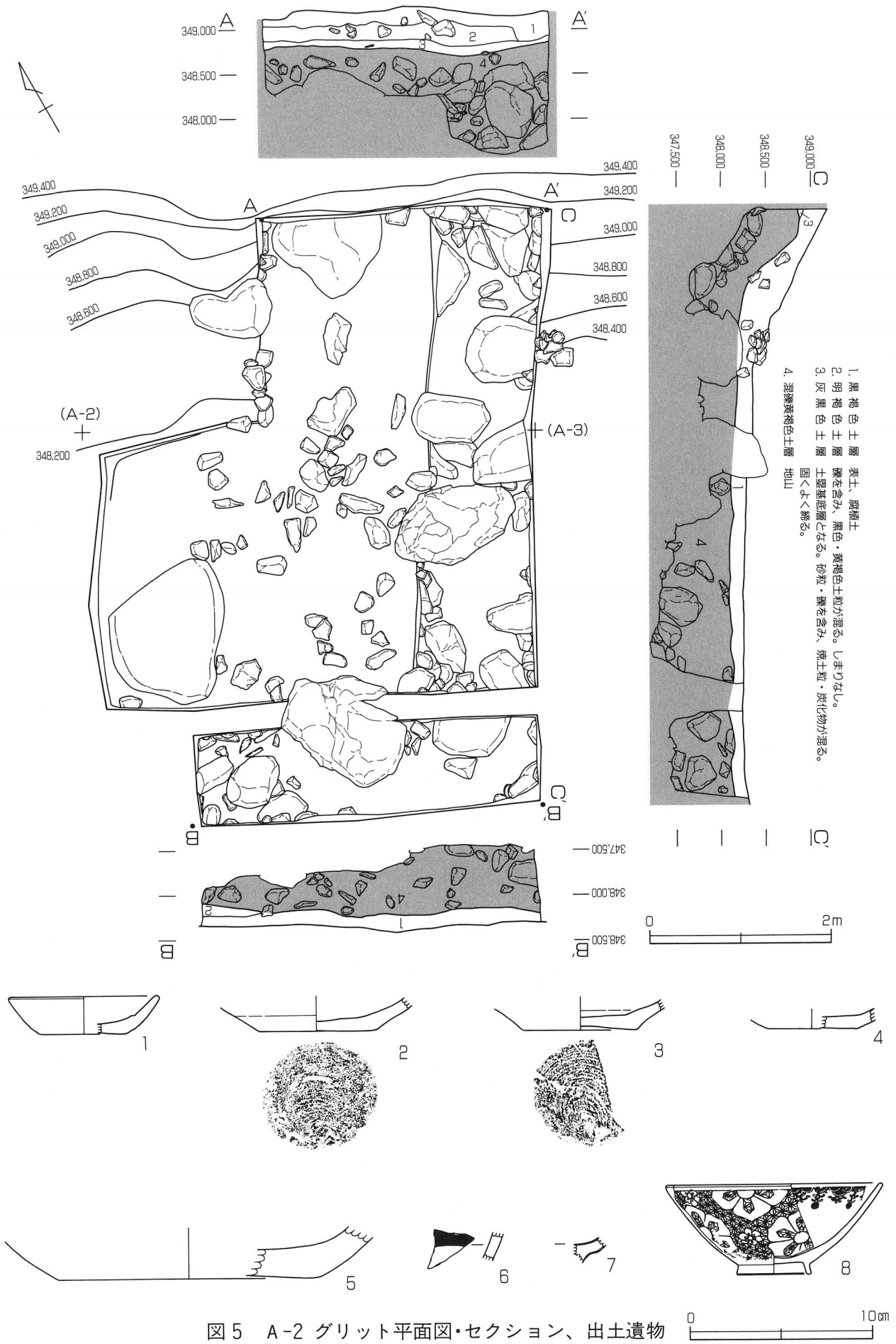


図5 A-2 グリット平面図・セクション、出土遺物

第2節 調査の成果

1. 基本層序 (図4・5)

前述したように、調査地点一帯は径10m程の窪地となり、コンクリート片も混じる礫が一面に散乱している状況であった。周囲から盛土されている可能性が指摘され、トレンチの土層堆積状況からも遺物などが混じる文化層は確認できず、地山上にガラス瓶や多量の礫が混入する土砂が堆積していた。すでに遺構面が大きく削平されていると判断したため、新たに北土壘までトレンチを延長し、土壘基底部を検出することによって文化層の有無を確認した。土壘基底部は現状地盤より約0.5m上層で確認でき、地山上から盛土されていることが判明した。土壘裾部にまで削平が及んでいることや、包含層及び生活面がすでに失われていることが事実となった。古絵図の注記と符合する立石も後世の盛土中に存在することが明らかとなり、地山を掘り込んだ痕跡、他の石材と組み上げている状況など全く確認できなかった。

2. 遺構と遺物

北土壘 (図5・表2)

北土壘の規模は、高さ約9m、幅約23mを測り、北側に幅16mの空堀がある。調査の過程で現状地盤より約0.5m上層から土壘の基底部を確認した。焼土・炭化物が混じり、厚さ約10cmに固く叩き締められていた。地山上から構築されていたが、地山を整形した痕跡は確認できなかった。

土壘から出土した遺物は2点(図5-5・6)を確認した。どちらも基底層から検出している。5は捏鉢あるいは播鉢の底部片であり、いわゆる「在地系」と呼ばれるものである。6は瀬戸美濃天目の小片である。体部下半のみであるが、大窯1段階であり、外面下半は露胎となる。他はトレンチ掘り下げに際して出土した遺物である。1のかわらけ、7の青磁皿は土壘裾部から出土したものである。表土付近からの出土であるため一括遺物とした。2～4のかわらけ、8の磁器碗は盛土からの出土である。混入遺物であることは明らかであるが、かわらけは戦国期の所産、磁器碗は近代以降の所産であろう。

表2 主郭部出土遺物観察表

() 復元値

図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考(時代等)
				口径	底径	器高					
5	1	A-2G	土器 かわらけ	(8.2)	(5.0)	(2.1)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い赤褐色	
5	2	A-1G	土器 かわらけ		(6.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
5	3	B-1G	土器 かわらけ		(6.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
5	4	B-1G	土器 かわらけ		(5.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い褐色	
5	5	北土壘	土器 捏鉢(?)		(14.4)		底部		やや粗	橙色	
5	6	北土壘	瀬戸美濃 天目茶碗				体部	外面体部下半露胎	やや密	胎土/灰白色 釉/黒褐色	大窯1
5	7	A-2G	青磁 皿				底部	畳付無釉	密	胎土/灰白色 釉/緑灰色	
5	8	A-1G	磁器 碗	(11.8)	(4.2)	(5.0)	口縁 ~底部	畳付無釉、型紙播	緻密	灰白色	

第3節 小 括

調査地点一帯は、絵図などの記述から宗教施設等の存在が予想され、注記と符合する立石も存在する状況であったが、土塁裾部にまで削平が及び、包含層及び生活面はすでに失われていることが判明した。

当初の予想に反して、館廃絶後の、特に神社建設を契機とした土地改変の状況が明らかとなった。廃絶後、館跡は概ね三段階程の改変を受けて今日に至っている。(図6)

I期、館廃絶後から武田神社建設までとする。

現在、主郭の北西隅に天守台が存在する。土塁のコーナーを利用して東・南面のみに石積がみられる。隅角部は大きく崩落し、館廃絶に際しての破城の痕跡と推定される。他にも、廃絶時にこうした改変が加えられていることは予想されるが、それらは構築物に対してのみであり、郭内に限り土地に対する改変は少ないと考えられる。江戸時代を通じて館跡の利用は『甲斐国志』などから断片的に知ることができる。主郭部は「法性大明神ノ小祠ヲ置」いて祭る空間となった。主郭部・西曲輪は「松樹草荊の間」・「竹林茂密セリ」といった村人もめったに踏み込まぬ空間であり、村の共有地とも言い得る状態であったのに対して、梅翁曲輪・味噌曲輪・御隠居曲輪などの周辺部は「畠トナレリ」と記され、すでに開墾され個人所有の対象となっている。土塁と堀によって囲まれた空間とその他では、明らかに異なる土地利用が見られる。

II期、館跡は大正8年の神社建設を契機に劇的に変化する。

土塁と堀によって囲まれた空間であった郭内は、開放された空間へと変化する。南土塁の中央は崩され、新たに参道の石段が設けられた。三段程度の段構造であった郭内は北側を削平して南側に盛土することによって平坦化され、何区画かに区分していた土塁は崩され、あるいは埋められた。今回確認した北土塁の裾部から始まる深さ50cmの削平はこの時の痕跡である。調査時、数石に削岩機の痕跡が確認された。地山に入っている状態で、上部のみ割られており、大がかりな造成であったと推定できる。

III期、昭和40年代の宝物殿建設時と考えられる。

この時期、館跡に宝物殿・社務所などコンクリート工法による建物が建設される。今回の調査地は宝物殿の背後に位置しており、削平後に行われた盛土は、宝物殿建設にともなう整地、基礎掘削時の建設残土と推定できる。盛土が、南・西方向から行われたため、結果的に径10m程の窪地となり、周辺一帯に礫が散乱する状況になったと推定される。こうした過程を経て、コンクリート片、ガラス瓶、多量の礫が混入し、今日の状態となっている。

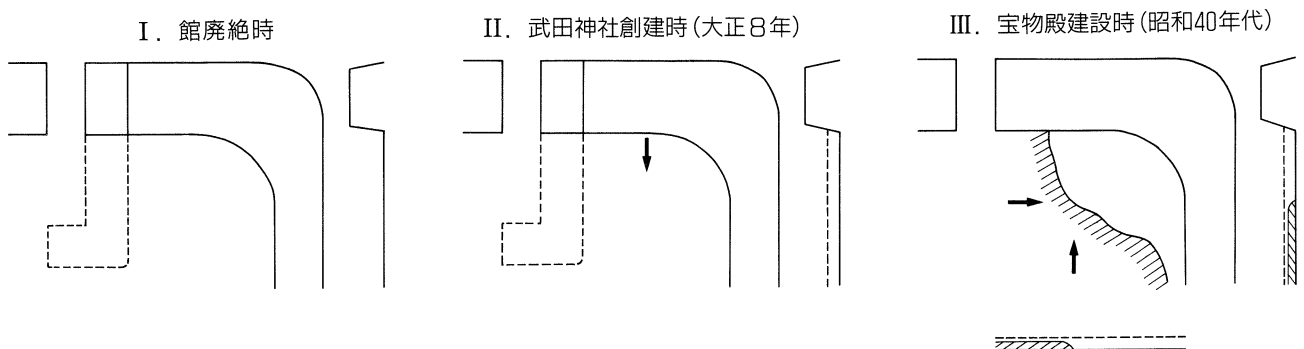


図6 調査地点地形変遷図

第3章 大手馬出土塁

第1節 調査概況

1. 調査地の概要

主郭大手土橋の東には馬出土塁があり、さらにその東を総堀が囲み、館の東端を画している。『甲斐国志』は、「端門ノ前ニ馬出シノ塁アル」と記し、総堀についても「御所堰ト云アリ相川ノ水ヲ引キ外郭ノ溝ニ湛ユ」と記述する。各種古絵図の中で、大手馬出土塁と総堀を記載する絵図は「諸国古城之図」（広島市立中央図書館）・「府中古城図」（静嘉堂文庫）など数点であるが、馬出土塁はいずれも鍵形の形状に描かれている。石塁として表現されるものが大部分であり、注記される規模は長さ20間（約36m）から13間（約23m）まで様々である。

現状、馬出土塁は高さ約2m、長さ20m、幅10mの一文字形となり、その周囲に石積を施し、周辺より一段高い畑地として利用されていた。総堀との間に形成される土塁前方の空間は東西約47m、南北約22mの方形となり、水田として利用されていた。

2. 調査の方法と経過

調査は、平成12年7月27日から開始している。馬出土塁から総堀までの空闲地も含め、幅2m、長さ45mのトレンチを土塁に直交させて設定した。土塁部分は表土から人力により、それ以外は水田床土まで重機により掘削し、以下を人力によって掘り下げて調査を行った。部分的に遺構の規模を確認するため、9月以降トレンチを拡張、あるいは新たに設定して調査を続けた。12月19日に写真測量を、翌20日には調査団会議を開催し現地説明を実施している。川砂・土のうにより養生処置を行ったのち、重機で埋め戻し、12月28日に調査を終了した。

第2節 調査の成果

1. 基本層序

土塁部分は厚さ約0.2mの表土が覆うのみであった。土塁東側の空間は、水田として土地利用されていたため耕作土・床土、さらに水田造成にともなう盛土が確認され、遺構確認面は地表下0.4～0.7mにある。盛土は、北東から南西方向、及び東側の総堀方向から西側の土塁方向にかけて行われており、遺構確認面も東から西にかけて深くなっている。現況図から判断すると、総堀に沿う土塁幅は、馬出付近から東端にかけて著しく狭くなっている。主郭北東部分で約17mあった土塁幅が、大手付近では8mとその規模を半減し、東端は幅3mとなっている。

館の廃絶後、水田に転換するため造成を行っているが、この際、総堀に沿う土塁を削平しているのかもしれない。検出した遺構もトレンチ西側は数多く、重複して検出され、その一方で、トレンチ東端では遺構も少なく散見する状態であった。

2. 遺構と遺物

(1) 1号石塁 (図7・11・12・14)

馬出土塁に設定したトレンチ1～3で確認している。現況の石積から約1.5m内側に存在し、幅5.6m、高さ1m、5段程度の石積が残っている。北側は現況石積(3号石列)構築に際し、取り壊されている。すでに上部は削平されているが、土地区画として確認できる南北20mの範囲には、残存しているものと推定される。

土層堆積から構築以前、1号堀が存在していたことが分かる。堀を埋めた後、東西両側に石積を施し、石積背後は小礫を混入した土砂で搗き固め、内部は礫のみを充填している。部分的であるが、東側石積は長さ6mにわたり確認した。最も良く残る箇所では高さ1m、5段の石積が確認できる。西側石積は、大部分が取り壊されており、崩れかけた部分もみられた。部分的であるが、長さ3.6m、高さ0.5m、2段の石積を確認した。使用されている石材は、安山岩を主体とし、花崗岩も数石混じる。長径0.6m程度の自然石を用い、粗割石も僅かに確認できる。上下の石材との重ね積みを避け、表面より控えを長く取り、石尻を下げて積まれている。石積の勾配は、基底部から2段程度が85度前後、それ以上は77～78度であり、全体的に急勾配となる。

出土遺物は、かわらけ・捏鉢・内耳鍋・瀬戸美濃陶器・常滑甕・青磁・青白磁・石製品が出土する(図22、図23-1～12)。常滑甕の破片が多く、周辺一帯からも出土する。その他、石塁崩落土中からも多くの遺物が出土している(図23-16～22、図24-1～15)。

(2) 1号堀 (図7・11～13・15)

トレンチ1・2で確認している。1号石塁構築以前に存在した堀であり、他の遺構が掘り込まれ規模などが不明瞭であるが、深さ2.65m、幅3.30mとなる。トレンチ5でも堀の落ち込みを一部確認した。

トレンチ1石塁基底部から、地山上に約0.4mの盛土整地層を確認したが、トレンチ2からはこの層を確認できなかった。石塁構築にともなう盛土整地と考えていたが、土層堆積からは不自然な結果となり、堀にともなう土塁などの痕跡と考えられる。

出土遺物は、かわらけ・常滑甕・青磁碗・白磁皿・染付碗などがある(図25-1～11)。石塁基底部の盛土整地から出土した遺物(図23-13～15)、その他、攪乱層から出土した遺物など(図25-12～22)もここに含めておく。

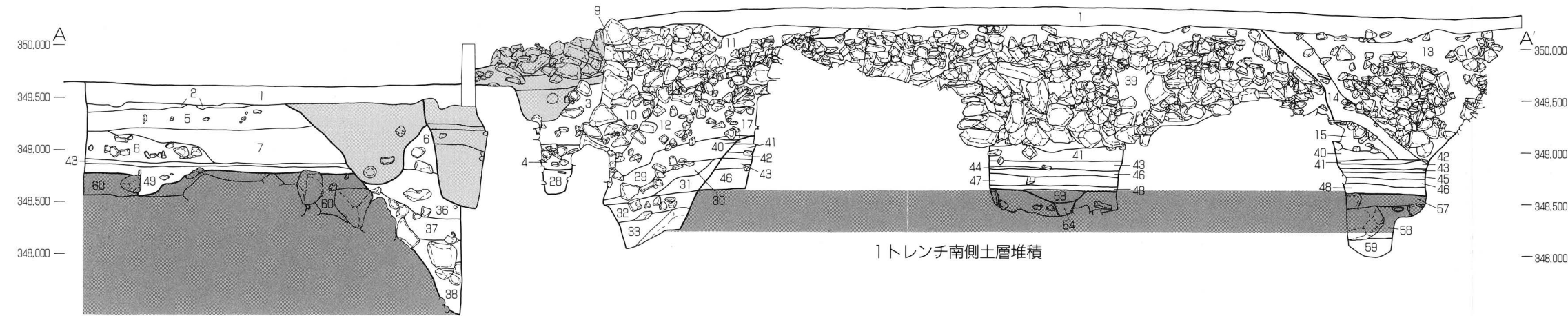
(3) 石列

石積とする遺構も含まれ、また、今後の調査によっては石積となるものもあるが、調査時点での遺構名をそのまま使用した。

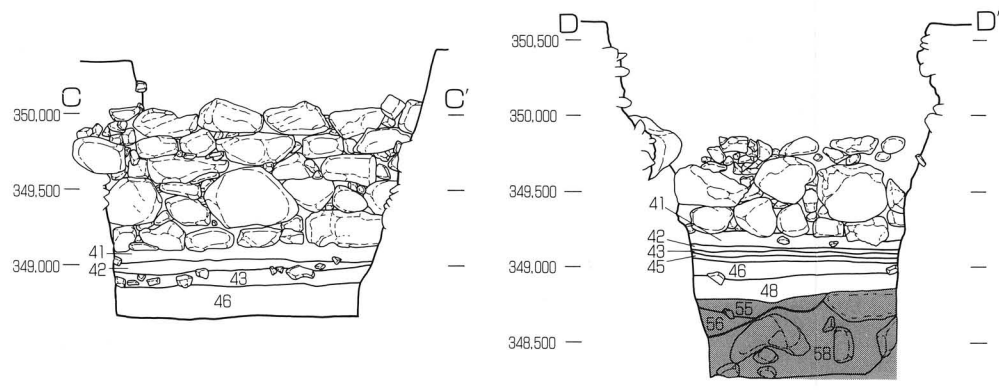
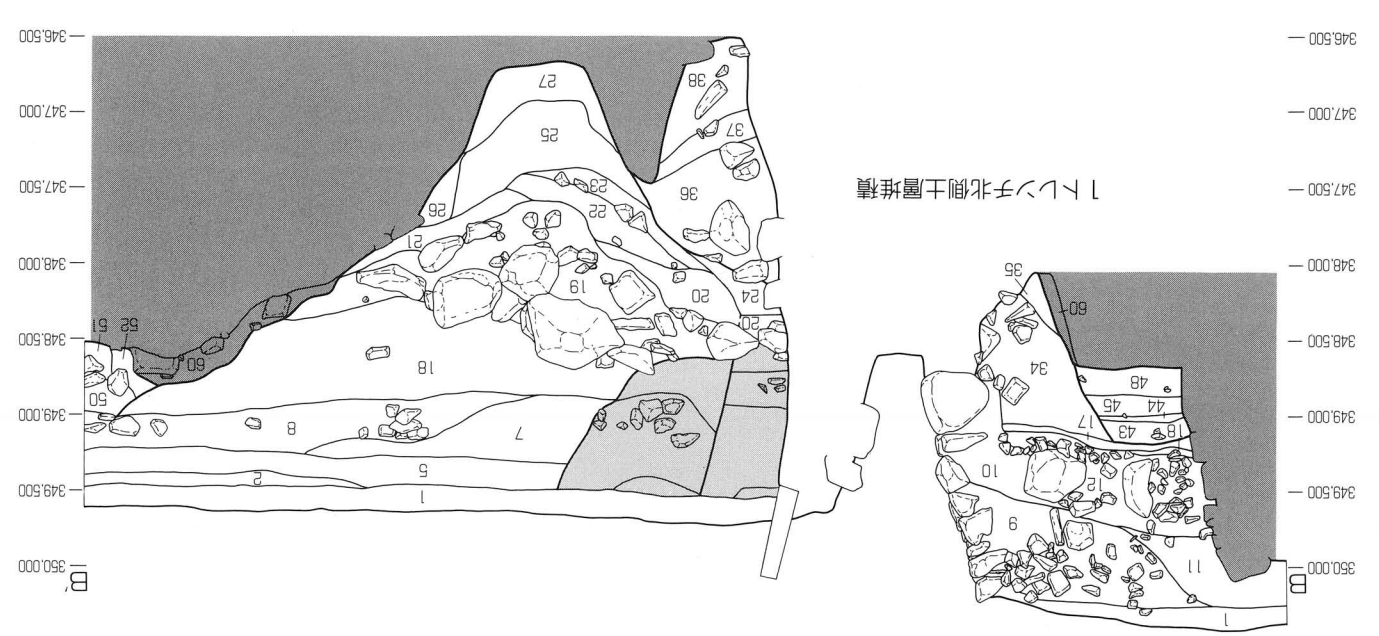
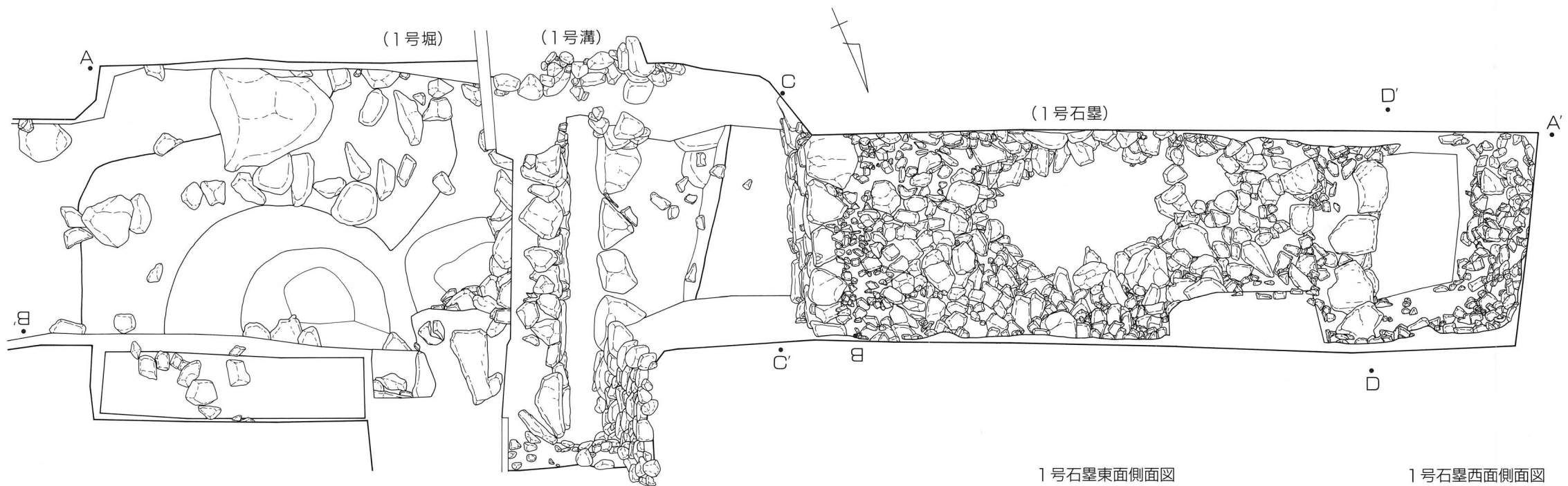
1号石列 (図11)

トレンチ2で確認している。長さ3mにわたり、長径0.5m程度の礫を6石用い東西方向に並ぶ。石列背後は小礫が混じる土砂で固められ、前面には、石列と同規格の礫も散見し、約0.8mの範囲に多数の礫が集中する。土層状況はU字状の掘り込みに、砂粒が混入し、礫のみが堆積していた。側溝などの痕跡と考えられ、2号石列とともに建物区画を形成し、その前面に側溝が付設する。

出土遺物は、かわらけ・瀬戸美濃陶器・常滑甕である(図24-16～21)。石列を境に南北に分かれ、しかも、全て覆土出土であるため、石列にともなうものか明確でない。



1. 表土層
2. 橙褐色土層 水田床土
3. 褐灰色粘質土層 1号溝埋土
4. 灰褐色粘質土層 1号溝埋土
5. 灰褐色土層 8層まで水田造成土
6. 褐灰色土層
7. 褐灰色土層
8. 灰褐色土層
9. 礫層 10層まで1号溝西石積構築土
10. 礫層
11. 礫層 15層まで1号石壘埋設土
12. 混礫灰褐色粘質土層
13. 礫層
14. 灰褐色粘質土層
15. 灰褐色粘質土層
16. 暗褐色粘質土層
17. 黄褐色粘質土層
18. 灰褐色土層 38層まで1号堀埋土
19. 混礫褐色土層
20. 褐色粘質土層
21. 褐色粘質土層
22. 褐色粘質土層 炭化物粒を多量に含む
23. 明褐色粘質土層
24. 明褐色粘質土層
25. 褐灰色粘質土層
26. 灰褐色粘質土層
27. 灰黄褐色粘質土層
28. 褐色粘質土層
29. 褐色粘質土層
30. 暗褐色粘質土層
31. 暗黄褐色粘質土層
32. 褐色粘質土層
33. 暗褐色粘質土層
34. 褐色粘質土層
35. 暗褐色粘質土層
36. 灰褐色粘質土層
37. 褐灰色粘質土層
38. 灰黄褐色粘質土層
39. 礫層 1号石壘裏込
40. 明褐色粘質土層 42層まで1号石壘構築にともなう整地層
41. 褐色粘質土層
42. 黒褐色粘質土層
43. 黄褐色砂礫層 48層まで1号石壘構築以前の整地層
44. 明褐色粘質土層
45. 褐色粘質土層
46. 暗褐色粘質土層
47. 暗褐色粘質土層
48. 暗褐色粘質土層
49. 褐色粘質土層
50. 灰褐色土層 52層まで1号土坑覆土
51. 褐色粘質土層
52. 褐色粘質土層
- 53-60. 地山



■ 攪乱

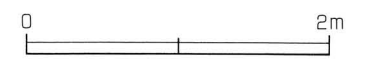


図7 大手馬出土壘トレンチ1平面図・セクション(1)

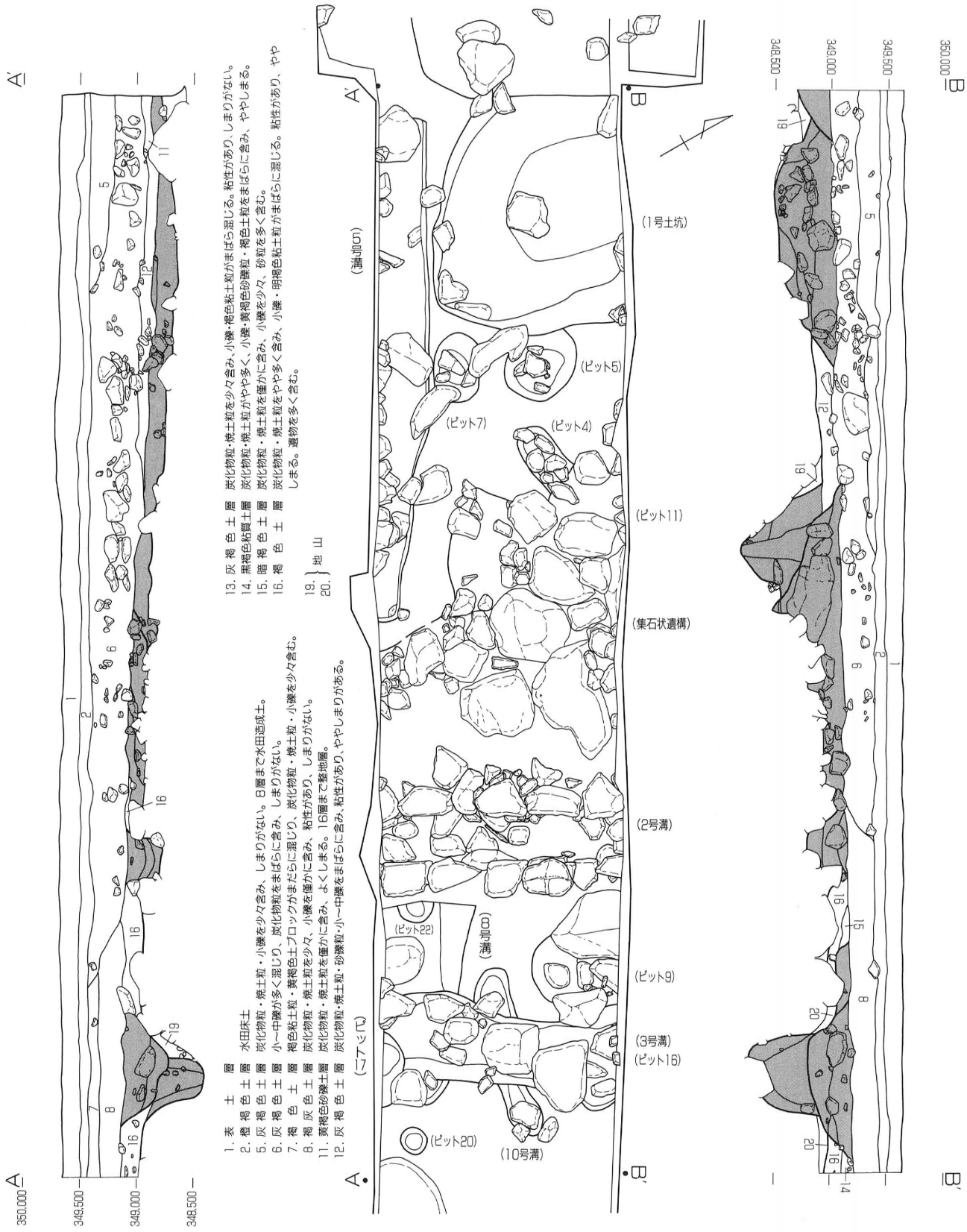
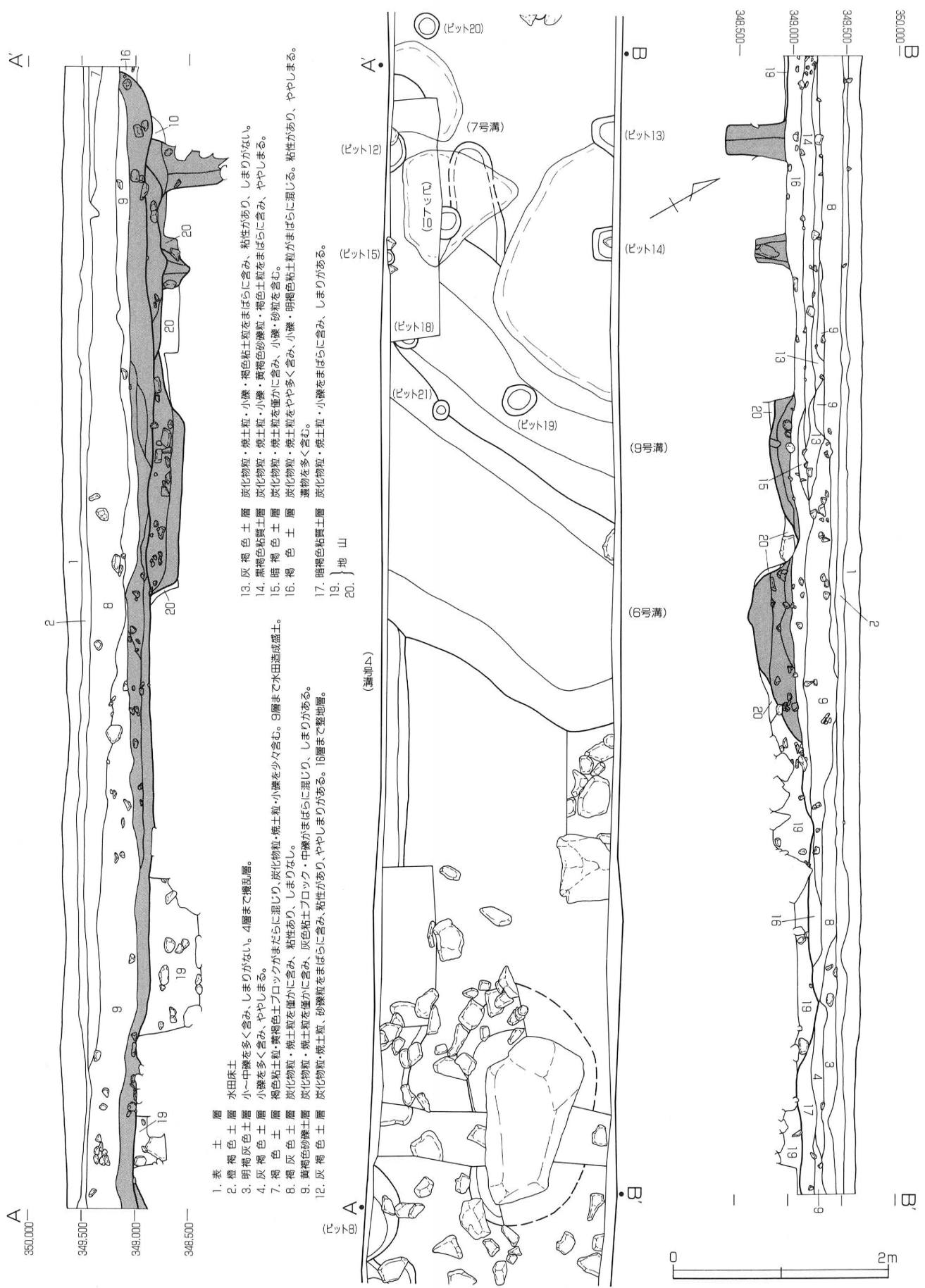


図8 大手馬出土壘トレンチ1平面図・セクション(2)



- 1. 表土層 水田床土
- 2. 櫻褐色土層 小～中礫を多く含む、しまりが少ない。4層まで攪乱層。
- 3. 明褐色土層 小礫を多く含む、ややしまる。
- 4. 灰褐色土層 褐色粘土粒・黄褐色土ブロックがまばらに混じり、灰化物質・焼土粒・小礫を少々含む。9層まで水田造成盛土。
- 7. 褐色土層 灰化物質・焼土粒を僅かに含む、粘性あり、しまりなし。
- 8. 褐色土層 灰化物質・焼土粒を多く含む、灰色粘土ブロック・中礫がまばらに混じり、しまりがある。
- 9. 黄褐色砂礫土層 灰化物質・焼土粒、砂礫粒をまばらに含む、粘性があり、ややしまる。
- 12. 灰褐色土層 灰化物質・焼土粒、小礫をまばらに含む、しまりがある。
- 13. 灰褐色土層 灰化物質・焼土粒・小礫・褐色粘土粒をまばらに含む、粘性があり、しまりが少ない。
- 14. 黒褐色粘質土層 灰化物質・焼土粒・小礫・黄褐色砂礫粒・褐色土粒をまばらに含む、ややしまる。
- 15. 暗褐色土層 灰化物質・焼土粒を僅かに含む、小礫・砂粒を含む。
- 16. 褐色土層 灰化物質・焼土粒をやや多く含む、小礫・明褐色粘土粒がまばらに混じる。粘性があり、ややしまる。遺物を多く含む。
- 17. 暗褐色粘質土層 灰化物質・焼土粒・小礫をまばらに含む、しまりがある。
- 19. } 地山
- 20. }

図9 大手馬出土壘トレンチ1平面図・セクション(3)

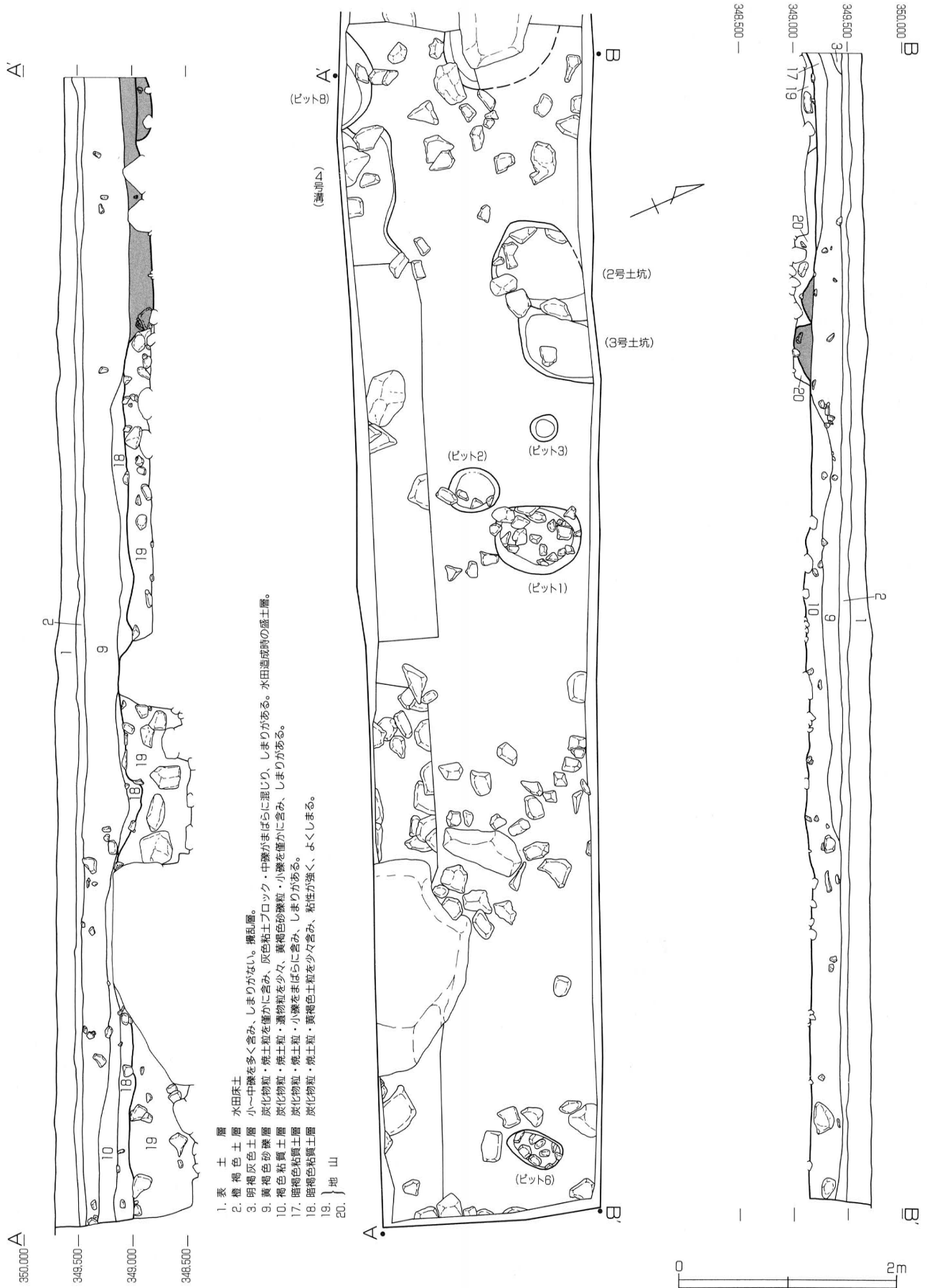


図10 大手馬出土壘トレンチ1平面図・セクション(4)

2号石列（図11）

長さ1.25m、1号石列と直交して南北方向に並ぶ。小振りの石を用い、一部に石積がみられる。石列を境に土層が異なり、西側は落ち込みが確認できる。1号石列とともに1号堀が埋められた後、構築されている。

出土遺物は、石製品一点であるが（図24-22）、土層から判断すれば堀の堆積層出土である。

3号石列（図12～14）

トレンチ3・4で確認した。馬出土壘の北側を画す石積である。高さ約1m、長さ5.95mを検出した。川原石を用い、落し積みとなっている。これを境に北側一帯は土層堆積が大きく異なり、砂礫土が厚く盛土され、径1mを越える巨石も混っている。3号石列構築によって1号石壘は破壊され、北側への続きは全く不明となる。

出土遺物は、砂礫土の盛土中から近代陶磁器とともに、かわらけ・内耳鍋・常滑甕が出土している（図24-23～25）。

4号石列（図13）

トレンチ4北端で確認した。壁際に接し、周辺に多数の石が散在する中にある。遺構とすべきか不明瞭な部分もあるが、列をなし、石材の長軸を揃えて重ねられた部分も見られたため石列とした。南北方向にわたり、長さ2.97mを検出した。若干蛇行するが、一石のみ大きな石を用い、他は小振りの石を使っている。

遺物は、図25-25～27に図示した。かわらけ・常滑甕・石製品であるが、遺構にともなうか不明である。

(4)集石状遺構（図8・16）

トレンチ1で確認した。1号堀・2号溝が近接して存在する。長径1mに達する巨石や礫が、平滑な面を揃え、2m程の範囲に集中して存在する。土層では、2号溝の石積から1号堀の埋土面にかけて整地された状況が明らかであり、石材の平滑な面を揃え埋め込んでいることなど、盛土整地の痕跡と考えられる。

出土遺物は、かわらけ2点（図25-23.24）を図示した。

(5)溝

調査では10条の溝を確認した。今後の調査によっては見直しするものもあるが、調査時点での遺構名をそのまま使用した。

1号溝（図7・11・12・14）

1号石壘東側前面に位置し、トレンチ1・2から検出している。幅0.25m、長さ約20mにわたる石積の溝で、南流する。上部に積み足しが確認でき、現状の馬出土壘東側を画す石積となっている。部分的に孕み、積み直しの痕跡も窺えるが、基底部より2段、高さ0.5～0.7mが当初の石積であろう。長径1mを越える巨石も使い、上石を直下の二石で支えるなど一定の技法が観察される。1号石壘との関係を把握するため、断ち割り調査を行ったが、各地点の土層堆積が全く異なり、複雑な様相を呈している。近年まで、水田水路として使用され続けたらしく、石積にコンクリートの擁壁を付け足し、さらには、埋没した後も塩ビ管を埋設して使用されていた。

出土遺物は、かわらけ・常滑甕がある（図26-14～18）。

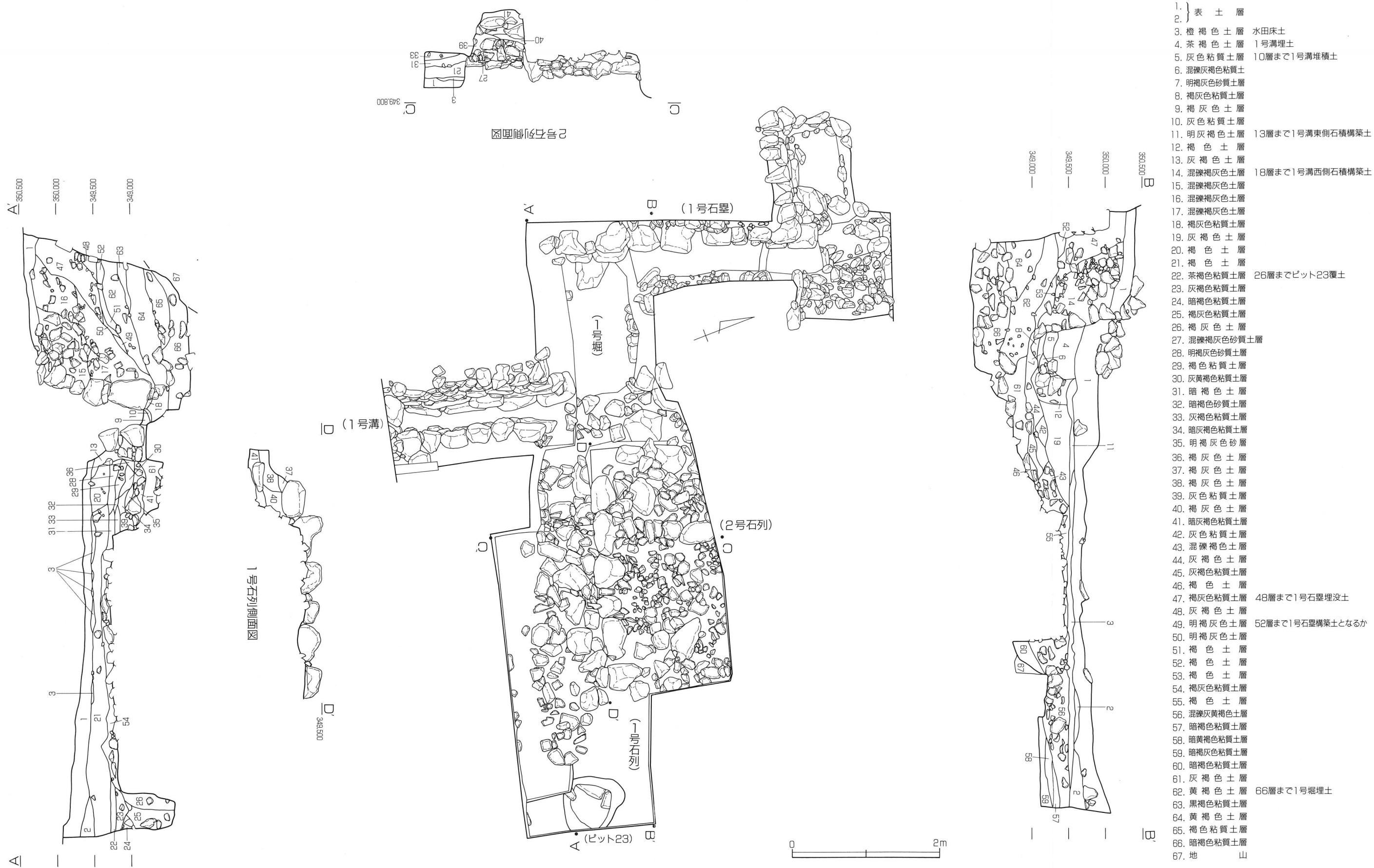
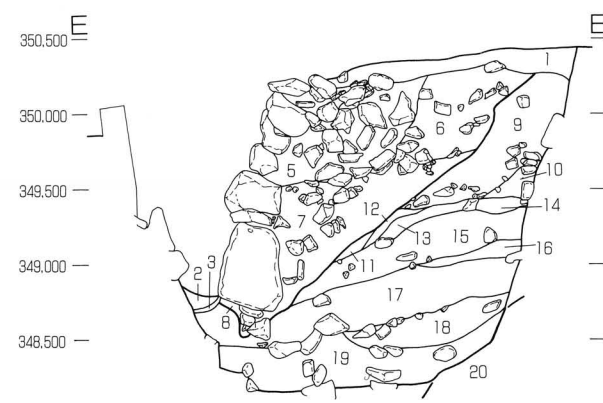
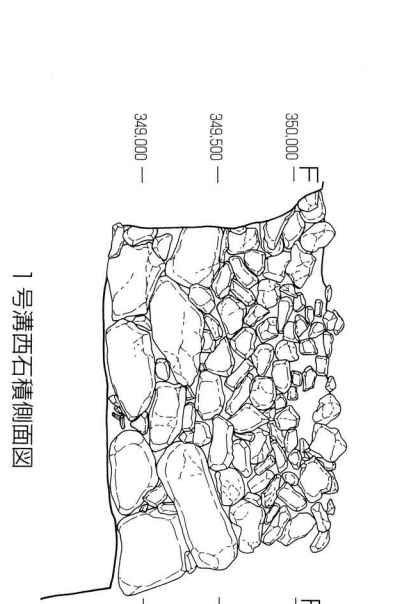
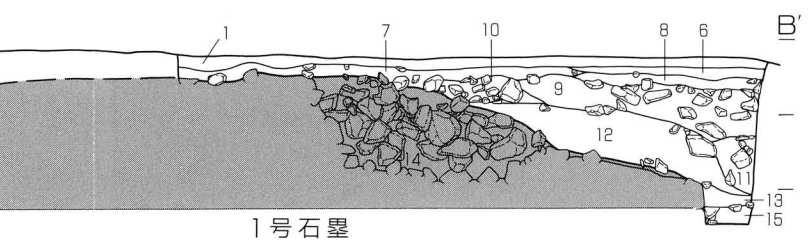
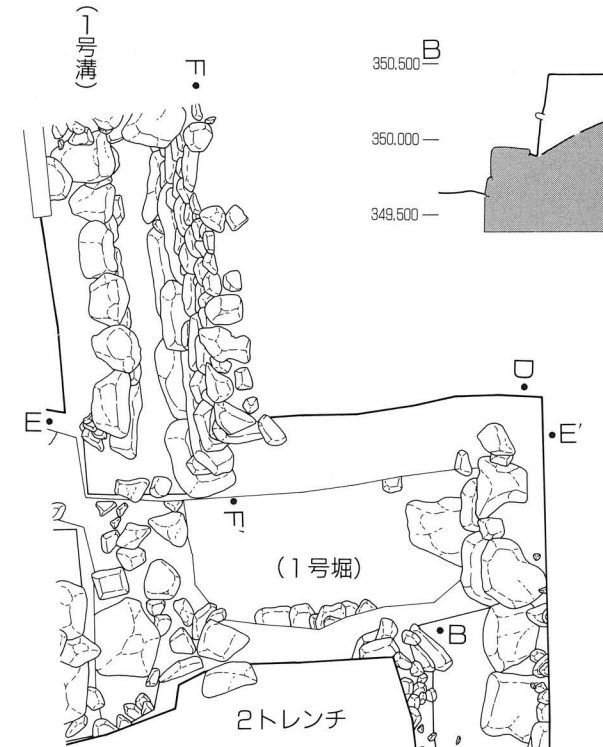


図11 大手馬出土壘トレンチ2平面図・セクション



- D-D' E-E' 土層
1. 表土層
 2. 褐灰色土層 黄褐色砂礫粒を含む。3層まで1号溝覆土。
 3. 灰色粘質土層 鉄分を多く含む。
 4. 褐灰色土層 粘性があり、しまりが無い。3号石列構築土。
 5. 混礫褐灰色土層 中礫を主体とし、小礫を含む。8層まで1号溝西側石積構築土。
 6. 混礫褐灰色土層 小礫を多く含む。
 7. 混礫褐灰色土層 小礫を多く含み、粘性が強く、しまりが無い。
 8. 褐灰色粘質土層 炭化物粒を僅かに、小礫を少々含む。
 9. 褐灰色粘質土層 小礫をやや多く、炭化物粒・焼土粒を僅かに含み、ややしまりなし。10層まで1号石墨埋没土。
 10. 灰褐色土層 炭化物粒を僅かに、砂粒をまばらに含み、粘性がある。
 11. 明褐色土層 粘性があり、しまりが無い。
 12. 明褐色土層 11層よりも砂粒がやや多くなる。
 13. 褐色土層 炭化物粒・小礫・砂粒を含み、粘性があり、しまりが無い。
 14. 褐色土層 小礫・砂粒を含み粘性があり、しまりが無い。
 15. 黄褐色土層 炭化物粒・焼土粒・遺物粒を少々、小礫・砂粒をまばらに含み、粘性があり、ややしまりがある。
 16. 黒褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を少々、小礫・砂礫粒を含む。
 17. 黄褐色土層 15層よりも小礫・砂粒を多く含む。遺物粒を含み、粘性があり、ややしまりがある。
 18. 褐色粘質土層 炭化物粒を少々、小礫をまばらに含み、しまりが無い。
 19. 暗褐色粘質土層 中礫を多く含み、粘性が強く、ややしまりが無い。15-19層まで1号掘埋土。
 20. 地山



- A-A' B-B' 土層
1. 表土層
 2. 明黄褐色砂層 5層まで盛土
 3. 明褐色砂質土層
 4. 褐灰色土層
 5. 灰褐色砂質土層
 6. 明褐色土層 耕作土
 7. 灰黄褐色土層 3号石列埋没前の表土層
 8. 黄褐色土層 小礫・灰色土粒を少々、炭化物粒を僅かに含み、粘性がある。
 9. 灰褐色土層 小礫を多く、炭化物粒を僅かに含み、粘性がありしまりが無い。
 10. 混礫明灰褐色土層 小-中礫を多く含みややしまりがある。
 11. 礫層 小-中礫を主体とする。
 12. 灰褐色土層 小礫をやや多く、炭化物粒を僅かに含み、粘性があり、しまりが無い。
 13. 暗褐色粘質土層 小礫を少々含み、ややしまりが無い。
 14. 礫層 中礫を主体とし、小-中礫の隙間に僅かに褐色土が混じる。1号石墨裏込め。
 15. 褐色土層 小礫を少々、砂粒をやや多く含み、僅かに粘質で、ややしまりが無い。1号石墨構築整地層。
 16. 褐色粘質土層 小礫をやや多く、炭化物粒・焼土粒を僅かに含みしまりがある。21層まで3号石列構築整地層。
 17. 黄褐色砂礫層 砂礫粒を主体とし、よくしまる。1号トレンチ1号石墨43層に対応するか。
 18. 褐灰色粘質土層 小礫・炭化物粒・焼土粒を少々含み、ややしまりがある。
 19. 暗灰褐色粘質土層 小礫をやや多く、炭化物粒・焼土粒を僅かに含みしまりが無い。
 20. 褐灰色粘質土層 砂礫粒を少々、炭化物粒・焼土粒を僅かに含みしまりがある。
 21. 黒褐色粘土層 小礫・炭化物粒・焼土粒を僅かに含み、粘性が強く、しまりがある。
 22. 23. 地山

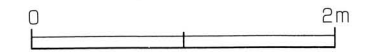
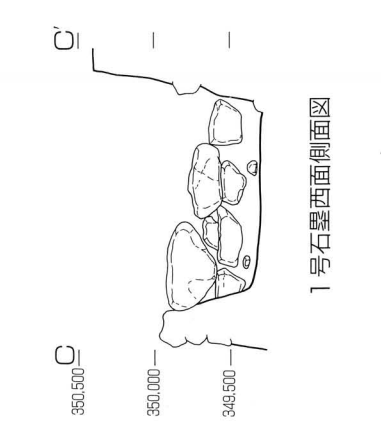
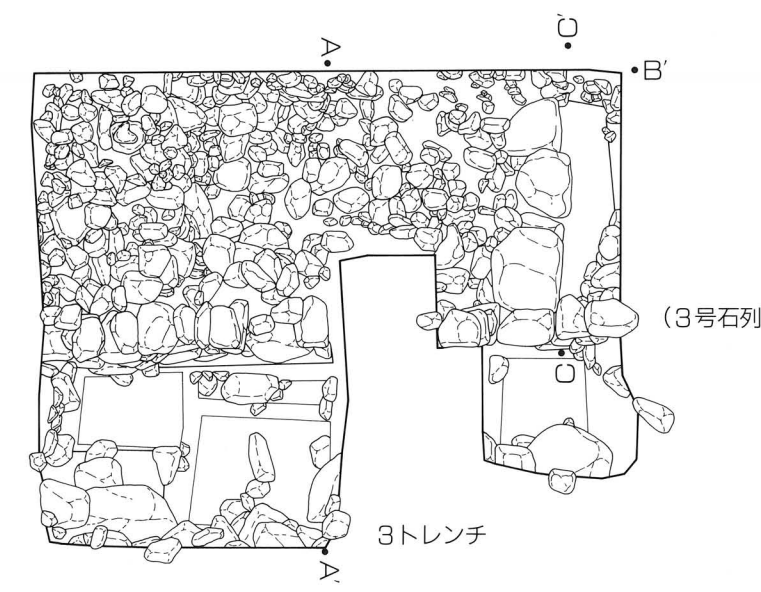
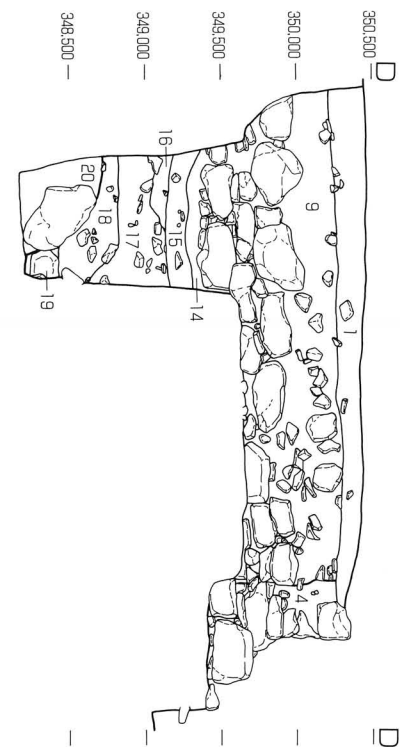


図12 大手馬出土墨トレンチ2・3平面図・セクション

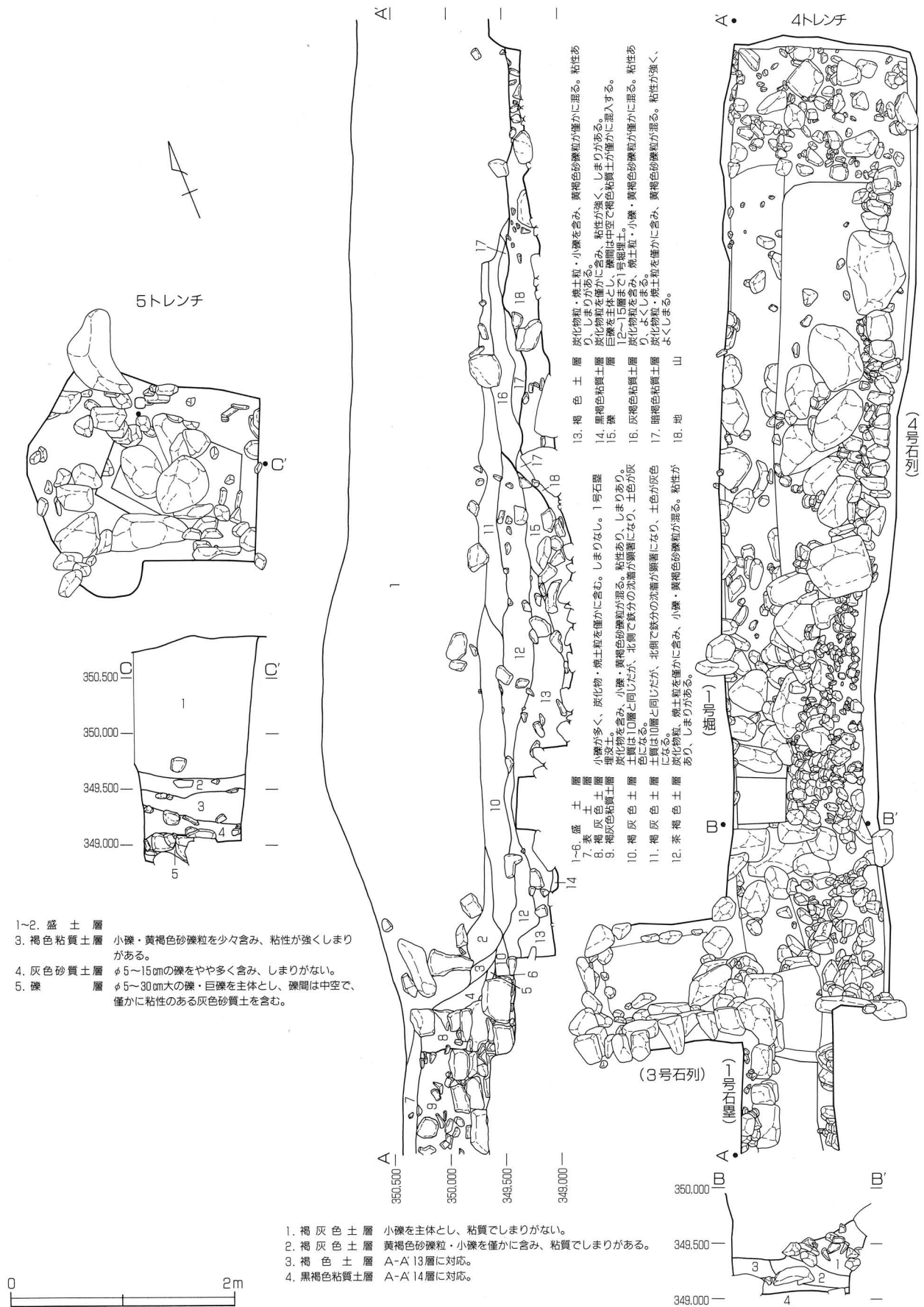


図13 大手馬出土墓トレンチ4・5平面図・セクション

2号溝 (図8・16)

トレンチ1で確認し、3号溝が近接する。幅0.4m、深さ0.3mを測り、南流する石組水路となる。土層堆積では、1号堀などを埋めた盛土整地層を掘り込んで構築されており、最終期の遺構と考えられる。東側には長径0.5m程の礫を用い、西側は小振りの礫を一部重ね積みしている。

出土遺物は、かわらけ・常滑甕・壁土がある (図26-19~24)。

3号溝 (図8・17)

上幅1.0~1.4m、深さ約0.4mを測り、2号溝と近接する。並行して南流し、盛土整地層を掘り込み構築される。周辺から壁土の出土もあり、土堀などの存在を推定すれば、2号溝と一対で理解でき、土層堆積状況から同時存在が明確である。

出土遺物は、かわらけがある (図26-25)。

4号溝 (図9・17)

トレンチ1の壁際から検出した。7・9号溝と重複し、確認した範囲で長さ13mにわたり、幅0.2m、深さ約0.2mを測る。東西方向の溝となるが、東西両端でその方向を変え、L字状に曲がるらしく、土層断面も僅かに両端が深くなっている。遺構覆土上に水田造成時の盛土が覆うため、最終期の遺構と考えられる。

5号溝 (図8・17)

トレンチ1の壁際で確認した。2号溝と近接し、確認した範囲で長さ4.5m、幅0.45m、深さ約0.22mを測る。整地層を掘り込んでいるため、最終期の遺構と考えられるが、同時期の2・3号溝との関係など全体の様相は明確ではない。

出土遺物は、かわらけがある (図26-26~28)。

6号溝 (図9・18)

トレンチ1から、4・9号溝と重複して確認した。幅約1.8m、深さ約0.3~0.4mを測り、軸線を違える溝となる。土層堆積から判断した新旧関係は、6号溝が古く、4号溝が最も新しい遺構となる。

出土遺物は、かわらけ (図26-29~31) を3点取りあげた。いずれもロクロ成形され、底部に糸切り痕を残すものとなろう。

7号溝 (図9・18)

トレンチ1から9号溝と重複して確認した。幅約0.6m、深さ約0.13mを測り、4号溝と並行し、ともに最終期の遺構と考えられる。遺物が集中していたため溝としたが、全体の様相は明確ではない。

出土遺物は、かわらけ・片口鉢・染付がある (図27-1~8)。かわらけは、ロクロ成形され、底部に糸切り痕を残すもの、二次使用され被熱により瓦質化し、溶融物が付着するものがある。

8号溝 (図8・17)

トレンチ1の壁際、3号溝と重複して確認する。確認した範囲で、幅約0.35m、深さ約0.05mを測り、4・5号溝と同軸となり、壁際から検出される。2・3号溝との関係など全体の様相は明確ではない。

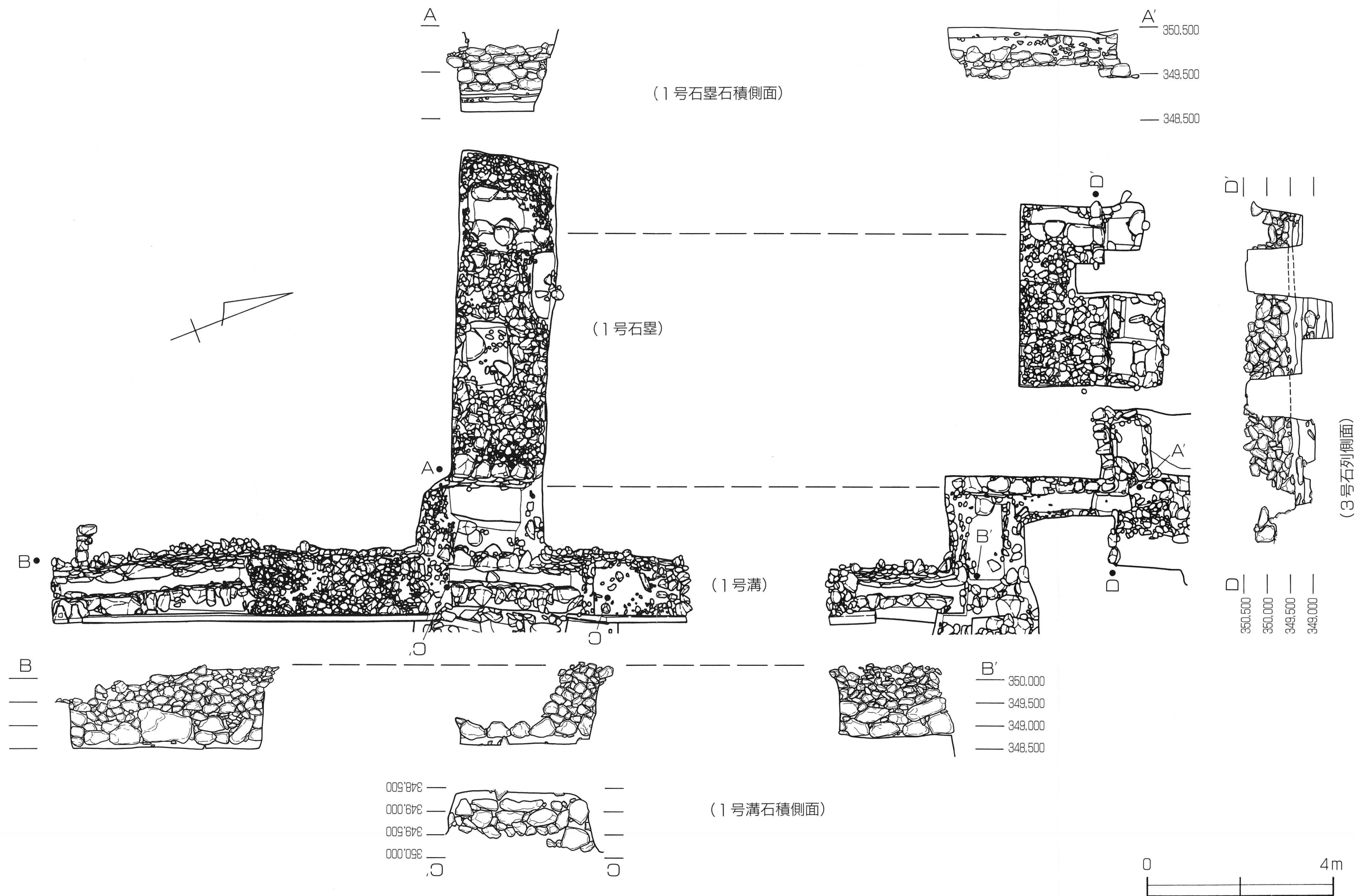


图 14 1号石壘·1号溝·3号石列石積側面图

9号溝 (図9・18)

トレンチ1から4・6・7号溝と重複し、幅約1.27m、深さ約0.26mを測る。土層状況から、埋没した6号溝を掘り直したものと考えられ、規模は縮小するものの並行して構築される。その後、4・7号溝が新たに造られている。

10号溝 (図8・17)

トレンチ1に位置し、3号溝と重複して確認された。長さ1.53m、幅0.24～33m、深さ約0.07mを測る。僅かな確認のため全体の様相は不明確である。

(6)土坑

調査では3基の土坑を確認した。今後の調査によっては見直し、変更するものもあろうが、調査時点での遺構名をそのまま使用している。

1号土坑 (図8・18)

トレンチ1に位置し、1号堀・集石状遺構が近接する。一部調査区外となるが、南北2.22m、東西2.10m、深さ0.55mを測る。底に焼土の堆積があり、大量の小礫とともに土器片が多数出土した。廃棄土坑などと考えられ、1号堀などを埋めた盛土整地層を掘り込んでおり、最終期の遺構と考えられる。

一括遺物と考えられ、多数のかわらけ片とともに・白磁皿がある (図26-1～13)。

2号土坑 (図10・19)

トレンチ1の東端で、3号土坑と重複して検出した。一部調査区外となるが、南北約0.75m、東西0.98m、深さ0.12mを測る。遺構覆土上に水田造成時の盛土が覆っているため、最終期の遺構と考えられるが、出土遺物もなく詳細は不明である。

3号土坑 (図10・19)

2号土坑と重複し、トレンチ1の東端から検出した。一部調査区外に広がるが、長軸約0.65m、短軸0.53m、深さ0.18mを測る。土層堆積から、2号土坑より古く位置づけられるが、同様に水田造成時の盛土が覆っており詳細は不明である。

(7)掘立柱建物 (図21)

トレンチ1から、3・9号溝と重複して検出した。調査区外に広がるため定かではないが、ピット12～17で構成され、南北1間、東西1間半の規模を有す。調査では、この周辺が最も重複が激しく複雑であったが、土層堆積から3・9号溝に先行すると考えられ、最も古い遺構となる。

ピット16から、かわらけ・青磁碗が出土する (図27-10～11)。

(8)ピット (図19・20)

調査では23基のピットを確認した。トレンチ2から1基確認した以外、他はトレンチ1から検出している。ピット12～17は掘立柱建物を構成するが、その他、列構成となるものも確認できなかった。掘り込みが極めて浅いもの、遺物がともなわないものなどもピットとして扱っている。

表3 ピット一覧表(大手馬出土壘)

() = 現存値 単位: cm

番号	平面形態	長軸	短軸	深さ	土層堆積	備考(出土遺物・重複関係等)
1	楕円形	78	63	19	焼土・炭化物を含む。礫が多数、混入する。	
2	略円形	46	42	20	焼土・炭化物を含む。	
3	円形	25	23	12	焼土・炭化物を含む。	
4	長楕円形	77	35	11	焼土・炭化物を含む。	ピット11と重複。
5	略円形	69	56	18	黄褐色土粒が混じる。上面に礎石様の平石あり。	
6	長楕円形	52	31	17	炭化物・黄褐色土粒が混じる。	
7	楕円形	62	39	17	炭化物・黄褐色土粒が混じる。	
8	楕円形?	80	(25)	13	炭化物が混じる。	
9	不整形円形?	(75)	(60)	12	焼土・炭化物を含む。整地層を掘り込む。	3号溝と重複。
10	略円形?	31	(19)	14		9号溝と重複。
11	楕円形?	(90)	(55)	75	柱痕跡あり。覆土直上に整地層が覆う。	ピット7・集石状遺構と重複。
12	円形?	31	(11)	49	焼土・炭化物を含む。掘立柱建物柱穴となる。	4号溝と重複。
13	不整形円形?	30	(16)	44	焼土・炭化物を含む。掘立柱建物柱穴となる。	
14	方形?	24	(14)	24	焼土・炭化物を含み、柱痕跡あり。掘立柱建物柱穴となる。	
15	?	27	?	20	焼土・炭化物を含み、柱痕跡あり。掘立柱建物柱穴となる。	4・9号溝と重複。
16	不整形円形?	56	(21)	43	焼土・炭化物を含む。掘立柱建物柱穴となる。	3号溝と重複。
17	円形?	49	(15)	39	焼土・炭化物を含み、柱痕跡あり。掘立柱建物柱穴となる。	3号溝と重複。
18	略円形?	22	(9)	22	焼土・炭化物を含む。	7・9号溝と重複するか。
19	略円形	25	20	3	焼土・炭化物を含む。	
20	円形	23	22	24	焼土・炭化物を含み、柱痕跡(?)あり。	
21	円形	19	15	14		6・9号溝と重複。
22	略円形?	33	(19)	12		8号溝と重複。
23	不整形円形	90	78	72	焼土・炭化物を含む。	

(9)遺構外遺物(図27-12~40・図28・29)

整地・盛土層出土など遺構にともなわない遺物を取りあげる。多くの遺物が出土しているが、大部分はかわらけ片であり、陶磁器・石製品も僅かに見られた。

水田造成土(図27-12~15)・整地層(図27-16~19)から出土したものをあげた。整地層は最終期の遺構築造に際し行われ、水田造成は館廃絶後に実施され、両者には時間差が存在している。かわらけ・捏鉢・白磁皿・青磁碗・灰釉端反皿などが出土するが、遺物から時期差を判断するのは困難である。

図27-20~24は1号石壘基底層の直上より出土したものである。かわらけ・常滑甕が出土し、館廃絶直後の遺物と考えられる。

図27-25以下、各トレンチの一括出土遺物である。かわらけは全てロクロ成形され、底部に糸切り痕を残すものであり、二次的に使用され、ススの付着がみられるもの(図27-25・37・図28-18)、溶融物が付着し被熱で瓦質化しているもの(図27-31)がある。他に、捏鉢・白磁端反皿・青磁碗・染付皿・瀬戸美濃天目・灰釉丸碗・丸皿・常滑甕などがある。石製品は全て、表採遺物であった。

第3節 小 括

調査では多くの遺構・遺物が確認された。検出した遺構は重複関係あるいは盛土整地状況から何時期かの変遷が捉えられている。最も重複が激しかった掘立柱建物跡周辺では、掘立柱建物→9号溝→整地・3号溝構築となり、盛土整地後に構築された遺構が、最終期と位置づけられる。これまで主郭部及び周辺曲輪の調査により、館跡の6時期の変遷が把握されているが、この地点では3段階程度の変遷が想定できる。個々の遺構ごとに観察すれば9号溝に先行する7号溝も存在し、複雑な様相となる。館の変遷と個々の遺構変遷との整合作業が急務となる。

最終期の遺構は盛土整地を実施して構築されているが、整地層は石塁基底部から東側へ約23mにわたり広範囲に認められた。調査では、重複して検出されていた遺構が、トレンチ東側で極端に少なく散見する状態となる。土層堆積では、こうした遺構空白地に盛土整地が及んでおらず、すりあわせている状況であった。今後、大手という空間の中で、土塁など築造物の存在も推定しながら検討していかなければならない。

非常に大まかであるが、この地点は盛土整地前後の段階で様相が一変する。最終期、幅約10mの規模を有し、馬出空間を画していた堀と土塁は、削平を受けて埋め戻された。土塁基底層を利用して構築された石積は、1mほど残存していたが、高さ2m程度の低石垣であり、馬出土塁は礫石のみによる構築物へと変化している。前面には通路と推定できる約2mの空間を隔て1号溝が並行する。その他、2～5、7号溝が同時期と考えられるが、いずれも石塁に平行もしくは直交し、計画的な設計配置が推定される。

石塁に上部構築物が存在したか不明であるが、石塁基底部の幅約5.6m、構築角度を78度、高さ1.8m(=1間)と推定すれば、天端幅は約4.8m(=2間4尺)となる。両側に2尺ずつ控えをとり、幅2間の建物が上部構築物として復元できる。調査で石塁際に排水側溝が確認されなかったことから、雨水処理に際し、石塁幅に庇が納まる設計と推定される。石塁内部に礫石のみが充填されているのは、雨水が石塁内部へ浸透するように構築したためと考えられる。調査期間中にいただいた多くの方々のご指摘・ご教示から推定復元を試みたが、今後の検討課題となろう。

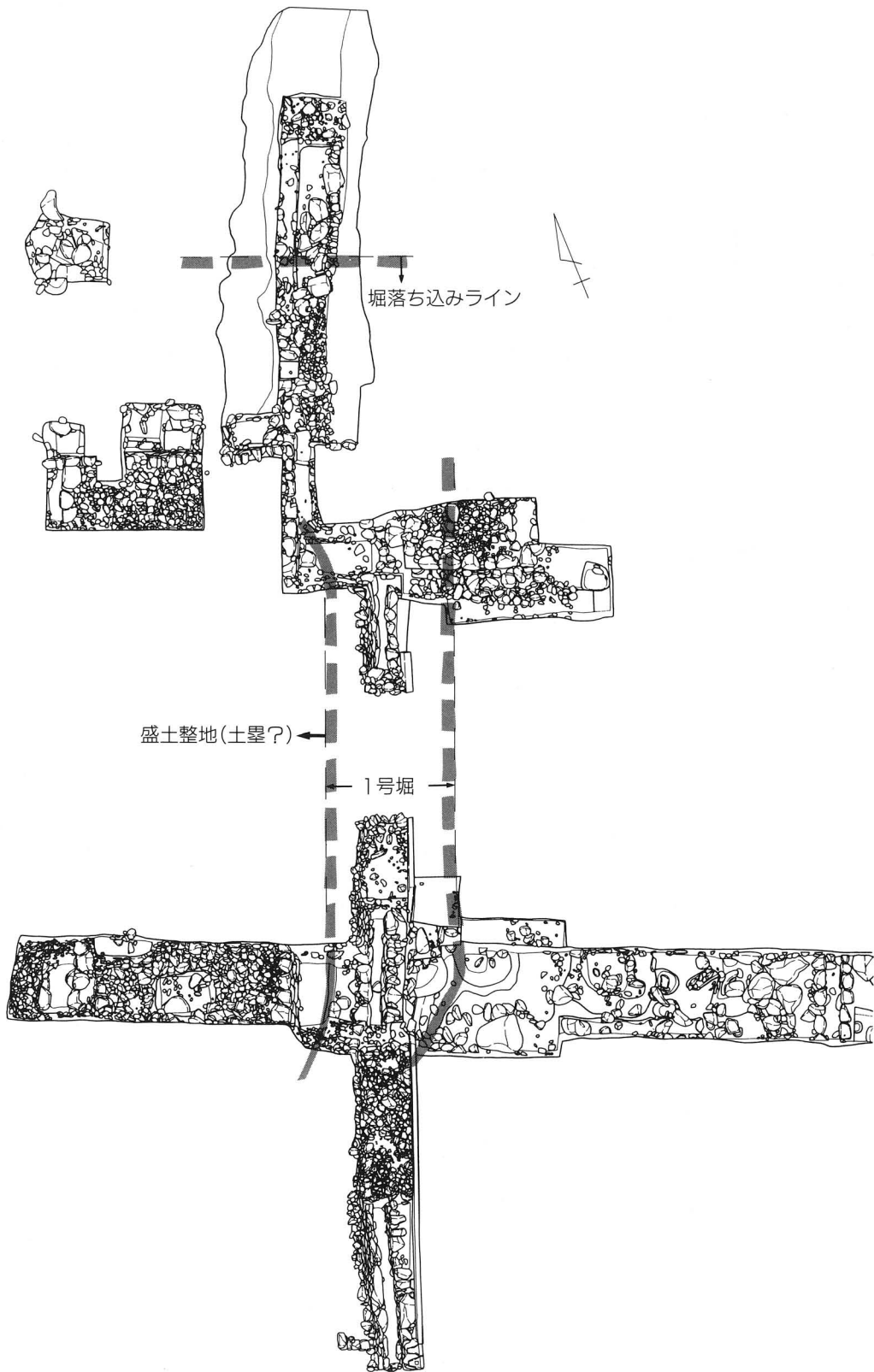


図15 1号堀推定範囲

0 4m

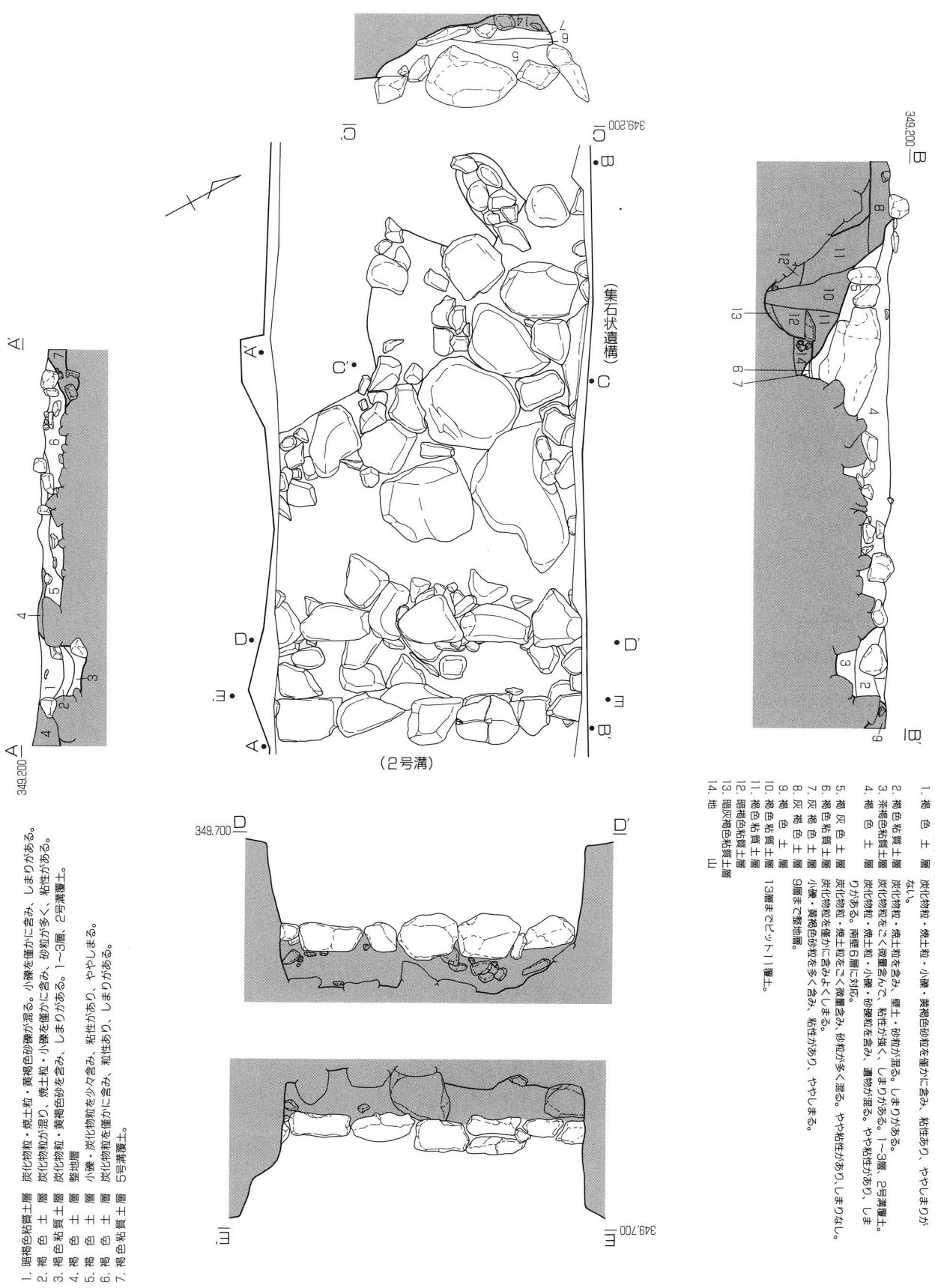
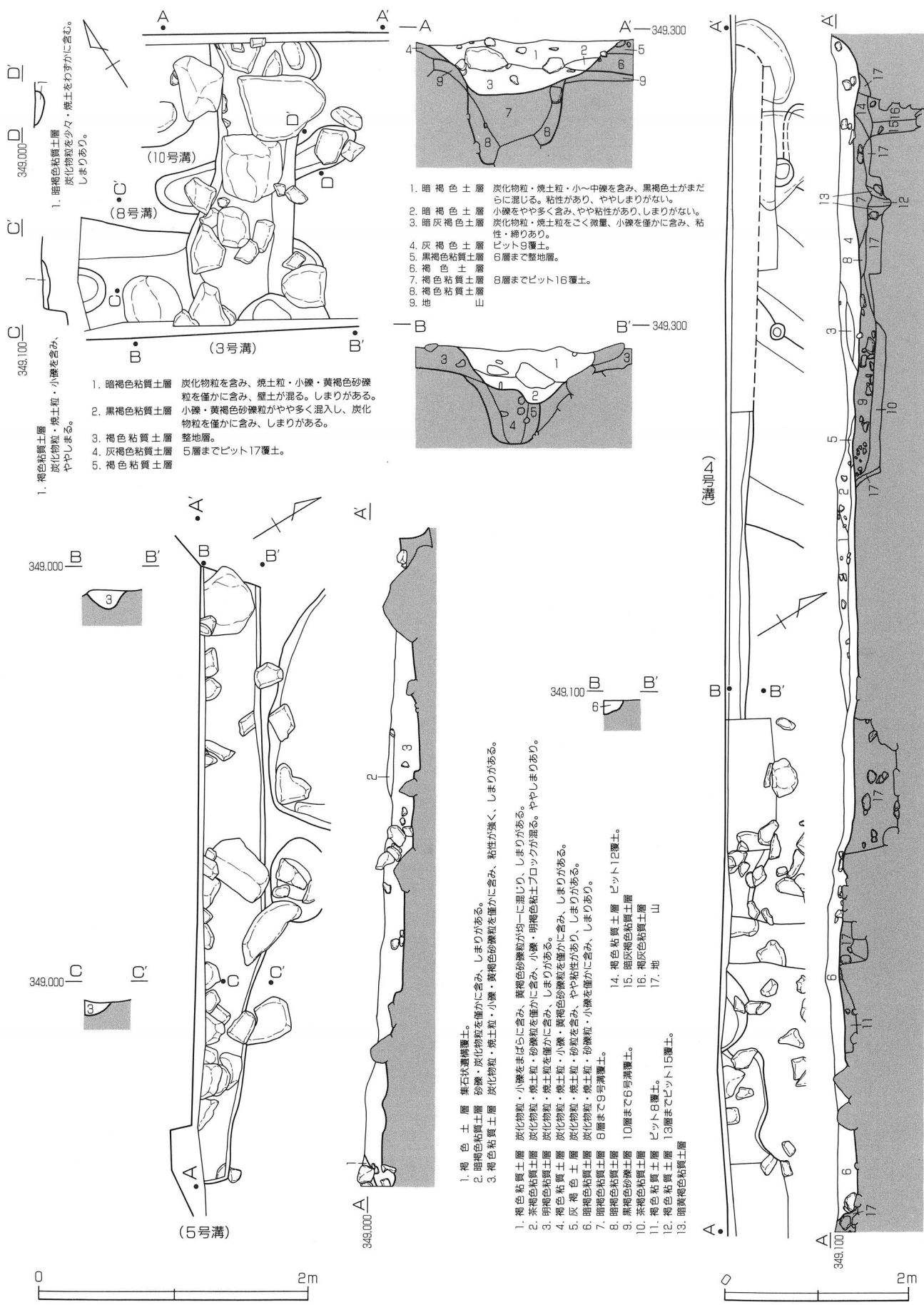


図16 集石状遺構・2号溝平面図・セクション

1. 暗褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒・黄褐色砂礫が混る。小礫を僅かに含み、しまりがある。
2. 褐色土層 炭化物粒が混り、焼土粒・小礫を僅かに含み、砂粒が多く、粘性がある。
3. 褐色粘質土層 炭化物粒・黄褐色砂を多量に含み、しまりがある。1~3層、2号溝覆土。
4. 褐色土層 整地層
5. 褐色土層 小礫・炭化物粒を少々含み、粘性があり、ややしまる。
6. 褐色土層 炭化物粒を僅かに含み、粘性あり、しまりがある。
7. 褐色粘質土層 5号溝覆土。

- セクションB-B'、C-C'土層
1. 褐色土層 炭化物粒・焼土粒・小礫・黄褐色砂礫を僅かに含み、粘性あり、ややしまりが無い。
 2. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を多量に含み、しまりがある。
 3. 褐色粘質土層 炭化物粒を多く含み、粘性が強く、しまりがある。1~3層、2号溝覆土。
 4. 褐色土層 炭化物粒・焼土粒・小礫・砂礫を多量に含み、粘性が強く、しまりがある。9層と対峙。
 5. 褐色土層 炭化物粒を僅かに含み、しまりがある。
 6. 褐色粘質土層 炭化物粒を多量に含み、粘性が強く、しまりがある。
 7. 反褐色土層 小礫・黄褐色砂礫を多量に含み、粘性があり、ややしまる。
 8. 反褐色土層 9層まで整地層。
 9. 褐色土層 13層までベントリ層土。
 10. 褐色粘質土層
 11. 褐色粘質土層
 12. 暗褐色粘質土層
 13. 暗褐色粘質土層
 14. 地



349,100
349,000
349,000
349,000

349,000
349,100
349,000

0 2m

1. 暗褐色粘質土層
炭化物粒を少々・焼土をわずかに含む。
しまりあり。

(10号溝)

(8号溝)

(3号溝)

1. 褐色粘質土層
炭化物粒・焼土粒・小礫を含み、
炭化物粒を少々・焼土をわずかに含む。
しまりあり。

2. 暗褐色粘質土層
小礫・黄褐色砂礫粒がやや多く混入し、炭化物粒を僅かに含む、しまりがある。

3. 褐色粘質土層
整地層。

4. 灰褐色粘質土層
5層までピット17覆土。

5. 褐色粘質土層

349,300
349,300

1. 暗褐色土層
炭化物粒・焼土粒・小へ中礫を含み、黒褐色がまだらに混じる。粘性があり、ややしまりがない。

2. 暗褐色土層
小礫をやや多く含む、やや粘性があり、しまりがない。

3. 暗灰褐色土層
炭化物粒・焼土粒をごく微量、小礫を僅かに含む、粘性・締りあり。

4. 灰褐色土層
ピット9覆土。

5. 黒褐色粘質土層
6層まで整地層。

6. 褐色土層
8層までピット16覆土。

7. 褐色粘質土層

8. 褐色粘質土層

9. 地

349,100

1. 褐色土層
葉石状遺構覆土。

2. 暗褐色粘質土層
砂礫・炭化物粒を僅かに含む、しまりがある。

3. 褐色粘質土層
炭化物粒・焼土粒・小礫・黄褐色砂礫粒を僅かに含む、粘性が強く、しまりがある。

4. 暗褐色粘質土層
炭化物粒・焼土粒・小礫・黄褐色砂礫粒が均一に混じり、しまりがある。

5. 暗褐色粘質土層
炭化物粒・焼土粒・小礫・黄褐色砂礫粒を僅かに含む、しまりがある。

6. 暗褐色粘質土層
炭化物粒・焼土粒・砂礫を含み、しまりがある。

7. 暗褐色粘質土層
炭化物粒・焼土粒・砂礫を僅かに含む、しまりあり。

8. 暗褐色粘質土層
8層まで9号溝覆土。

9. 暗褐色粘質土層
10層まで6号溝覆土。

10. 暗褐色粘質土層
ピット8覆土。

11. 暗褐色粘質土層
ピット15覆土。

12. 暗褐色粘質土層
13層までピット15覆土。

13. 暗黄褐色粘質土層

14. 褐色粘質土層
ピット12覆土。

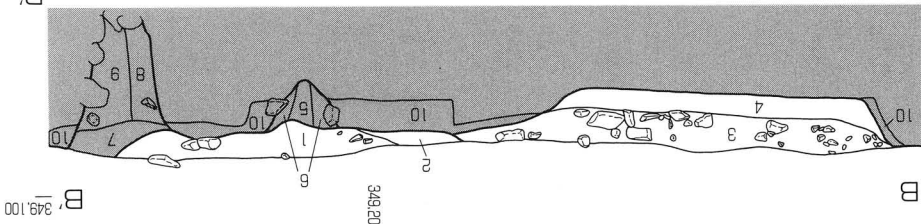
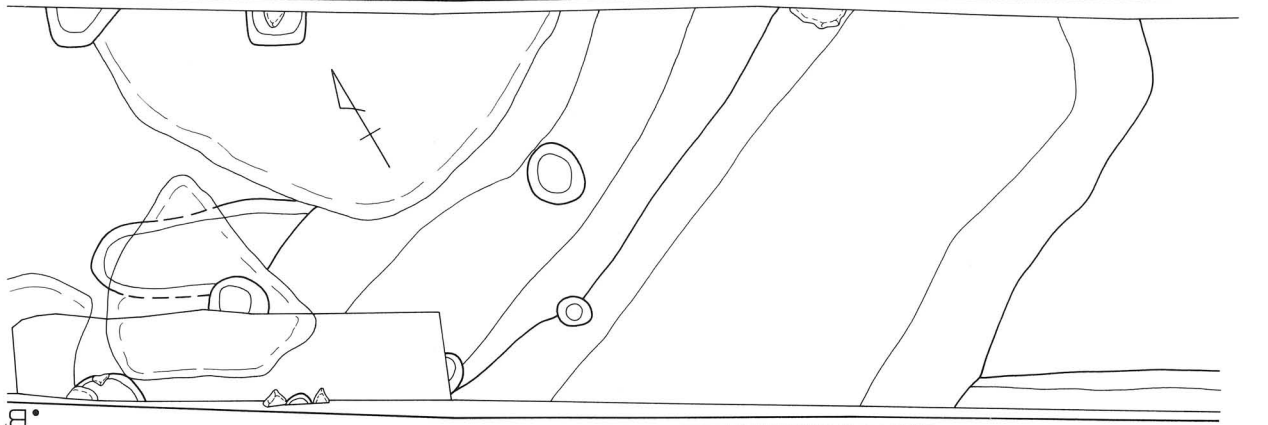
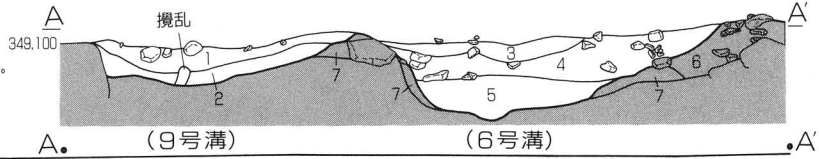
15. 暗灰褐色粘質土層

16. 暗灰褐色粘質土層

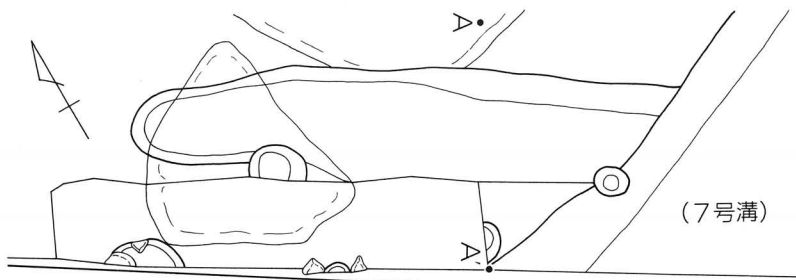
17. 地

図17 3・5・8・10号溝平面図・セクション

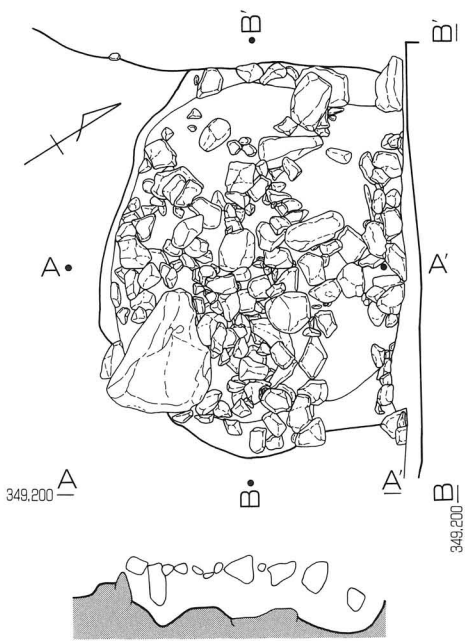
1. 褐色土層 炭化物粒・焼土粒・焼土塊をやや多く含み、小礫が混る。粘性がありやしまりがない。
2. 褐色土層 小礫・砂礫粒がやや多く、炭化物粒を僅かに含む。
3. 暗褐色土層 炭化物粒・焼土粒を含み、小礫が多く混る。粘性があり、ややしまる。
4. 黒褐色砂礫土層 小〜中礫を主体とし、粘性があり、ややしまる。
5. 茶褐色粘質土層 粗砂と細砂が互層となり、粘性が強く、よくしまる。
- 6-7. 地 山



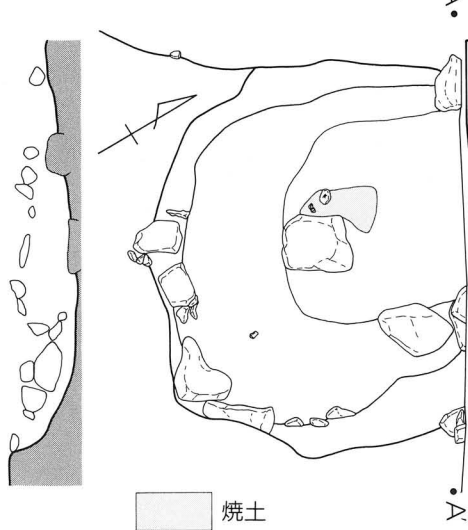
1. 暗褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を含み、小礫・黄褐色砂礫粒が多く混る。
2. 暗褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を含み、砂礫粒がまばらに混る。やしまりがない。
3. 黒褐色砂礫土層 北壁4層に同じ。
4. 茶褐色粘質土層 北壁5層に同じ。
5. 褐色粘質土層 6層までピット15覆土。
6. 暗黄褐色粘質土層
7. 褐色粘質土層 9層までピット12覆土。
8. 暗灰褐色粘質土層
9. 褐色粘質土層
10. 地 山



(1号土坑検出状況)



(1号土坑完掘状況)



1. 灰褐色土層 1号覆土。
2. 灰褐色土層 炭化物粒・焼土粒を含み、小礫・砂礫粒がまばらに混る。やや粘性あり。
3. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒・小礫をやや多く含み、しまりがある。かわらけが多量に混入。
4. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒・小礫・明褐色粘土ブロックを含み、やしまりがない。
5. 茶褐色粘質土層 砂礫粒をやや多く含み、炭化物粒・焼土粒が混りに混る。やしまりがない。
6. 褐色粘質土層 小礫・砂礫粒がやや多く、炭化物粒・焼土粒を僅かに含む。しまりがある。

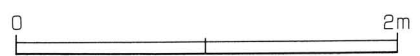
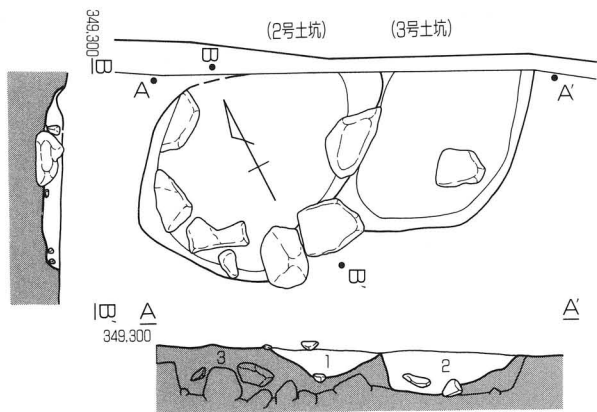
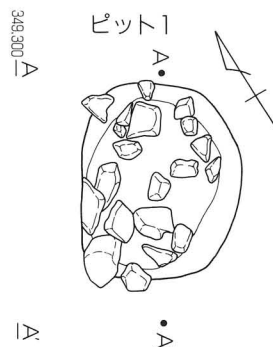


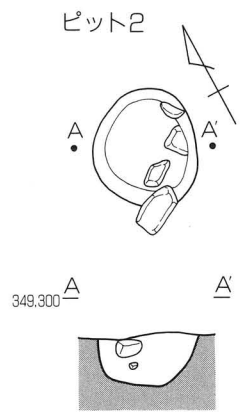
図 18 6・7・9号溝、1号土坑平面図・セクション



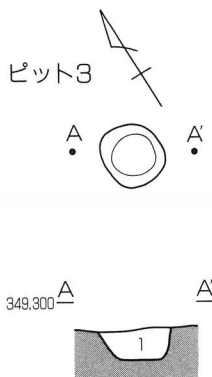
1. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒・小礫を少々含み、よくしまる。
2. 褐色粘質土層 焼土粒を僅かに、小礫・黄褐色土ブロックを含みよくしまる。
3. 地 山



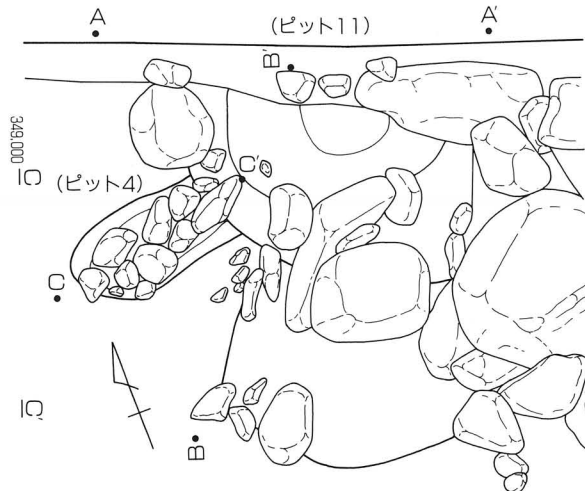
1. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を僅かに含み、しまりがある。



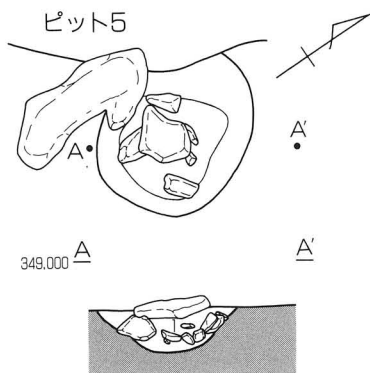
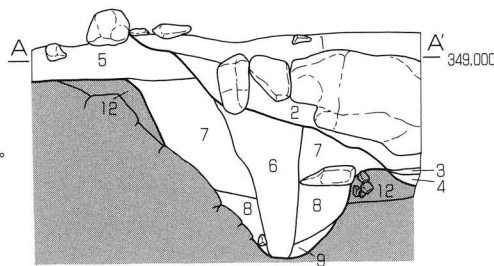
1. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を少々含みしまりがある。



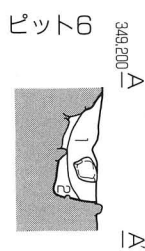
1. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒・小礫を少々含み、しまりがある。



1. 褐色土層 4層まで集石状遺構覆土。
2. 灰色土層
3. 褐色粘質土層
4. 灰褐色土層 整地層
5. 灰褐色土層 花崗岩風化礫を多く含み、小礫を僅かに含む。粘性が強くややしまる。
6. 褐色粘質土層 小礫・黄褐色砂礫粒を少々含み、よくしまる。
7. 褐色粘質土層 炭化物粒・小礫・黄褐色砂礫粒を僅かに含み、よくしまる。
8. 暗褐色粘質土層 粘性が強くよくしまる。
9. 暗灰褐色粘質土層 黄褐色砂礫粒を少々含み、よくしまる。
10. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を僅かに含み、しまりがある。
11. 褐色粘質土層 ピット4覆土。
12. 地 山



1. 褐色粘質土層 黄褐色砂礫粒をまばらに含み、よくしまる。



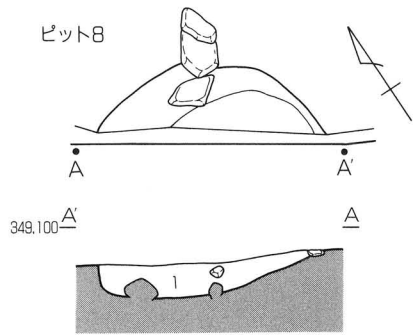
1. 灰褐色土層 炭化物・小礫・黄褐色砂礫粒をまばらに含み粘性があり、ややしまりがある。
2. 暗褐色粘質土層 黄褐色砂礫粒を少々含み、粘性が強い。



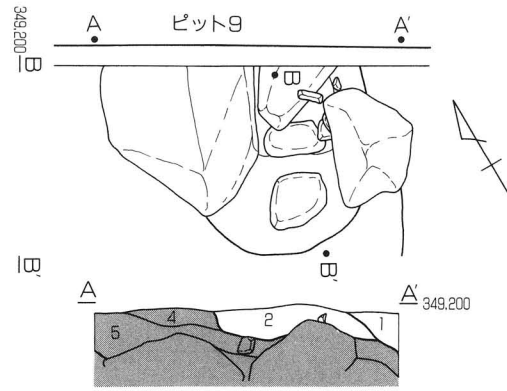
1. 褐色粘質土層 炭化物粒・黄褐色土ブロックを僅かに含み、少礫が混る。粘性が強い。
2. 黒褐色粘質土層 炭化物粒を僅かに含み、小礫が混る。粘性が強くしまりがある。



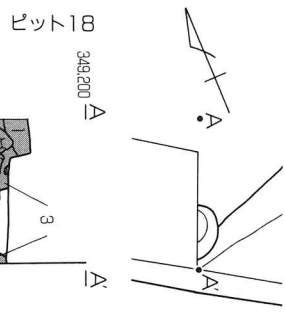
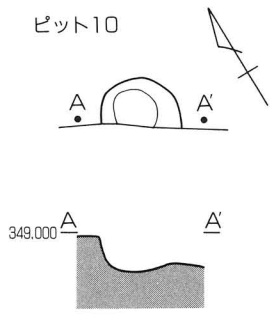
図 19 2・3号土坑、ピット1~7・11平面図・セクション



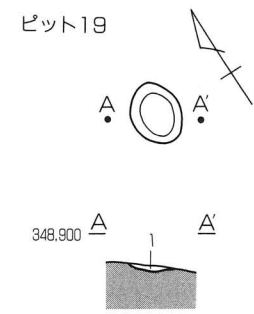
1. 褐色粘質土層 小礫をやや多く、炭化物粒・明褐色粘土ブロックを僅かに含み、粘性が強く、ややしまる。



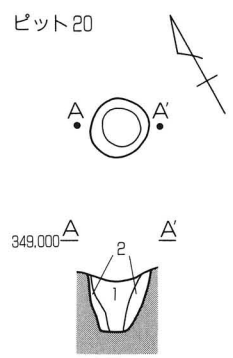
1. 暗褐色土層 3号溝覆土。
 2. 灰褐色土層 炭化物粒・焼土粒を含み、小礫が僅かに混る。粘性があり、ややしまりがない。
 3. 暗褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を含み、遺物が混る。
 4. 黒褐色粘質土層 5層まで整地層。
 5. 褐色土層



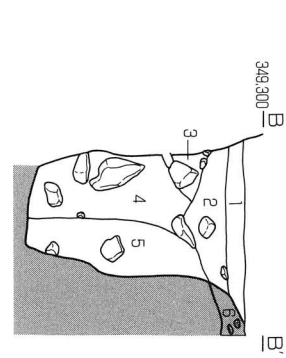
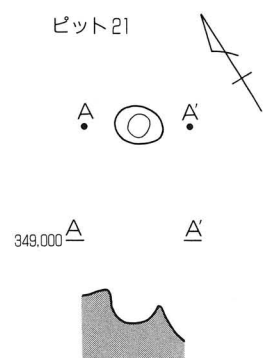
1. 黒褐色粘質土層 7号溝覆土。
 2. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒・小礫を少々含み、粘性が強く、ややしまりがある。
 3. 褐色粘質土層 9号溝覆土。
 4. 地 山



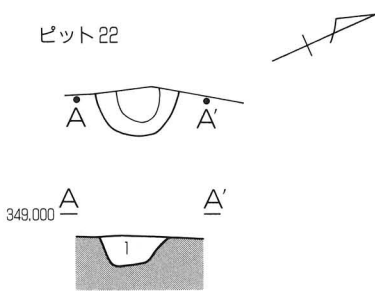
1. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を僅かに含み、遺物が混る。



1. 暗褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を含み、小礫が僅かに混る。
 2. 褐色粘質土層 炭化物粒・黄褐色土粒を僅かに含み、ややしまる。



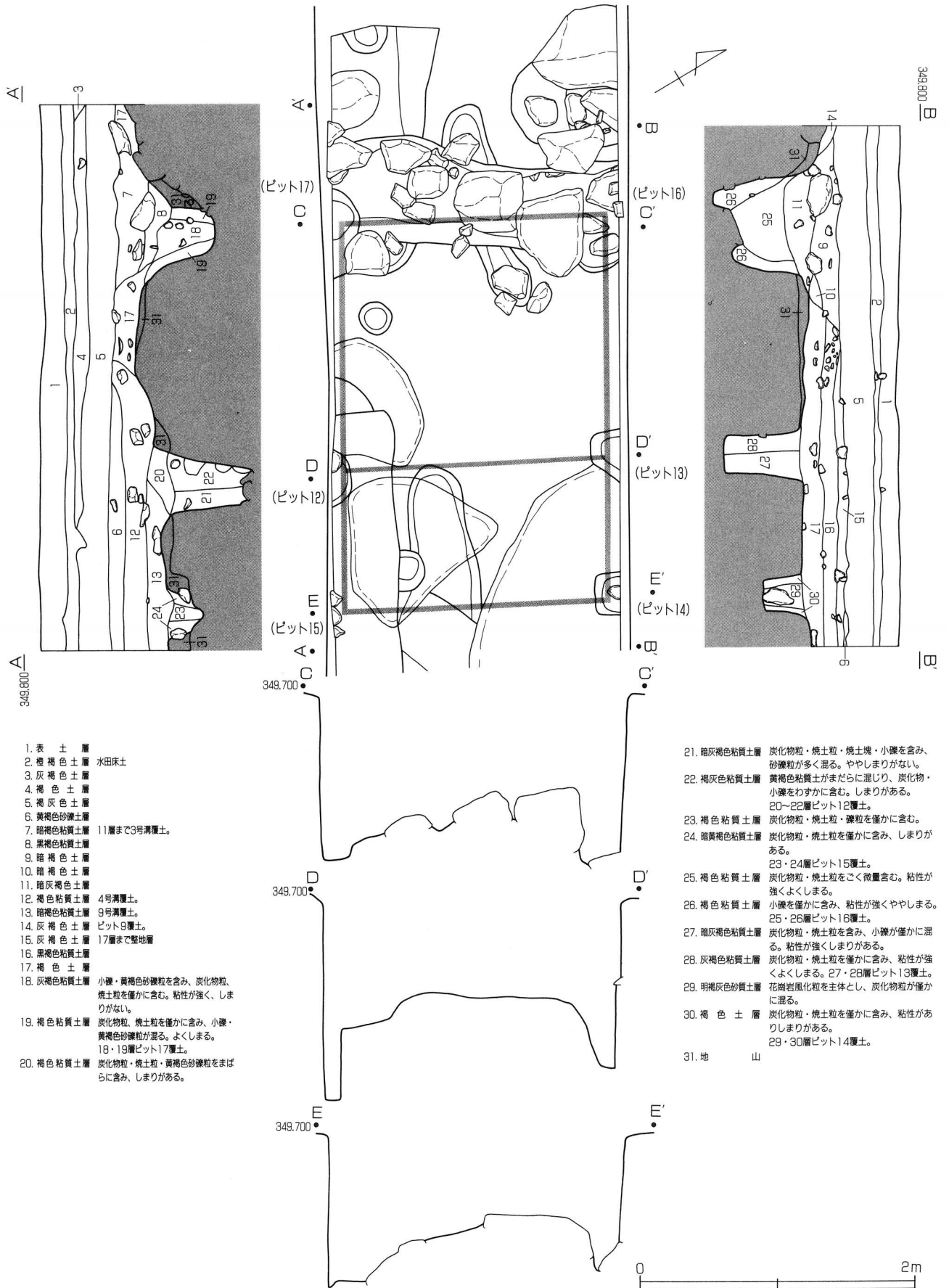
1. 茶褐色粘質土層 砂礫・褐色粘土ブロックを多く含み、炭化物粒が僅かに混る。よくしまる。
 2. 灰褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒・小礫を僅かに含む。
 3. 暗褐色粘質土層 小礫をやや多く含み、しまりがある。
 4. 褐灰色粘質土層 砂礫粒・砂粒を多く含み、小礫が混る。粘性が強い。
 5. 褐灰色土層 砂礫粒・砂粒をやや多く含み、小礫が僅かに混る。粘性があり、しまりがある。
 6. 暗褐灰色粘質土層 整地層。
 7. 地 山



1. 褐灰色粘質土層 小礫を少々含み、粘性が強くしまりがある。



図 20 ピット8~10、18~23平面図・セクション・エレベーション



- 1. 表土層
- 2. 褐褐色土層 水田土
- 3. 灰褐色土層
- 4. 褐色土層
- 5. 褐灰色土層
- 6. 黄褐色砂礫土層
- 7. 暗褐色粘質土層 11層まで9号溝覆土。
- 8. 黒褐色粘質土層
- 9. 暗褐色土層
- 10. 暗褐色土層
- 11. 暗灰褐色土層
- 12. 褐色粘質土層 4号溝覆土。
- 13. 暗褐色粘質土層 9号溝覆土。
- 14. 灰褐色土層 ビット9覆土。
- 15. 灰褐色土層 17層まで整地層
- 16. 黒褐色粘質土層
- 17. 褐色土層
- 18. 灰褐色粘質土層 小礫・黄褐色砂礫粒を含み、炭化物粒、焼土粒を僅かに含む。粘性が強く、しまりがない。
- 19. 褐色粘質土層 炭化物粒、焼土粒を僅かに含み、小礫・黄褐色砂礫粒が混る。よくしまる。18・19層ビット17覆土。
- 20. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒・黄褐色砂礫粒をまばらに含み、しまりがある。

- 21. 暗灰褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒・焼土塊・小礫を含み、砂礫粒が多く混る。ややしまりがない。
- 22. 褐灰色粘質土層 黄褐色粘質土がまだらに混じり、炭化物・小礫をわずかに含む。しまりがある。20~22層ビット12覆土。
- 23. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒・礫粒を僅かに含む。
- 24. 暗黄褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を僅かに含み、しまりがある。23・24層ビット15覆土。
- 25. 褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒をごく微量含む。粘性が強くよくしまる。
- 26. 褐色粘質土層 小礫を僅かに含み、粘性が強くやしまる。25・26層ビット16覆土。
- 27. 暗灰褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を含み、小礫が僅かに混る。粘性が強くしまりがある。
- 28. 灰褐色粘質土層 炭化物粒・焼土粒を僅かに含み、粘性が強くよくしまる。27・28層ビット13覆土。
- 29. 明褐灰色砂質土層 花崗岩風化粒を主体とし、炭化物粒が僅かに混る。
- 30. 褐色土層 炭化物粒・焼土粒を僅かに含み、粘性がありしまりがある。29・30層ビット14覆土。
- 31. 地山

図 21 掘立柱建物平面図・セクション

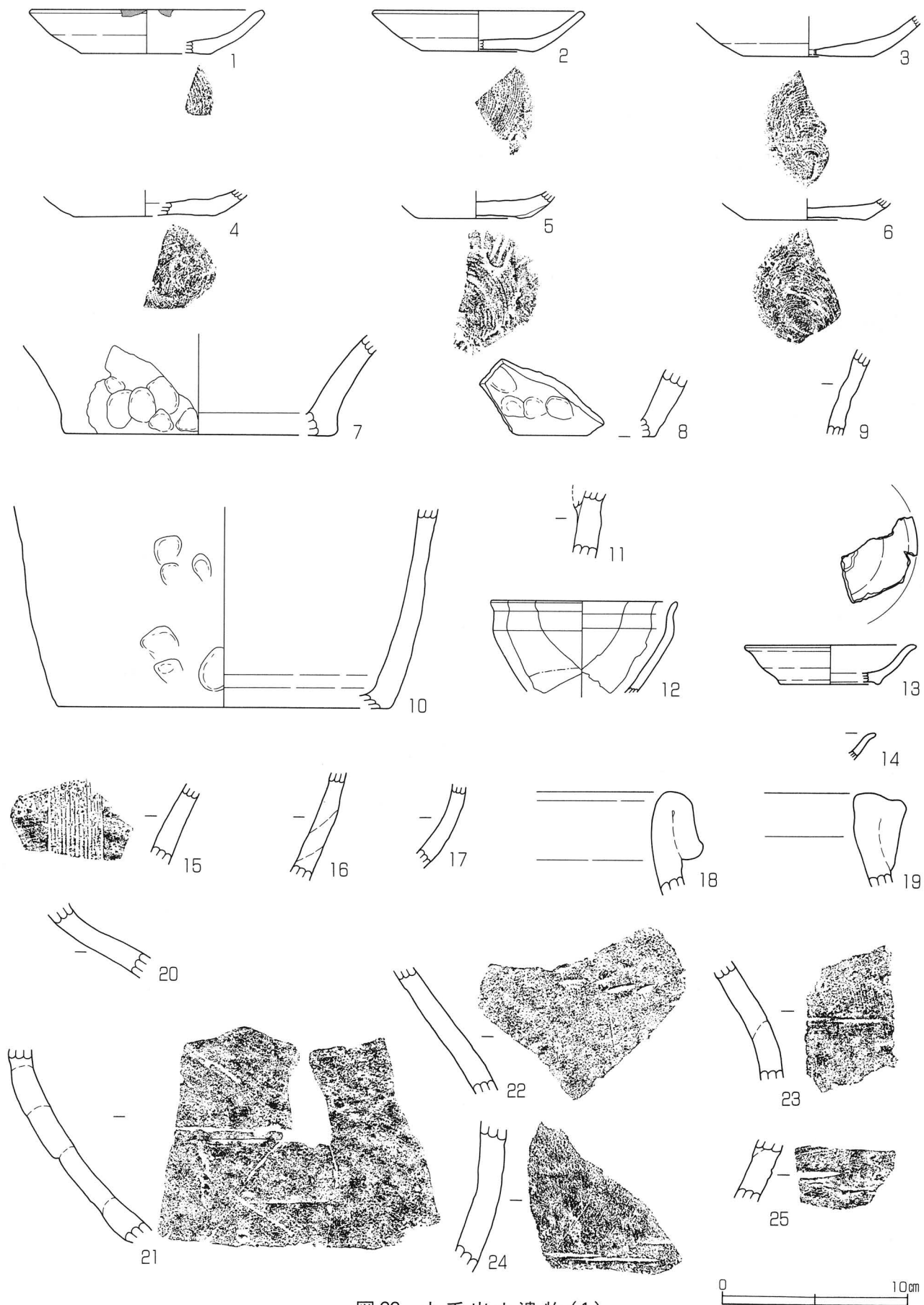


图22 大手出土遺物(1)

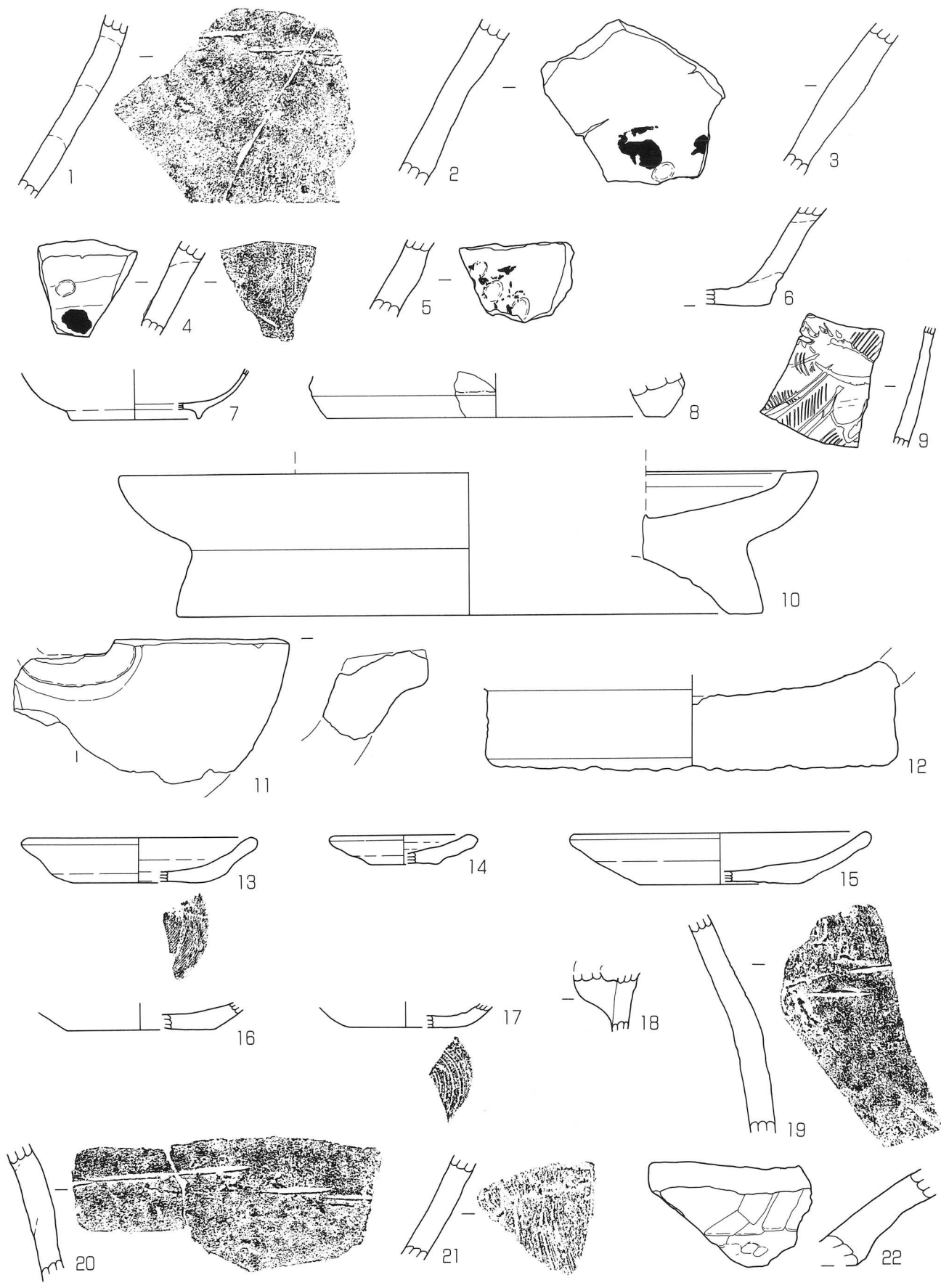


图23 大手出土遺物(2)

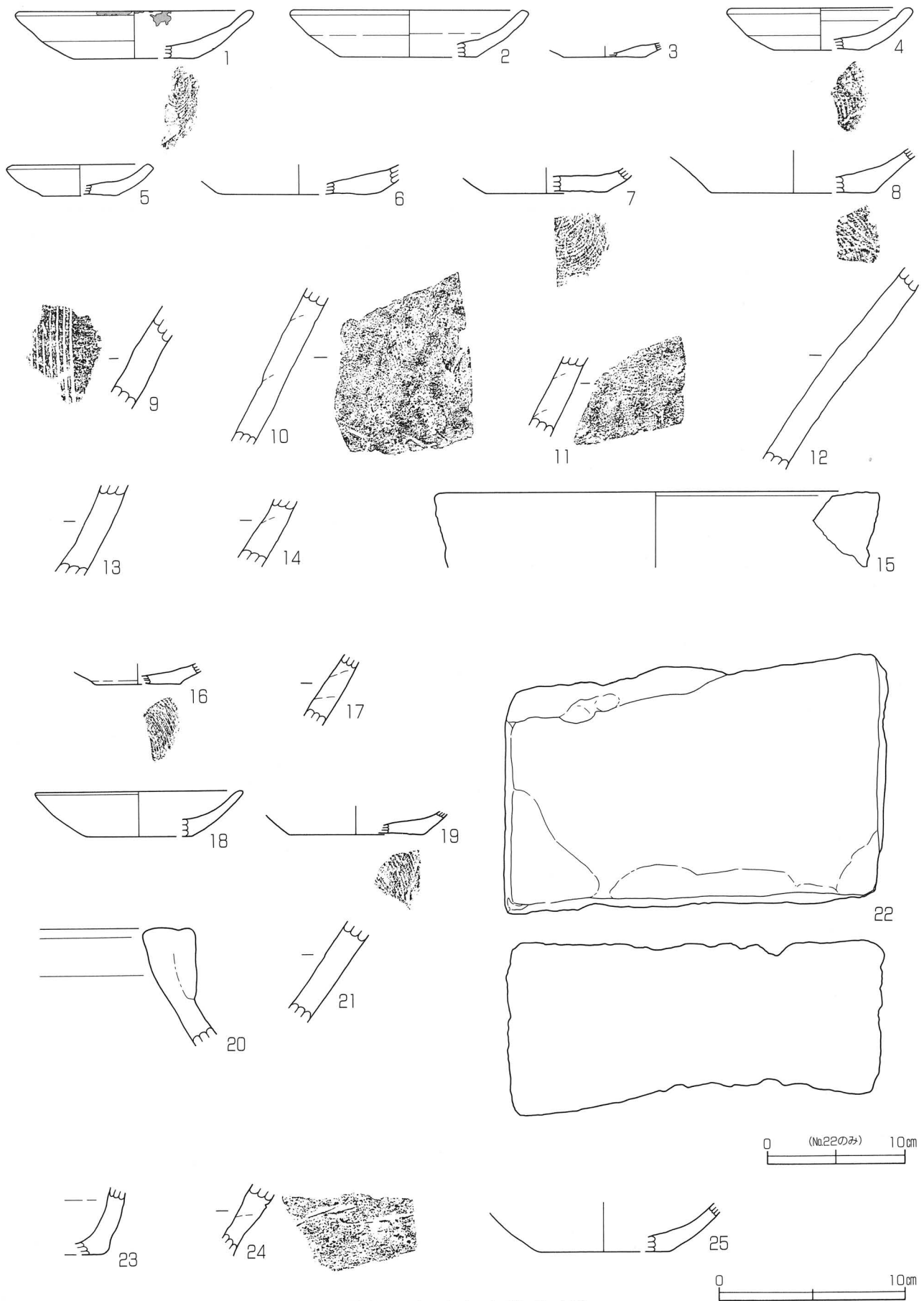


図24 大手出土遺物(3)

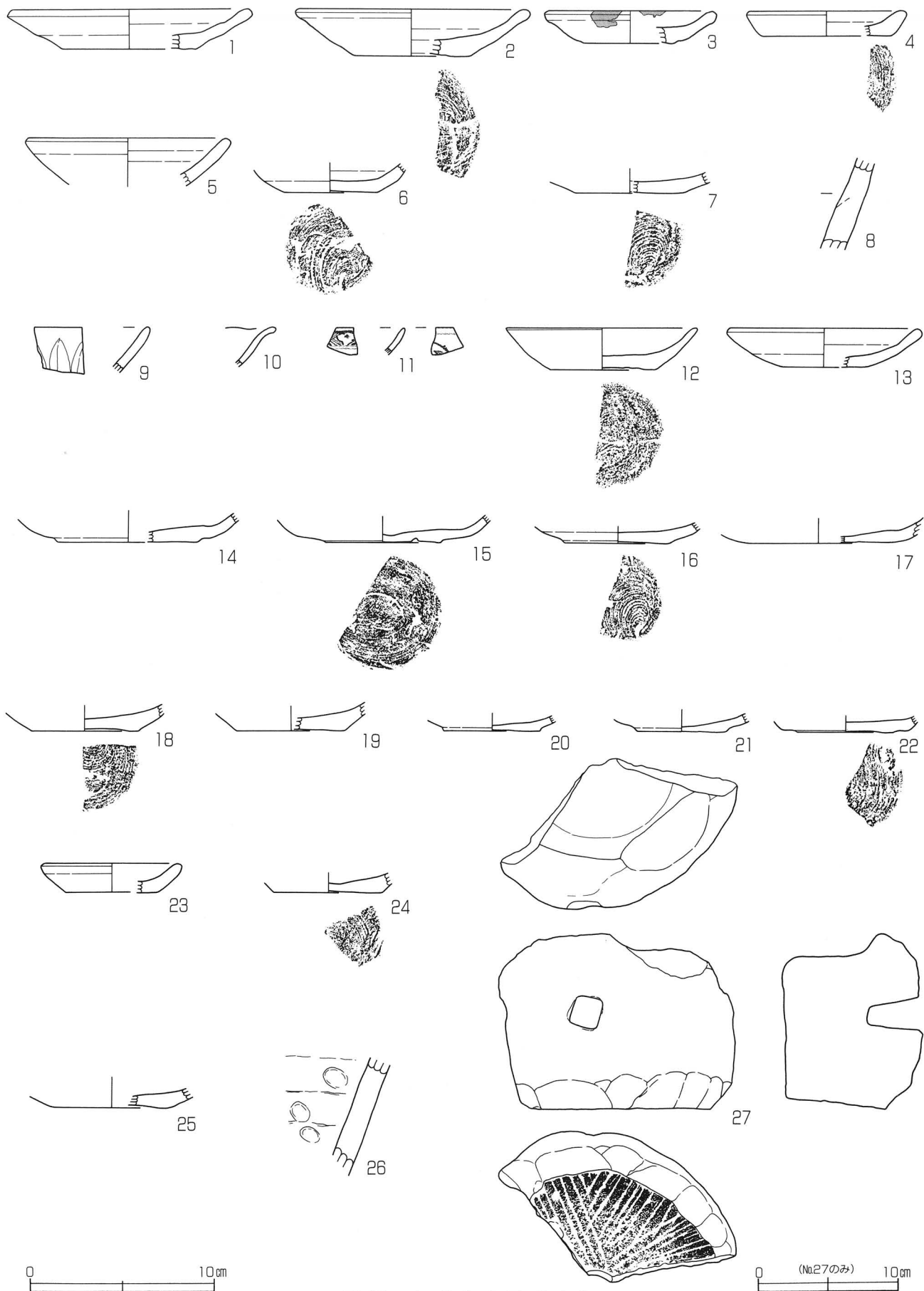


図25 大手出土遺物(4)

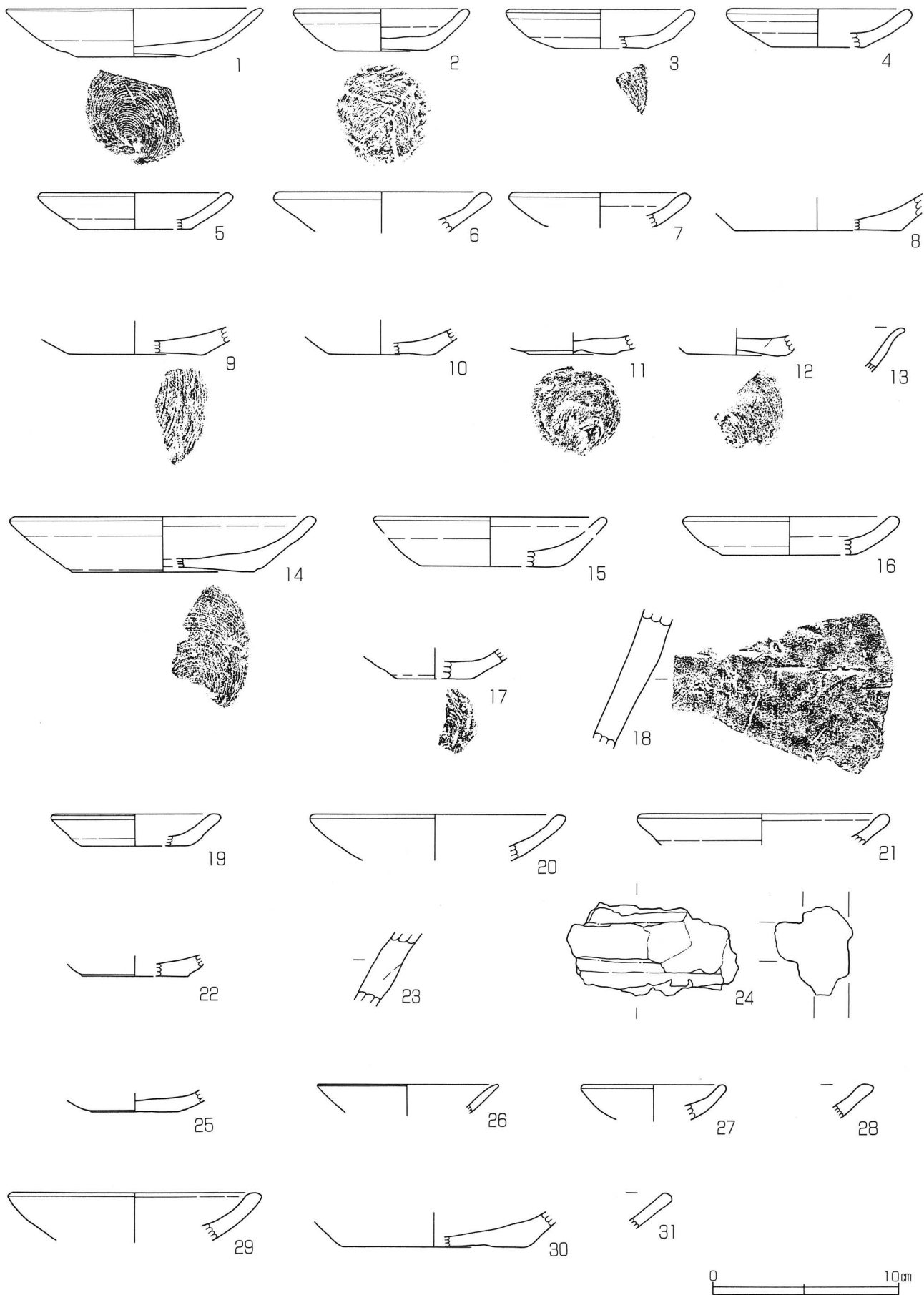


图26 大手出土遺物(5)

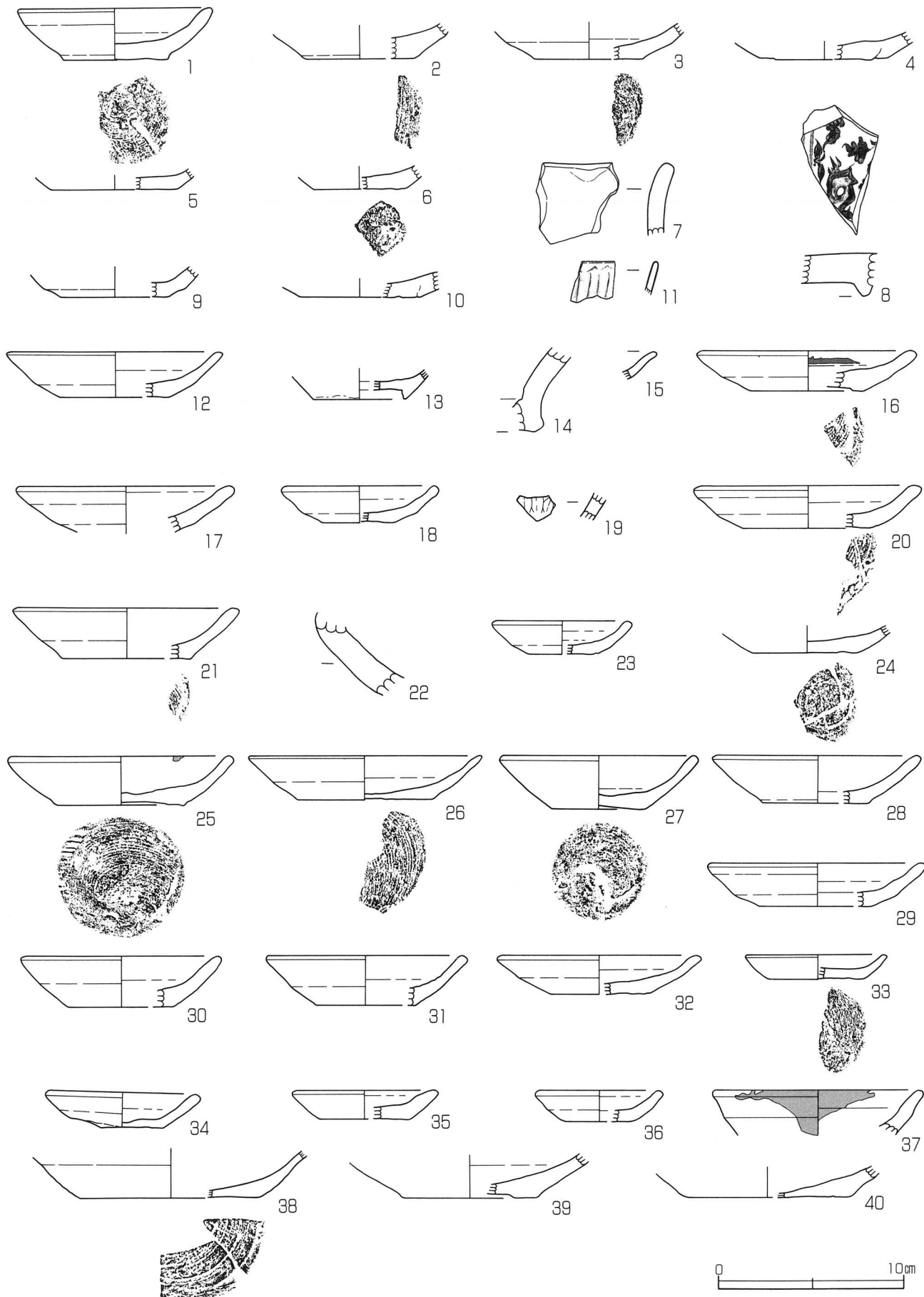


图27 大手出土遺物(6)

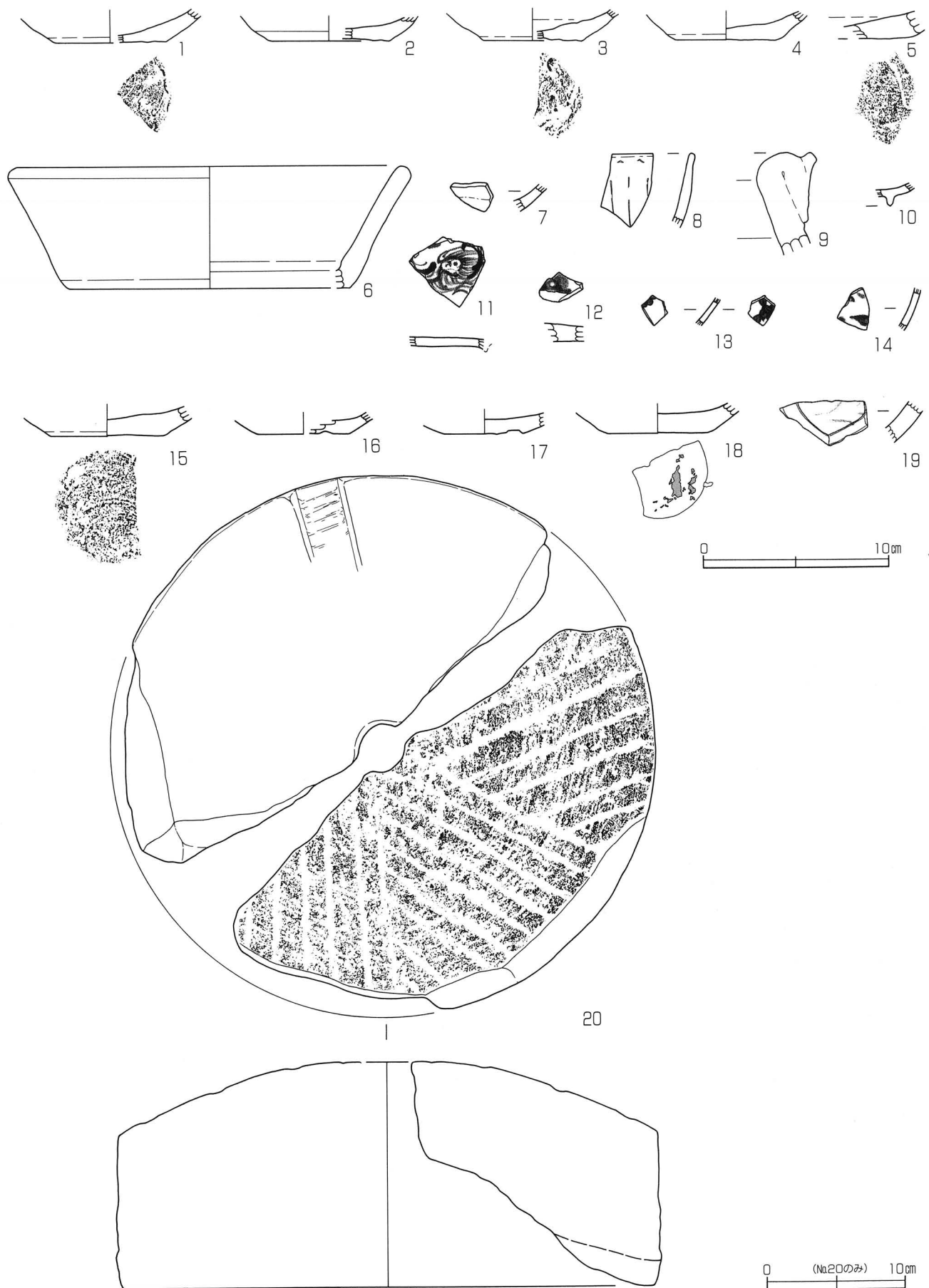


図 28 大手出土遺物(7)

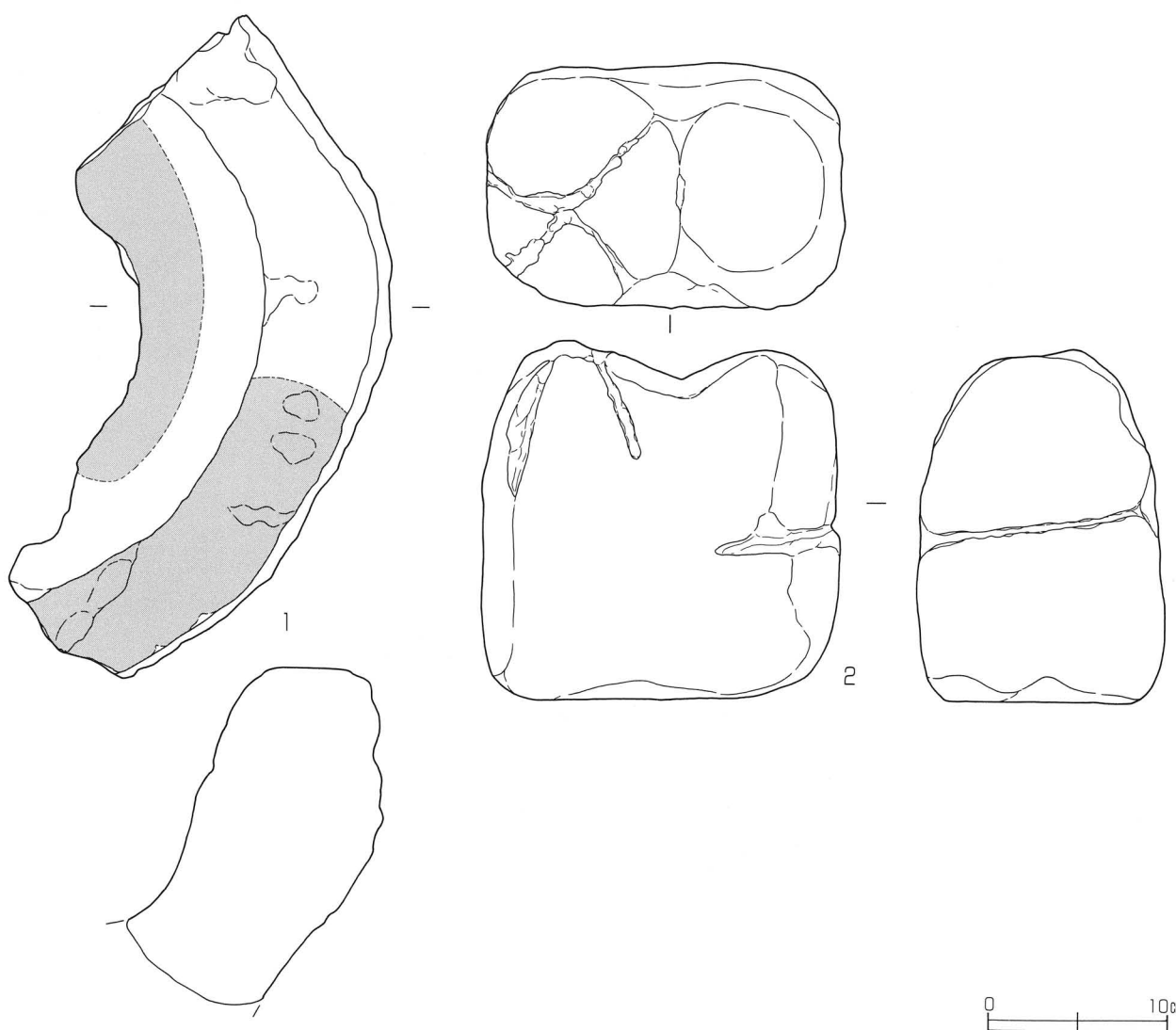


图29 大手出土遺物(8)

表4 大手馬出土土器出土遺物観察表

() 復元値

図番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考(時代等)	
			口径	底径	器高						
22	1号石塁	土器 かわらけ	(12.0)	(7.0)	(2.5)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り、 口縁部タール付着	やや密	鈍い褐色		
"	2	1号石塁	(11.2)	(6.0)	(2.2)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い褐色		
"	3	1号石塁		(7.0)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い黄褐色		
"	4	1号石塁		(5.6)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い黄褐色		
"	5	1号石塁		6.3		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り後 粘土貼り付け	やや粗	鈍い黄褐色		
"	6	1号石塁		(6.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	鈍い褐色		
"	7	1号石塁		(14.6)		底部	外面指頭痕	密	浅黄褐色		
"	8	1号石塁				底部	外面指頭痕	やや密	橙色		
"	9	1号石塁				体部		やや粗	鈍い褐色		
"	10	1号石塁		(18.0)		体部 ~底部	外面指頭痕	やや粗	内面/橙色 外面/鈍い褐色		
"	11	1号石塁				体部		やや密	橙色		
"	12	1号石塁	瀬戸美濃 天目茶碗	(10.0)		口縁 ~体部	体部下半錆釉	密	胎土/浅黄褐色 釉/黄褐色	大窯2	
"	13	1号石塁	瀬戸美濃 灰釉端反皿	(9.4)	(5.4)	(2.1)	口縁 ~底部	付高台、見込部印花文、輪下子痕	密	胎土/鈍い黄褐色 釉/浅黄色	大窯2
"	14	1号石塁	瀬戸美濃 灰釉端反皿				口縁部		密	胎土/浅黄褐色 釉/浅黄色	
"	15	1号石塁	瀬戸美濃 播鉢				体部	錆釉	やや粗	胎土/灰白色 釉/灰褐色	
"	16	1号石塁	瀬戸美濃				体部		密	胎土/鈍い黄褐色 釉/黒褐色	
"	17	1号石塁	瀬戸美濃				体部		密	胎土/浅黄褐色 釉/鈍い黄褐色	
"	18	1号石塁	常滑 甕				口縁部		やや密	胎土/灰黄褐色 釉/灰褐色	
"	19	1号石塁	常滑 甕				口縁部		密	胎土/灰白色 釉/鈍い赤褐色	1500~1550年
"	20	1号石塁	常滑 甕				肩部		密	胎土/灰黄褐色 釉/鈍い赤褐色	
"	21	1号石塁	常滑 甕				胴部		やや粗	内面/鈍い褐色 外面/灰褐色	
"	22	1号石塁	常滑 甕				胴部		密	胎土/灰黄褐色 釉/鈍い赤褐色	
"	23	1号石塁	常滑 甕				胴部		やや密	胎土/灰黄褐色 釉/灰赤色	
"	24	1号石塁	常滑 甕				胴部		やや粗	橙色	
"	25	1号石塁	常滑 甕				胴部		やや密	鈍い赤褐色	
23	1	1号石塁	常滑 甕				胴部		やや粗	内面/灰赤色 外面/灰黄褐色	
"	2	1号石塁	常滑 甕				胴部	内面漆付着、指頭痕	やや密	鈍い橙色	
"	3	1号石塁	常滑 甕				胴部		やや粗	内面/灰褐色 外面/橙色	
"	4	1号石塁	常滑 甕				胴部	内面漆付着・指頭痕	やや密	内面/鈍い褐色 外面/灰黄褐色	
"	5	1号石塁	常滑 甕				胴部	内面漆付着・指頭痕	やや密	鈍い赤褐色	
"	6	1号石塁	常滑 甕				底部		密	鈍い橙色	
"	7	1号石塁	青磁 折縁皿(?)		(7.0)		体部 ~底部	高台量付無釉、被熱	緻密	胎土/灰白色 釉/明緑灰色	13c後半~14c前半
"	8	1号石塁	青磁 酒会壺		(18.2)		底部		緻密	胎土/灰白色 釉/オリーブ灰色	
"	9	1号石塁	青白磁 梅瓶				体部		緻密	胎土/灰白色 釉/明青灰色	
"	10	1号石塁	石製品 茶臼	(37.4)	(31.6)	(7.7)	下臼				
"	11	1号石塁	石製品 捏鉢(?)								
"	12	1号石塁	石製品 ヒテ鉢(?)		(21.2)						
"	13	1号石塁 下層42層	土器 かわらけ	(12.0)	(6.8)	(2.5)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
"	14	1号石塁 下層42層	土器 かわらけ	(9.2)	(3.6)	(1.6)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	

図番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考 (時代等)		
			口径	底径	器高							
23	15	1号石壘 下層42層	土器	かわらけ	(15.8)	(8.8)	(2.8)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	16	1号石壘 西側	土器	かわらけ		(7.8)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
"	17	1号石壘 西側	土器	かわらけ		(6.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	褐灰色	
"	18	1号石壘 西側	土器	内耳鍋				体部		やや粗	橙色	
"	19	1号石壘 西側	常滑	甕				胴部		密	胎土/橙色 釉/黄褐色	
"	20	1号石壘 西側	常滑	甕				胴部		密	胎土/橙色 釉/オリーブ褐色	
"	21	1号石壘 西側	常滑	甕				胴部		やや粗	橙色	
"	22	1号石壘 西側	常滑	甕				底部	外面ケズリ	やや粗	橙色	
24	1	1号石壘 東側	土器	かわらけ	(12.4)	(6.4)	(2.6)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り、 口縁部タール付着	密	鈍い橙色	
"	2	1号石壘 東側	土器	かわらけ	(12.4)	(7.4)	(2.6)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	3	1号石壘 東側	土器	かわらけ		(4.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	緻密	浅黄褐色	
"	4	1号石壘 東側下層	土器	かわらけ	(9.4)	(5.4)	(2.3)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
"	5	1号石壘 東側下層	土器	かわらけ	(7.2)	(4.0)	(1.7)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	6	1号石壘 東側下層	土器	かわらけ		(8.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	7	1号石壘 東側下層	土器	かわらけ		(6.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	鈍い黄褐色	
"	8	1号石壘 東側下層	土器	鉢		(9.0)		底部		やや密	橙色	
"	9	1号石壘 東側下層	土器	播鉢				体部		粗	鈍い橙色	
"	10	1号石壘 東側	常滑	甕				胴部		やや密	胎土/橙色 釉/灰黄褐色	
"	11	1号石壘 東側	常滑	甕				胴部		やや密	胎土/鈍い赤褐色 釉/暗灰黄色	
"	12	1号石壘 東側	常滑	甕				胴部		やや密	胎土/灰黄褐色 釉/灰褐色	
"	13	1号石壘 東側	常滑	甕				胴部		密	胎土/灰黄褐色 釉/灰褐色	
"	14	1号石壘 東側	常滑	甕				胴部		密	胎土/鈍い褐色 釉/灰褐色	
"	15	1号石壘 東側	石製品									
"	16	1号石列北	土器	かわらけ		(4.6)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	
"	17	1号石列北	瀬戸美濃					体部		密	褐灰色	
"	18	1号石列南	土器	かわらけ	(11.0)	(5.8)	(2.5)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	鈍い橙色	
"	19	1号石列南	土器	かわらけ		(7.2)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	鈍い橙色	
"	20	1号石列南	常滑	甕				口縁部		密	胎土/褐灰色 釉/灰褐色	1500~1550年
"	21	1号石列南	常滑	甕				胴部		密	胎土/灰白色 釉/灰褐色	
"	22	2号石列西	石製品	五輪塔(?)								
"	23	3号石列 北側	土器	内耳鍋				底部	ロクロ整形	やや密	鈍い橙色	
"	24	3号石列 北側	常滑	甕				胴部		密	胎土/褐灰色 釉/鈍い赤褐色	
"	25	3号石列 北側下層	土器	かわらけ				体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
25	1	1号堀	土器	かわらけ	(12.8)	(7.2)	(2.2)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	内面/橙色 外面/褐灰色	
"	2	1号堀	土器	かわらけ	(12.2)	(6.4)	(2.6)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
"	3	1号堀	土器	かわらけ	(9.0)	(5.8)	(1.8)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り、 口縁部に炭化物付着	やや密	橙色	

図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考(時代等)
				口径	底径	器高					
25	4	1号堀	土器 かわらけ	(8.4)	(7.0)	(1.4)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い赤褐色	
〃	5	1号堀	土器 かわらけ	(10.8)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	6	1号堀	土器 かわらけ		(5.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い赤褐色	
〃	7	1号堀	土器 かわらけ		(6.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
〃	8	1号堀	常滑 甕				胴部		密	胎土/褐灰色 釉/灰褐色	
〃	9	1号堀	青磁 碗				口縁部	片切彫鎬連弁文、被熱	緻密	胎土/灰白色 釉/明オリープ灰色	13c後半~14c前半
〃	10	1号堀	白磁 菊皿(?)				口縁部		緻密	灰白色	15c後半?
〃	11	1号堀	染付 碗				口縁部	内面四方襷文、外面草花文、饅頭心	緻密	灰白色	16c中頃~後半
〃	12	1号堀 図7-22層	土器 かわらけ	(10.4)	(6.0)	(2.3)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
〃	13	1号堀 図7-22層	土器 かわらけ	(10.2)	(4.5)	(2.2)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	鈍い橙色	
〃	14	1号堀攪乱	土器 かわらけ		(7.8)		底部	ロクロ成形	やや密	浅黄橙色	
〃	15	1号堀攪乱	土器 かわらけ		(6.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	16	1号堀攪乱	土器 かわらけ		(5.8)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
〃	17	1号堀攪乱	土器 かわらけ		(7.8)		底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	18	1号堀攪乱	土器 かわらけ		(5.8)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
〃	19	1号堀攪乱	土器 かわらけ		(6.0)		底部	ロクロ成形	やや密	鈍い赤褐色	
〃	20	1号堀攪乱	土器 かわらけ		(5.2)		底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	21	1号堀攪乱	土器 かわらけ		(5.0)		底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	22	1号堀攪乱	土器 かわらけ		(5.2)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
〃	23	集石状遺構	土器 かわらけ	(7.2)	(5.0)	(1.6)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	内面/橙色 外面/鈍い黄橙色	
〃	24	集石状遺構	土器 かわらけ		(6.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	25	4号石列南	土器 かわらけ		(6.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	26	4号石列南	常滑 甕				胴部	内面指頭痕	密	内面/鈍い赤褐色 外面/灰黄色	
〃	27	4号石列南	石製品 茶臼				上臼	軸棒孔直径約(2.1)cm			
26	1	1号土坑	土器 かわらけ	(13.6)	(6.4)	(2.7)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	浅黄橙色	
〃	2	1号土坑	土器 かわらけ	(9.4)	(5.0)	(2.3)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	3	1号土坑	土器 かわらけ	(9.9)	(5.0)	(2.2)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	4	1号土坑	土器 かわらけ	(9.4)	(5.0)	(2.1)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	5	1号土坑	土器 かわらけ	(10.0)	(6.2)	(2.0)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	6	1号土坑	土器 かわらけ	(11.2)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	明赤褐色	
〃	7	1号土坑	土器 かわらけ	(9.2)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	8	1号土坑	土器 かわらけ		(9.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	9	1号土坑	土器 かわらけ		(7.5)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
〃	10	1号土坑	土器 かわらけ		(5.6)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	11	1号土坑	土器 かわらけ		(4.6)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	12	1号土坑	土器 かわらけ		(5.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	13	1号土坑	白磁 端反皿				口縁部		緻密	灰白色	15c後葉~16c前葉
〃	14	1号溝	土器 かわらけ	(16.2)	(10.0)	(3.1)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	明赤褐色	
〃	15	1号溝	土器 かわらけ	(12.4)	(7.2)	(2.7)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	明赤褐色	
〃	16	1号溝	土器 かわらけ	(11.2)	(7.2)	(2.1)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	明赤褐色	
〃	17	1号溝	土器 かわらけ		(4.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	内面/鈍い赤褐色 外面/鈍い黄褐色	
〃	18	1号溝	常滑 甕				胴部	へう削り、内面漆付着	やや密	内面/鈍い赤褐色 外面/暗褐色	

図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考(時代等)
				口径	底径	器高					
26	19	2号溝	土器 かわらけ	(9.2)	(6.0)	(1.8)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	明赤褐色	
"	20	2号溝	土器 かわらけ	(13.4)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	橙色	
"	21	2号溝	土器 かわらけ	(13.2)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	明赤褐色	
"	22	2号溝	土器 かわらけ		(5.9)		底部	ロクロ成形	やや密	鈍い橙色	
"	23	2号溝	常滑 甕				胴部		やや密	灰褐色	
"	24	2号溝	土製品 壁土							橙色	
"	25	3号溝	土器 かわらけ		(4.8)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	明赤褐色	
"	26	5号溝	土器 かわらけ	(10.0)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	浅黄橙色	
"	27	5号溝	土器 かわらけ	(7.6)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	鈍い赤褐色	
"	28	5号溝	土器 かわらけ				口縁部	ロクロ成形	やや密	明赤褐色	
"	29	6号溝	土器 かわらけ	(6.6)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	橙色	
"	30	6号溝	土器 かわらけ		(10.0)		底部	ロクロ成形	やや粗	橙色	
"	31	6号溝	土器 かわらけ				口縁部	ロクロ成形	やや密	橙色	
27	1	7号溝	土器 かわらけ	(10.4)	(5.6)	(2.9)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	2	7号溝	土器 かわらけ		(6.0)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
"	3	7号溝	土器 かわらけ		(6.0)		体部 ~底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
"	4	7号溝	土器 かわらけ		(7.0)		底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
"	5	7号溝	土器 かわらけ		(6.8)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
"	6	7号溝	土器 かわらけ		(5.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り、 瓦質化、溶融物付着	やや密	黄灰色	
"	7	7号溝	土器 片口鉢(?)				口縁部	内面横ナデ	やや密	鈍い橙色	
"	8	7号溝	染付 盤(?)				底部	高台畳付~底部無釉	密	灰白色	
"	9	ピット9	土器 かわらけ		(6.0)		体部 ~底部	ロクロ成形	やや密	鈍い赤褐色	
"	10	ピット16	土器 かわらけ		(6.6)		底部	ロクロ成形	やや密	鈍い橙色	
"	11	ピット16	青磁 碗				口縁部	線描連弁文	密	胎土/灰白色 釉/オリープ灰色	15c後半~16c初頭
"	12	1トレ 水田造成土	土器 かわらけ	(13.4)	(5.8)	(2.5)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	浅黄橙色	図9-9層出土
"	13	1トレ 水田造成土	白磁 皿		(5.0)		底部	高台畳付無釉	緻密	灰白色	15c後葉~16c前葉 図9-9層出土
"	14	1トレ 水田造成土	土器 捏鉢(?)				底部		やや密	橙色	図8-6層出土
"	15	1トレ 水田造成土	瀬戸美濃 灰釉端反皿				口縁部		密	胎土/浅黄橙色 釉/浅黄色	大窯1(?) 図8-6層出土
"	16	1トレ 整地層	土器 かわらけ	(11.4)	(6.0)	(2.2)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り、 瓦質化、内面溶融物付着	やや密	灰黄色	図9-14層出土
"	17	1トレ 整地層	土器 かわらけ	(11.6)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや粗	橙色	図9-14層出土
"	18	1トレ 整地層	土器 かわらけ	(8.0)	(4.0)	(2.0)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	図9-14層出土
"	19	1トレ 整地層	青磁 碗				体部 下半	鍋連弁文	緻密	胎土/灰白色 釉/明緑灰色	13c後半~14c前半 図9-14層出土
"	20	1トレ 整地層	土器 かわらけ	(11.4)	(7.0)	(2.4)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	図7-16層出土
"	21	1トレ 整地層	土器 かわらけ	(13.6)	(7.0)	(2.8)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	図7-16層出土
"	22	1トレ 整地層	常滑 甕				頸部		密	灰褐色	図7-16層出土
"	23	1トレ 整地層	土器 かわらけ	(7.0)	(4.0)	(1.9)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	図7-16層出土
"	24	1トレ 整地層	土器 かわらけ		(5.8)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	図7-16層出土
"	25	1トレー括	土器 かわらけ	11.9	7.0	2.7	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り、 口縁部スス付着	やや粗	鈍い橙色	
"	26	1トレー括	土器 かわらけ	(12.4)	(7.2)	(2.4)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	

() 復元値

図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考(時代等)
				口径	底径	器高					
27	27	1トレー括	土器 かわらけ	(10.5)	(5.2)	(3.0)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	28	1トレー括	土器 かわらけ	(10.8)	(5.8)	(2.6)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	
〃	29	1トレー括	土器 かわらけ	(11.2)	(6.2)	(2.4)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
〃	30	1トレー括	土器 かわらけ	(10.4)	(5.8)	(2.8)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	
〃	31	1トレー括	土器 かわらけ	(10.4)	(5.4)	(2.7)	口縁 ~底部	ロクロ成形、被熱による瓦質化、 内面溶融物付着	密	明褐色	
〃	32	1トレー括	土器 かわらけ	(10.6)	(5.4)	(2.2)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	33	1トレー括	土器 かわらけ	(7.2)	(5.2)	(1.3)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	34	1トレー括	土器 かわらけ	7.9	5.1	2.0	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	35	1トレー括	土器 かわらけ	(7.4)	(5.0)	(1.6)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
〃	36	1トレー括	土器 かわらけ	(6.4)	(3.6)	(1.8)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	37	1トレー括	土器 かわらけ	(11.2)			口縁 ~胴部	ロクロ成形、口縁部炭化物付着	やや密	鈍い橙色	
〃	38	1トレー括	土器 かわらけ		(10.0)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	暗灰黄色	
〃	39	1トレー括	土器 かわらけ		(7.4)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	浅黄褐色	
〃	40	1トレー括	土器 かわらけ		(9.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
28	1	1トレー括	土器 かわらけ		(6.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	2	1トレー括	土器 かわらけ		(6.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	3	1トレー括	土器 かわらけ		(5.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
〃	4	1トレー括	土器 かわらけ		(5.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	
〃	5	1トレー括	土器 かわらけ				底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	6	1トレー括	土器 捏鉢	(20.8)	(15.4)	(6.8)	口縁 ~底部	ロクロ整形	やや密	橙色	
〃	7	1トレー括	瀬戸美濃 天目茶碗				体部 下半	体部下半露胎	緻密	胎土/浅黄色 釉/暗褐色	
〃	8	1トレー括	瀬戸美濃 灰釉丸碗				口縁部	鈎形印花文	密	胎土/灰白色 釉/浅黄色	大窯1
〃	9	1トレー括	常滑 甕				口縁部		密	内面/鈍い赤褐色 外面/灰褐色	1500~1550年
〃	10	1トレー括	白磁 端反皿				底部	高台畳付無釉	緻密	灰白色	15c後葉~16c前葉
〃	11	1トレー括	染付 皿				底部	見込部獅子文様	緻密	灰白色	
〃	12	1トレー括	染付 皿				底部		緻密	灰白色	
〃	13	1トレー括	染付 皿				体部		緻密	灰白色	
〃	14	1トレー括	染付				体部	陶胎	密	胎土/浅黄褐色 釉/灰白色	
〃	15	2トレー括	土器 かわらけ		(6.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	鈍い黄褐色	
〃	16	2トレー括	土器 かわらけ		(5.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	17	3トレー括	瀬戸美濃 灰釉丸皿		(4.3)		底部	削出高台、底部外面輪ドチ 見込部トチン痕・釉拭き取り	密	胎土/灰白色 釉/浅黄色	
〃	18	4トレー括	土器 かわらけ		(5.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り、 底部外面にタール付着	やや密	橙色	
〃	19	4トレー括	青磁 碗				体部		密	胎土/灰白色 釉/明緑灰色	
〃	20	表採	石製品 石臼				下臼				
29	1	表採	石製品					口縁部・内面に磨面			
〃	2	表採	石製品								

第4章 無名曲輪

第1節 調査概況

1. 調査地の概要

無名曲輪は南北約100m、東西約60mの規模を有する主郭部北側曲輪の一つである。味噌曲輪と御隠居曲輪の間に位置し、堀と土塁が巡ると推定される。館が単郭構造から複郭構造へと変遷する過程で増設された曲輪の一つであり、その時期は天文21年（1552）から天正10年（1582）の間と理解されている。大洲藩主加藤家の事跡を収録した『北藤録』には、文禄元年（1591）、甲斐国領主となった加藤光泰が「南北ニ外郭ヲ築」いたと記録され、この「外郭」を無名曲輪と解釈する考えもある。各種古絵図の中で「諸国古城之図」（広島市立中央図書館浅野文庫）は、土塁で囲まれた不整形な曲輪として描き、近世の地誌類が他の曲輪の伝承や別称を伝えるのに対し、無名曲輪に関する記述は全く見えない。そのため曲輪として認識されていたか不明である。すでに江戸時代から耕地化が進み、周辺一帯は「島トナレリ」（『甲斐国志』）という状態であった。

現在は土地区画や微地形観察から僅かに土塁と堀の痕跡が確認でき、曲輪内は段状に区画され、畑地、水田として利用されている。中央の一段高い畑地を土塁の痕跡とし、南北に二分する構造と推定される。

2. 調査の方法と経過

調査は、平成12年9月6日から開始した。一段高い畑地とその下段の水田に幅2m、長さ11mのトレンチを南北方向にそれぞれ設定し、表土から人力により掘り下げ調査を行った。下段をトレンチ1、上段をトレンチ2とし、トレンチ1からは盛土に伴う暗渠水路、ピット列、溝跡を、トレンチ2から堀と推定される落ち込みと土塁を確認し、3時期の変遷が想定された。11月10日までに記録図面の作成、写真撮影を終え、12月19日に航空写真測量を、翌20日には調査団会議を開催し、現地説明を実施している。川砂・土嚢により養生処置を行ったのち、重機で埋戻し、12月28日にいったん調査を終了した。

トレンチ2で検出した堀が不確定であったため、平成13年3月8日から調査を再開した。トレンチを幅4mに拡大し、長さ21mにわたり延長した。便宜上、新たに設定したトレンチを土地区画によりトレンチ3、4としている。堀の確認とともに新たな土塁を検出し、二重土塁となるなど複雑な変遷をたどることが判明した。5月11日に航空写真測量を行い、5月18日までに記録図面作成、記録写真の撮影を終えている。6月15日に調査団会議を開催し現地説明を行い、川砂・土嚢により養生処置を行ったのち、重機で埋戻し、6月20日には全ての調査を終了した。

第2節 調査の成果

1. 基本層序

最下段となるトレンチ1地点は、地表下約0.3mが遺構確認面となる。水田として土地利用されていたため耕作土、床土が覆うのみである。トレンチ北端は床土直下が地山となり、

南側には盛土が確認された。トレンチ中央を境に40cmほどの段差があり、この盛土により段差を埋めていた。上段に構築された遺構の拡張にともない平地空間を確保するため行われたものと考えられる。

一段高い畑地に設定したトレンチ2～4は、約0.1～0.3mの表土が覆うのみであった。畑地は北から南にかけて傾斜し、約2mの比高差がある。埋没した堀を利用して新たな土塁が築かれる一方で、整地層により埋没する土塁がある。地表下約1mが地山面となるため、堆積土の多くは盛土整地層となる。

2. 遺構と遺物

(1) 土 塁

調査により3基の土塁を検出した。いずれも高さ1m、幅3～4mほどの規模であり、曲輪内を区分する低土塁と推定される。掻き上げ土塁とでも分類されるものであり、基底部に整地が若干認められる程度で、搗き固めと考えられる顕著な土層は確認されない。

1号土塁 (図31)

トレンチ3で確認された、東西方向の土塁であり、南側から検出した堀と一对になる。基底部幅2.90m、高さ0.72mを測る低土塁である。その高さは、西側で徐々に低くなり、トレンチ西壁では高さ0.40mほどとなる。西側で土塁が途切れ、開口部が存在する可能性がある。粘質土と石混じり土が互層となるが、搗き固めと考えられる土層は観察できなかった。堀側に面した土塁裾部には長径0.64m、高さ0.20mの石が据えてある。土留めと考えられるが、列構成あるいは石積の様相も見られず、一石のみの検出であった。土層観察から、2号土塁構築時の盛土整地（整地層Ⅰ）により裾部が約0.30m埋没し、最終期、さらなる盛土整地（整地層Ⅱ）により完全に埋没している。

出土遺物はかわらけ、香炉がある（図34-1～4、図36-17）。

2号土塁 (図32)

トレンチ4から検出された、東西方向の土塁である。基底部幅4.90m、高さ1.00mを測り、先行する石積遺構、2号溝を埋め、盛土整地後に構築されている。すでに1号土塁が存在し、その約10m北側に新たに築造される。土層観察では、石混じり土が基底層となり、その上に褐色、黄褐色粘質土が盛られている。北側へ約2.60m、拡張部分が認められる。1号土塁とともに盛土整地（整地層Ⅱ）により埋没し、平坦地化する。

出土遺物はかわらけ、瀬戸美濃天目、染付端反皿がある（図34-9・10・12・15・17・19）。拡張部から出土した遺物は、図34-11・16・25・26・29・31～33に図化した。

3号土塁 (図31)

トレンチ2で確認され、基底部幅4.90m、高さ1.8mを測る。東西方向に構築された土塁である。北側に存在する堀が自然埋没した後に整地され、築造されている。南側裾部に土留めと考えられる石積と雨水処理の溝跡が確認された。石積に使用する石材は不揃いで、長径0.15～0.70mまであり、土層観察では、基底部から0.30mほどは土中に埋まっていたことになる。土塁表面を石混じり土が覆い、内部は粘質土が盛土される。この土塁には拡張の痕跡が認められ、土留めの石積と雨水処理の溝跡を埋め、裾部で約1.20m、南側に幅を広げている。

出土遺物はかわらけ、石製品がある（図35-1～7）。

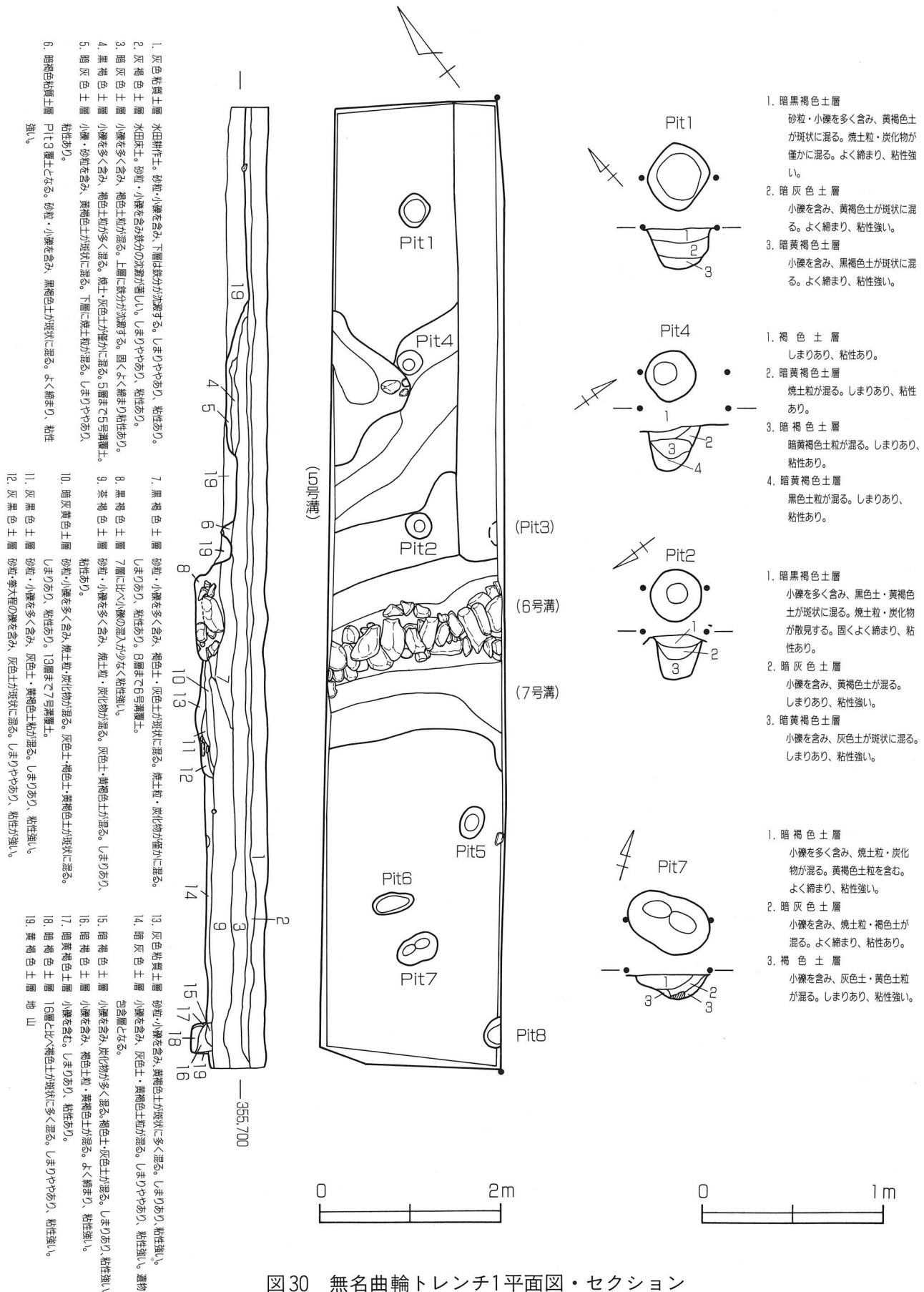
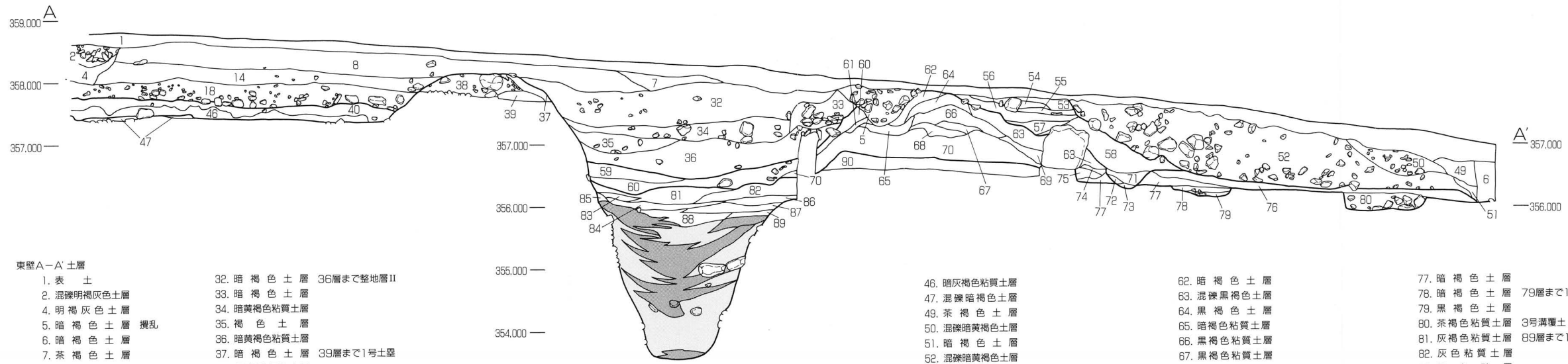


図30 無名曲輪トレンチ1平面図・セクション

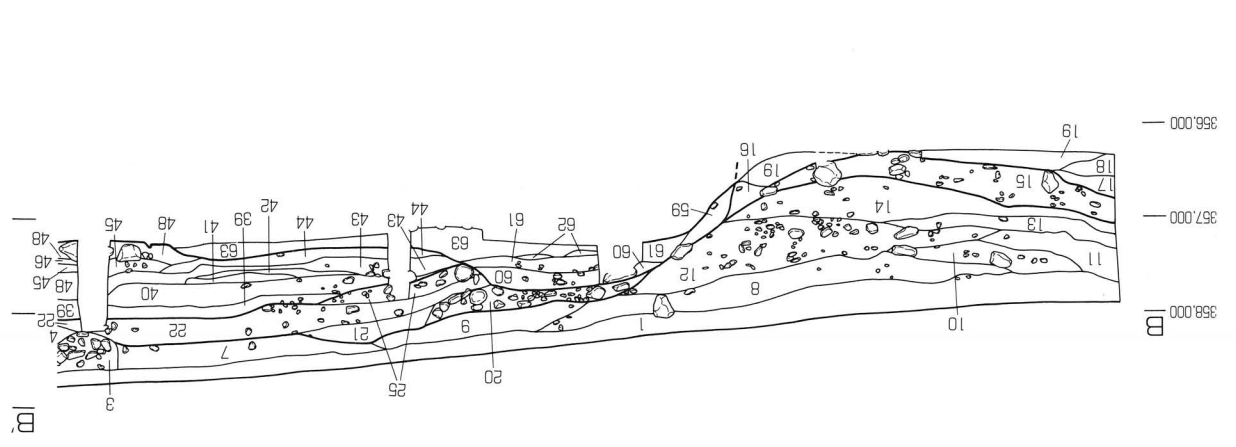
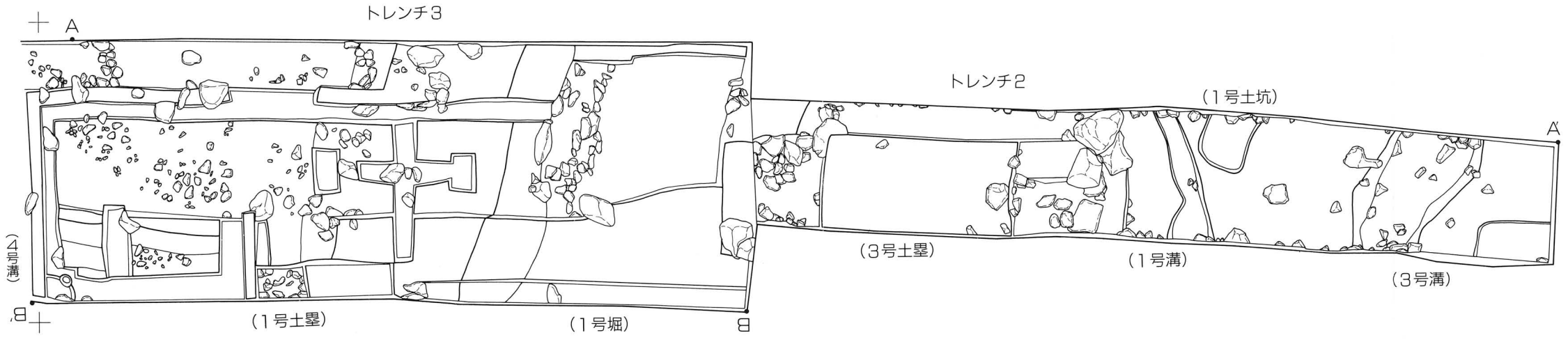


東壁A-A'土層

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 表土 | 32. 暗褐色土層 36層まで整地層II |
| 2. 混雑明褐色灰色土層 | 33. 暗褐色土層 |
| 4. 明褐色土層 | 34. 暗黄褐色粘質土層 |
| 5. 暗褐色土層 攪乱 | 35. 褐色土層 |
| 6. 暗褐色土層 | 36. 暗黄褐色粘質土層 |
| 7. 茶褐色土層 | 37. 暗褐色土層 39層まで1号土壘 |
| 8. 暗褐色土層 | 38. 混雑暗褐色土層 |
| 14. 茶褐色土層 | 39. 暗褐色土層 |
| 18. 暗褐色土層 整地層II | 40. 暗茶褐色土層 整地層I |

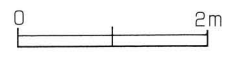
- - 灰黒色粘質土層
- - 灰黒色砂層

- | | | |
|------------------------|-----------------------|------------------------|
| 46. 暗灰褐色粘質土層 | 62. 暗褐色土層 | 77. 暗褐色土層 |
| 47. 混雑暗褐色土層 | 63. 混雑黒褐色土層 | 78. 暗褐色土層 79層まで1号土坑覆土 |
| 49. 茶褐色土層 | 64. 黒褐色土層 | 79. 黒褐色土層 |
| 50. 混雑暗褐色土層 | 65. 暗褐色粘質土層 | 80. 茶褐色粘質土層 3号溝覆土 |
| 51. 暗褐色土層 | 66. 黒褐色粘質土層 | 81. 灰褐色粘質土層 89層まで1号堀埋土 |
| 52. 混雑暗黄褐色土層 | 67. 黒褐色粘質土層 | 82. 灰色粘質土層 |
| 53. 茶褐色土層 58層まで3号土壘拡張部 | 68. 褐色粘質土層 | 83. 褐色砂層 |
| 54. 茶褐色粘質土層 | 69. 混雑黒褐色土層 | 84. 褐色砂層 |
| 55. 茶褐色粘質土層 | 70. 暗灰褐色粘質土層 | 85. 灰色粘質土層 |
| 56. 褐色粘質土層 | 71. 褐色土層 73層まで1号溝覆土 | 86. 褐色粘質土層 |
| 57. 暗褐色粘質土層 | 72. 暗褐色土層 | 87. 灰褐色粘質土層 |
| 58. 暗茶褐色粘質土層 | 73. 黒褐色土層 | 88. 褐色砂層 |
| 59. 暗灰褐色粘質土層 70層まで3号土壘 | 74. 茶褐色粘質土層 75層まで3号土壘 | 89. 灰色粘質土層 |
| 60. 混雑淡黄色土層 | 75. 混雑黒褐色土層 | 90. 地山 |
| 61. 暗褐色土層 | 76. 暗灰色土層 | |

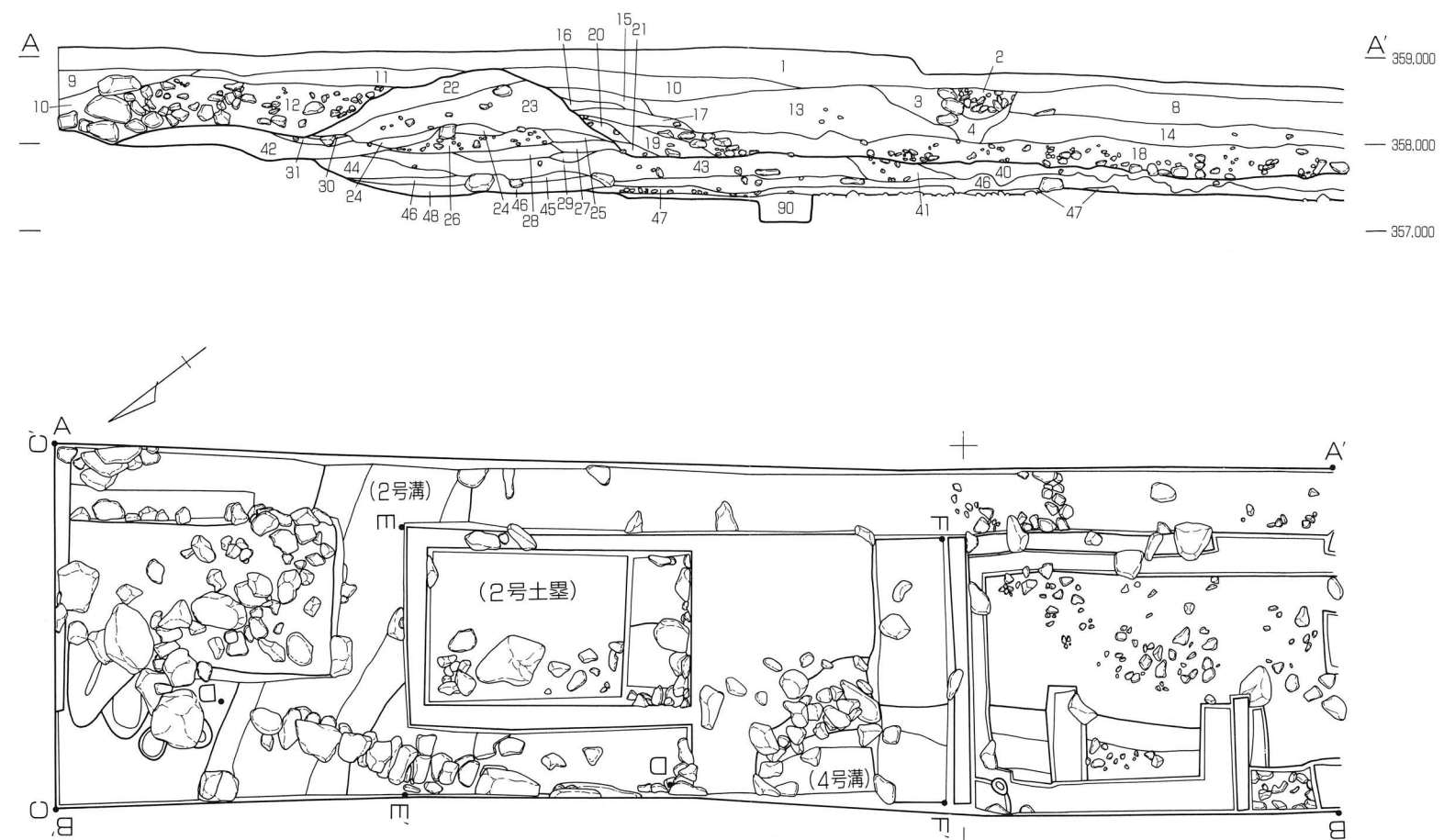
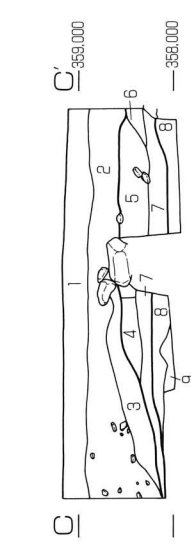


- | | | | | | |
|------------------------|------------------------|------------------------|-----------------------|-------------|------------|
| 21. 暗黄褐色土層 | 39. 茶褐色土層 40層まで整地層I | 57. 暗褐色粘質土層 | 73. 黒褐色土層 | 75. 混雑黒褐色土層 | 89. 灰色粘質土層 |
| 22. 混雑明褐色土層 | 40. 暗茶褐色土層 整地層I | 58. 暗茶褐色粘質土層 | 74. 茶褐色粘質土層 75層まで3号土壘 | 76. 暗灰色土層 | |
| 4. 明褐色土層 | 41. 明褐色土層 | 59. 暗灰褐色粘質土層 70層まで3号土壘 | 75. 混雑黒褐色土層 | | |
| 7. 茶褐色土層 | 42. 暗褐色土層 | 60. 暗褐色土層 | 76. 暗灰色土層 | | |
| 8. 暗褐色土層 | 43. 暗褐色土層 | 61. 混雑暗褐色土層 | | | |
| 9. 茶褐色土層 | 44. 暗褐色粘質土層 | 62. 暗褐色土層 | | | |
| 10. 暗茶褐色土層 | 45. 混雑暗褐色土層 | 63. 混雑黒褐色土層 | | | |
| 11. 褐色土層 | 46. 黒褐色粘質土層 | | | | |
| 12. 暗褐色土層 | 47. 暗褐色土層 | | | | |
| 13. 暗褐色土層 | 48. 褐色土層 | | | | |
| 14. 黒褐色土層 | 49. 茶褐色土層 | | | | |
| 15. 混雑淡黄色土層 3号土壘 | 50. 混雑暗褐色土層 | | | | |
| 16. 灰褐色土層 | 51. 暗褐色土層 | | | | |
| 17. 黒褐色土層 19層まで1号堀埋土 | 52. 混雑暗黄褐色土層 | | | | |
| 18. 灰褐色粘質土層 | 53. 茶褐色土層 58層まで3号土壘拡張部 | | | | |
| 19. 灰色粘質土層 | 54. 茶褐色粘質土層 | | | | |
| 20. 混雑黄褐色土層 25層まで整地層II | 55. 茶褐色粘質土層 | | | | |

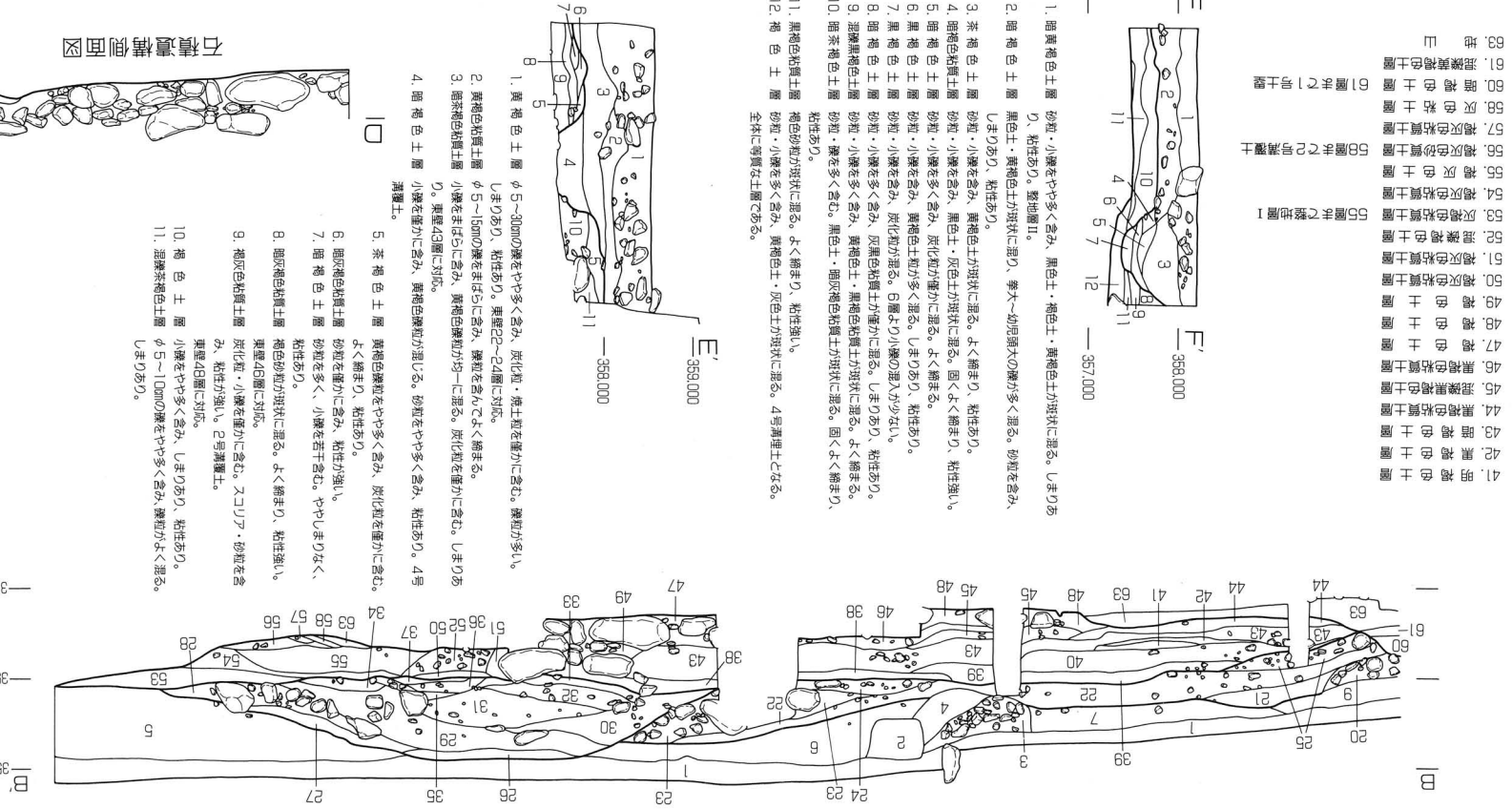
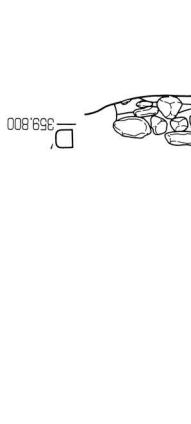
図31 無名曲輪トレンチ2・3平面図・セクション



- 調査区北層土層
- 1. 表土
 - 2. 褐色粘質土層
 - 3. 暗褐色土層
 - 4. 暗褐色土層
 - 5. 黄褐色粘質土層~2号土層拡張
 - 6. 褐色粘質土層
 - 7. 黄褐色粘質土層
 - 8. 9層まで地山



- 東壁A-A'土層
- 1. 表土
 - 2. 混雑明褐色土層
 - 3. 明褐色土層
 - 4. 明褐色土層
 - 5. 暗褐色土層
 - 6. 褐色粘質土層
 - 7. 灰褐色粘質土層
 - 8. 黄褐色土層
 - 9. 黄褐色粘質土層
 - 10. 黄褐色粘質土層
 - 11. 黄褐色土層
 - 12. 黄褐色粘質土層
 - 13. 黄褐色粘質土層
 - 14. 茶褐色土層
 - 15. 黄褐色土層
 - 16. 黄褐色粘質土層
 - 17. 褐色粘質土層
 - 18. 暗褐色土層
 - 19. 黄褐色粘質土層
 - 20. 褐色粘質土層
 - 21. 黄褐色粘質土層
 - 22. 黄褐色土層
 - 23. 黄褐色粘質土層
 - 24. 褐色粘質土層
 - 25. 褐色粘質土層
 - 26. 黄褐色砂礫層
 - 27. 黄褐色粘質土層
 - 28. 暗褐色粘質土層
 - 29. 黄褐色粘質土層
 - 30. 褐色土層
 - 31. 黄褐色粘質土層
 - 32. 暗茶褐色土層
 - 33. 暗茶褐色土層
 - 34. 暗茶褐色土層
 - 35. 暗茶褐色土層
 - 36. 暗茶褐色土層
 - 37. 暗茶褐色土層
 - 38. 暗茶褐色土層
 - 39. 暗茶褐色土層
 - 40. 暗茶褐色土層
 - 41. 暗茶褐色土層
 - 42. 暗茶褐色土層
 - 43. 暗茶褐色粘質土層
 - 44. 暗褐色粘質土層
 - 45. 茶褐色粘質土層
 - 46. 暗灰褐色粘質土層
 - 47. 混雑暗褐色土層
 - 48. 褐色粘質土層
 - 49. 褐色粘質土層
 - 90. 地山



- 西壁B-B'土層
- 1. 表土
 - 2. 明褐色土層
 - 3. 混雑明褐色土層
 - 4. 明褐色土層
 - 5. 褐色粘質土層
 - 6. 灰褐色土層
 - 7. 茶褐色土層
 - 8. 茶褐色土層
 - 9. 茶褐色土層
 - 10. 暗茶褐色土層
 - 11. 暗茶褐色土層
 - 12. 暗茶褐色土層
 - 13. 暗茶褐色土層
 - 14. 暗茶褐色土層
 - 15. 暗茶褐色土層
 - 16. 暗茶褐色土層
 - 17. 暗茶褐色土層
 - 18. 暗茶褐色土層
 - 19. 暗茶褐色土層
 - 20. 暗茶褐色土層
 - 21. 暗茶褐色土層
 - 22. 暗茶褐色土層
 - 23. 暗茶褐色土層
 - 24. 暗茶褐色土層
 - 25. 暗茶褐色土層
 - 26. 暗茶褐色土層
 - 27. 暗茶褐色土層
 - 28. 暗茶褐色土層
 - 29. 暗茶褐色土層
 - 30. 暗茶褐色土層
 - 31. 暗茶褐色土層
 - 32. 暗茶褐色土層
 - 33. 暗茶褐色土層
 - 34. 暗茶褐色土層
 - 35. 暗茶褐色土層
 - 36. 暗茶褐色土層
 - 37. 暗茶褐色土層
 - 38. 暗茶褐色土層
 - 39. 暗茶褐色土層
 - 40. 暗茶褐色土層
 - 41. 暗茶褐色土層
 - 42. 暗茶褐色土層
 - 43. 暗茶褐色土層
 - 44. 暗茶褐色土層
 - 45. 暗茶褐色土層
 - 46. 暗茶褐色土層
 - 47. 暗茶褐色土層
 - 48. 暗茶褐色土層
 - 49. 暗茶褐色土層
 - 90. 地山

図32 無名曲輪トレンチ4平面図・セクション

(2)堀 (図31)

トレンチ 2、3 で確認された。北側から検出された 1 号土塁と対になる。上幅 4.18 m、底部幅 0.90 m、深さ 3.32 m を測り、断面箱堀状を呈する水堀と推定される。調査時にも湧水がみられ、堀底から高さ約 2.10 m まで自然埋没し、グライ化した砂粒と粘質土がレンズ状に堆積していた。自然埋没した後、厚さ約 0.64 m の盛土整地が行われ、3 号土塁が構築されている。3 号土塁構築後も堀跡は、窪みとしてその痕跡を残していた。土層観察から、1 号土塁が盛土整地 (整地層 II) により完全に埋没するのと同時期に、堀跡も整地され埋没したことが分かる。

遺物は、かわらけが出土している (図 35-16・17・21・22)。いずれも 3 号土塁構築時の整地層からの出土である。

(3)石積遺構 (図32)

トレンチ 4 から検出し、2 号土塁に先行し、2 号溝を埋めて構築している。南北方向にわたり長さ 4.60 m、3 段の石積となる。自然石を使用し、石材の規格は長径 0.10~0.92 m と様々である。屋敷境の石積と考えられ、2 号溝・1 号土塁・堀などと直交する軸線をとる。

遺物は、かわらけが 2 点出土している (図 36-1・2)。

(4)溝状遺構

調査では 7 条の溝跡を検出した。用途・性格が不明瞭で、溝と表現すべきか定かでないものも含んでいる。

1 号溝 (図31)

トレンチ 2 で確認し、3 号土塁南側の裾部から検出している。土塁裾部に設けられた雨水処理の溝と考えられ、幅 0.34~0.68 m、深さ 0.24 m を測る。東から西へと傾斜し、トレンチ西壁際ではピット状に深くなる。土層観察では、土塁側からの崩落土らしき堆積が確認され、土塁の拡張により埋められている。

2 号溝 (図32)

トレンチ 4 から検出し、石積遺構・2 号土塁と重複する。東西方向にわたり長さ 4.24 m、幅 1.60~1.80 m、深さ 0.44 m を測り、西側に流下する。北側が一段高い平場となるため、地境に設けられた溝であろうか。石積遺構・土塁構築時の盛土整地 (整地層 I) などにより埋没している。

3 号溝 (図31)

3 号土塁南側から検出し、幅 1.00~1.48 m、深さ 0.26 m を測る。地山面に茶褐色土の広がり確認でき、覆土中に大量の礫が混入していた。溝底、立ち上がり部分ともに不明瞭であったため溝跡となるか定かではない。土層観察では、3 号土塁構築以前に機能する溝となる。

4 号溝 (図32)

部分的であるがトレンチ 3、4 の西壁際から検出している。南北方向にわたり長さ 9.40 m、幅 1.10 m、深さ 0.28 m ほどの規模となる。石積遺構と平行し、流下する溝と考えられる。2 号土塁構築時の盛土 (整地層 I) によって、石積遺構とともに埋没する。土層堆積

には、観察地点により整合しない部分がある。埋没後、同一地点に新たな溝が設けられ、新旧二時期の溝が存在する可能性もある。

出土遺物は、かわらけが1点のみである（図36-5）。

5号溝（図30）

トレンチ1から検出し、幅1.74m、深さ0.24mほどを測る。地山面を掘り込んでおり、覆土中には焼土粒が散見し、特に溝底に多く混入していた。立ち上がり部が不明瞭で、不整形な形状をなし、溝となるか定かではない。

かわらけ、瀬戸美濃天目茶碗が出土した（図36-3・4）。

6号溝（図30）

トレンチ1から7号溝と重複して検出された。東西方向にわたり、幅1.92m、深さ0.41mを測り、石組暗渠となる。溝底に長径0.10~0.50mほどの礫を使い、石組により蓋石をかけている。土層観察からは盛土整地（整地層Ⅲ）に際し、構築されたことが明らかである。もともと北側が一段高い平場となっていたらしく、盛土整地による平場面拡大にともない設けられた排水溝となろう。

多くの遺物が石組周辺から出土している。かわらけ、瀬戸美濃天目茶碗、灰釉丸皿、灰釉端反皿、志戸呂播鉢などがある（図36-5~10）。

7号溝（図30）

トレンチ1から6号溝と重複して検出された。東西方向にわたり、西流する溝となるが、6号溝構築により幅1.28m、深さ0.20mを確認するのみである。盛土整地（整地層Ⅲ）以前に機能していたことは明らかであり、一段高い北側平場との間に設けられた地境の溝と推定される。

(5)ピット

トレンチ1から8基を確認している。ピット1・2・4が南北方向に直線的に並び柵列と推定される以外は、散在して検出された。いずれのピットからも出土遺物はなく、柱の痕跡なども確認できなかった。柵列と推定されるピット1と4の間が1.70m、ピット2と4の間は1.80mを測り、径0.28~0.38m、深さ0.22mほどの規模となる。

表5 ピット一覧表（無名曲輪）

（ ）＝現存値 単位：cm

番号	平面形態	長軸	短軸	深さ	土 層 堆 積	備 考（重複関係等）
1	不整円形	34	30	22	焼土・炭化物を含む。	柵列を構成。
2	略円形	28	27	22	焼土・炭化物を含む。	柵列を構成。
3	円形？	13	？	7	黒色土粒が混じる。	整地層Ⅲが覆う。
4	略円形	27	26	25	焼土を含む。暗黄褐色土粒・黒色土粒が混じる。	柵列を構成、5号溝と重複。
5	楕円形	36	26	6	焼土粒が混じる。	
6	長楕円形	46	22	5	焼土粒が混じる。	
7	楕円形	46	31	13	焼土・炭化物を含む。	
8	楕円形？	(36)	24	22	炭化物が混じる。	整地層Ⅲが覆う。

(6)盛土整地層

調査の過程において、盛土整地の痕跡を確認した。館廃絶後の耕地化にともなう整地と区別するのは明確ではないが、面的に広範囲に及ぶと考えられるもの、土層が水平堆積を繰り返すことにより、結果的に水平面を造作しているものを盛土整地と捉えた。

整地層 I (図31・32)

トレンチ3・4から確認された。東西方向への広がりには定かではないが、南北方向にわたり約15.3mの範囲にみられる。トレンチ西壁際から検出した石積遺構は、この盛土により埋められている。2号土塁構築に際して行われたものであり、北側平場との高低差を埋め1号土塁裾部にまで厚さ約0.3mの盛土が及んでいる。依然として1号土塁は機能し続け、約10mの間隔をおいて2号土塁が築造される。

出土遺物には、かわらけ、片口鉢、捏鉢、染付碗がある(図34-20~24、図36-18~23・25~27・30)。

整地層 II (図31・32)

トレンチ3・4から確認された。1号土塁と2号土塁の間、及び1号土塁と3号土塁の間にみられる。約1mに及ぶ盛土により1号、2号土塁は完全に埋没し、1号土塁と3号土塁の間に窪みとして残っていた堀の痕跡も整地され平場空間となる。この際、3号土塁は拡張され、さらに嵩上げされた可能性がある。土塁南側には大量の石が混じり、北側から南側へ傾斜する土層(図31東壁50~52層)が堆積する。この堆積土を削平により崩された土砂と推定し、土塁天端の土層堆積が水平となっているのも上部を削平した痕跡と指摘できよう。拡張した痕跡は確実に認められるが、嵩上げされた痕跡は不明瞭であり可能性のみが指摘できる。約20mに及ぶ平場空間が造作されたことになるが、その南側には3号土塁を拡張し、大規模化した土塁が構築されたことになる。

出土遺物は、大部分がロクロ成形され、底部に糸切り痕を残すかわらけ片である。他に播鉢、捏鉢、瀬戸美濃鉄釉合子、瀬戸美濃播鉢がある(図34-5~8・13・14・18・27・28・30、図35-8~15・18~20、図36-24)。

整地層 III (図30)

トレンチ1から確認された。トレンチ中央を境に北側は一段高い平場となっていたらしく、盛土整地により平坦面を拡大している。南北方向にわたり約8.4mの範囲にみられ、厚さ約0.1~0.4m盛土される。もとの地形では段差が存在し、地山と整地層の境になる箇所を意識して石組暗渠を設けている。平坦面の拡大を意図して行われているが、上段で確認した盛土整地(整地層II)にともない同時に実施されたと考えられる。上段に約20mの平場空間が造作され、かつ3号土塁が拡張された結果、平場空間が狭くなり拡大する必要が生じたためと解釈できる。

かわらけ、青磁碗、白磁端反皿が出土する(図36-12~16)。

(7)遺構外出土遺物(図36-28・29・31~33、図37)

各トレンチ一括出土遺物を取りあげる。多くの遺物が出土しているが、大部分はかわらけ片であり、フイゴ羽口・鉛玉・銭貨も見られた。

かわらけは全てロクロ成形され底部に糸切り痕を残すものであり、二次的に使用され、ススなどが付着するもの(図36-28、図37-1・2・8・11)がある。他に、播鉢・鍋・鉢・染付碗・瀬戸美濃天目・灰釉皿などがある。

第3節 小 括

南北方向にわたり約40mの範囲を調査し、多くの遺構・遺物を検出するとともに新たな知見を得ることができた。検出した遺構は重複関係あるいは盛土整地状況から何時期かの変遷が捉えられている。個々の遺構すべてについてその変遷過程を追うことは困難であるが、盛土整地を画期として様相は大きく変化し、大別して3段階の時期変遷を把握した。

I 期

1号土塁・堀・2号溝・7号溝などが存在すると考えられる。地山面の検出レベルなどから、確認した範囲で地形は約0.2~0.8mの段差を生じつつ4段程度に成形されており、土塁・溝などは上段と段差が生じる部分に構築されている。検出された土塁は、堀と一対となり高さ1mほどの低土塁となる。段差部分を利用して構築することにより数値以上の高さが存在したことになる。地形的制約により、曲輪内は段構造となり、そのため発生する段差を活用して土塁などが配置されている。

II 期

1号土塁北側には、新たに盛土整地（整地層I）が行われ、約10m離れ2号土塁が構築される。かつ自然埋没した堀跡を整地し、3号土塁が築造されている段階とする。盛土整地により1号土塁裾部は0.3mほど埋まるが、依然として存在し、堀跡は窪みとして残っており1号・3号土塁が近接して平行する。調査では、2号土塁と3号土塁が同時に築造されたか判断できなかったが、次段階には盛土整地により同時に埋没していることから、一時期、同時に存在したと推定した。

1号土塁と2号土塁は、単に曲輪内を仕切る土塁として存在したのか、あるいは枡形などを構成するのか定かでない。埋没した堀に代わり新たに土塁を築き、二重土塁とするなど複雑な様相となる。

III 期

約1mに及ぶ盛土整地（整地層II）が行われ、1号・2号土塁は完全に埋没し、窪みとして残っていた堀跡も整地され平坦地化する。広さ約20mの平場空間が造作されるが、この際、3号土塁は南に拡張され、大規模化する。こうした一連の変化によって、南側空間は狭くなり、平場空間を拡大する必要から盛土整地（整地層III）が行われている。4段ほど存在した平場空間は、拡大して2段となる。ここでも段差部分を活用して土塁が配置されている。

盛土整地を画期として、3段階の変遷を推定したが、2号土塁には拡張の痕跡があり、3号土塁の構築期も課題として残っている。各期の間にはもう一段階推定できるかもしれない。盛土整地を画期としたため必ずしも連続する変遷とはならず、各期の間にさらなる変遷が推定できる。今後の検討課題となろう。

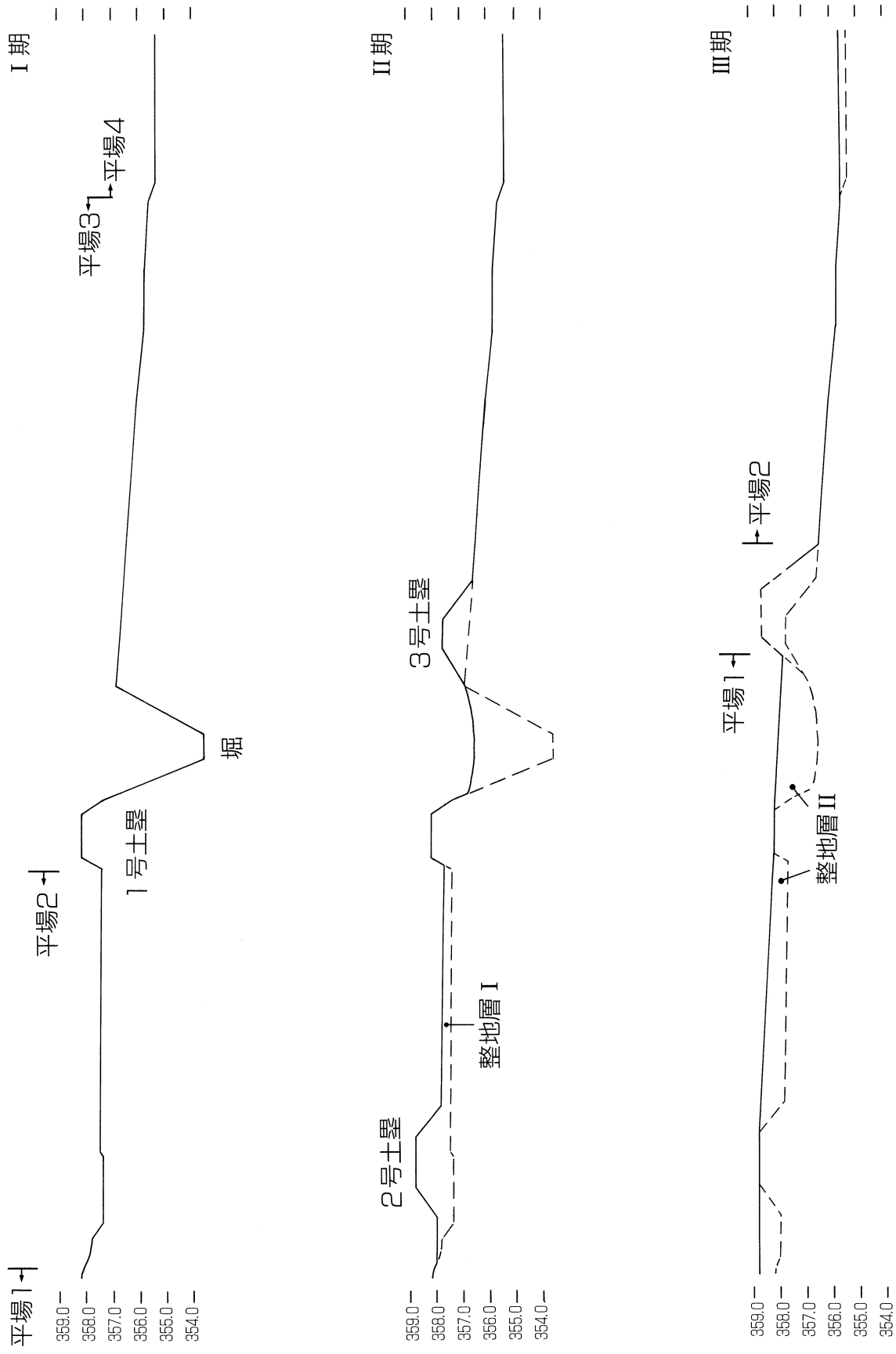


図33 無名曲輪変遷推定図

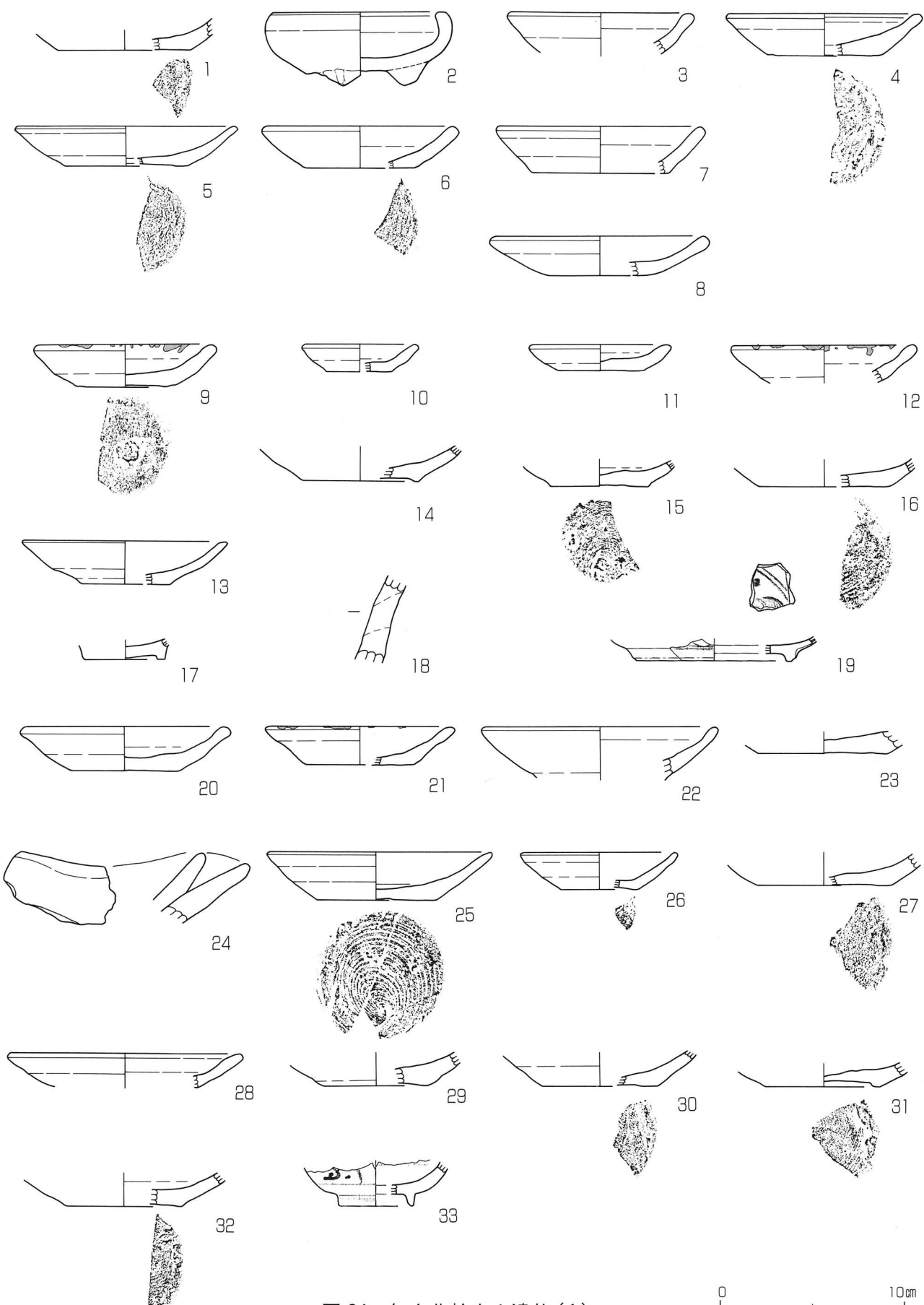
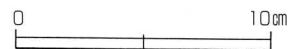


图 34 無名曲輪出土遺物(1)



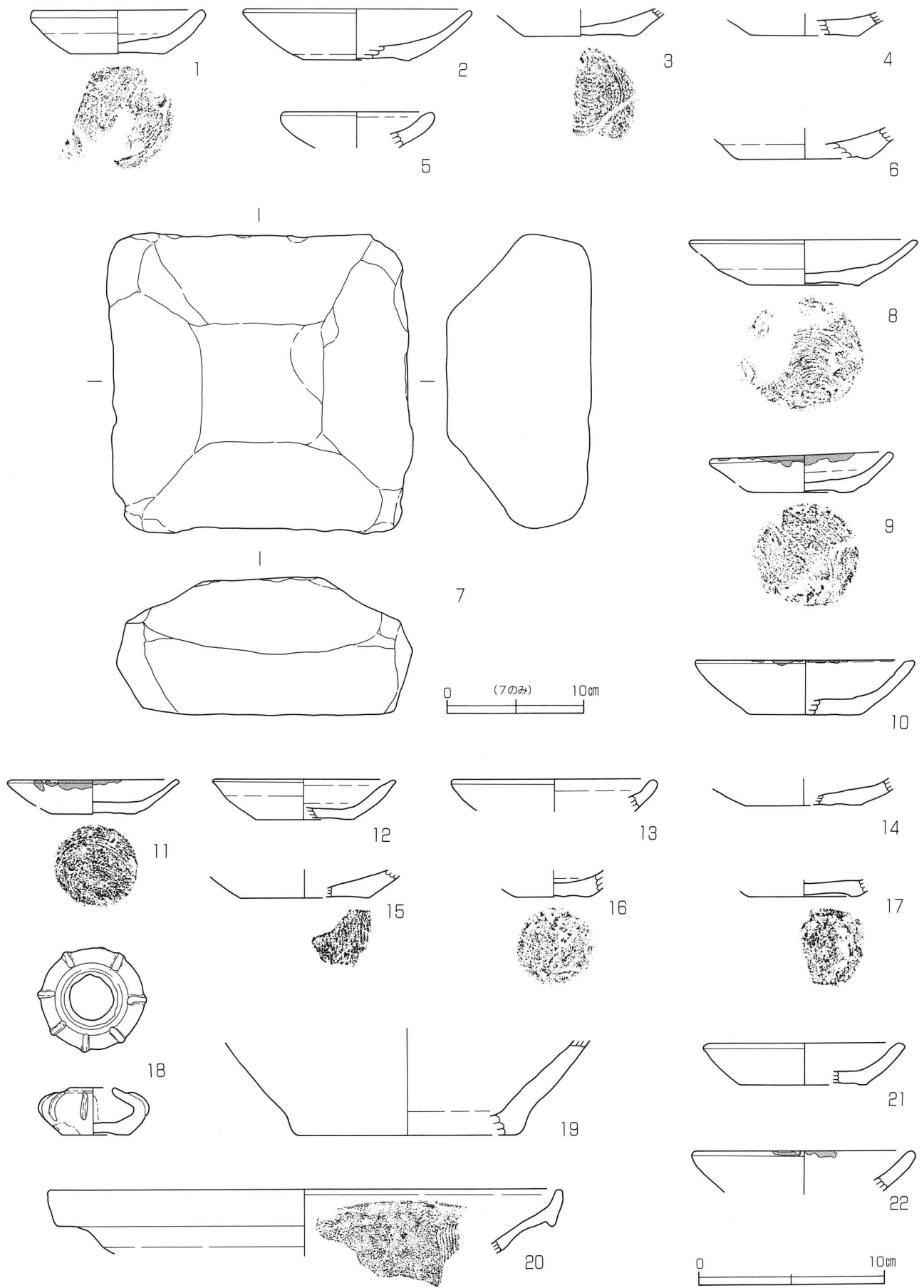


図 35 無名曲輪出土遺物(2)

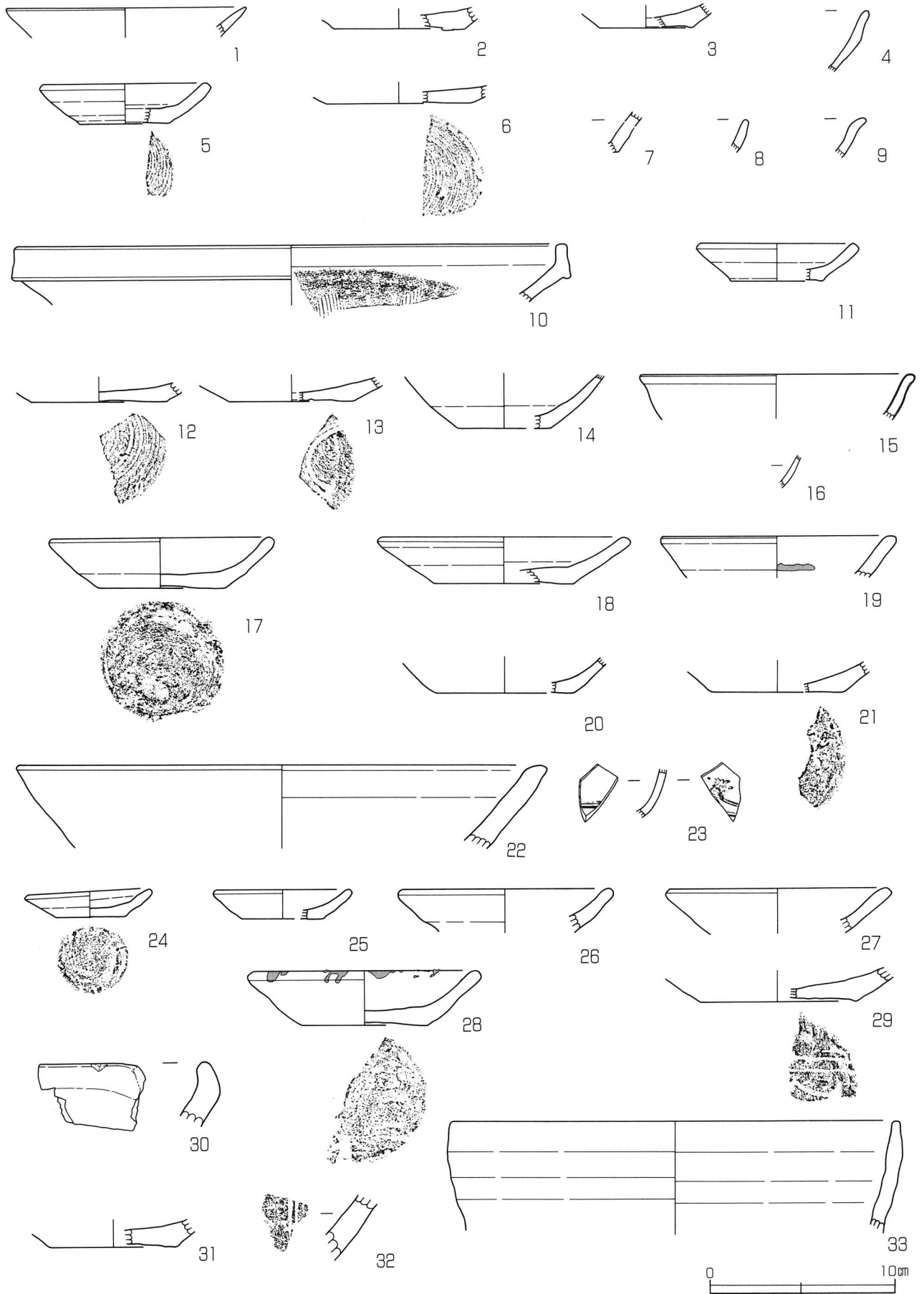


图 36 無名曲輪出土遺物(3)

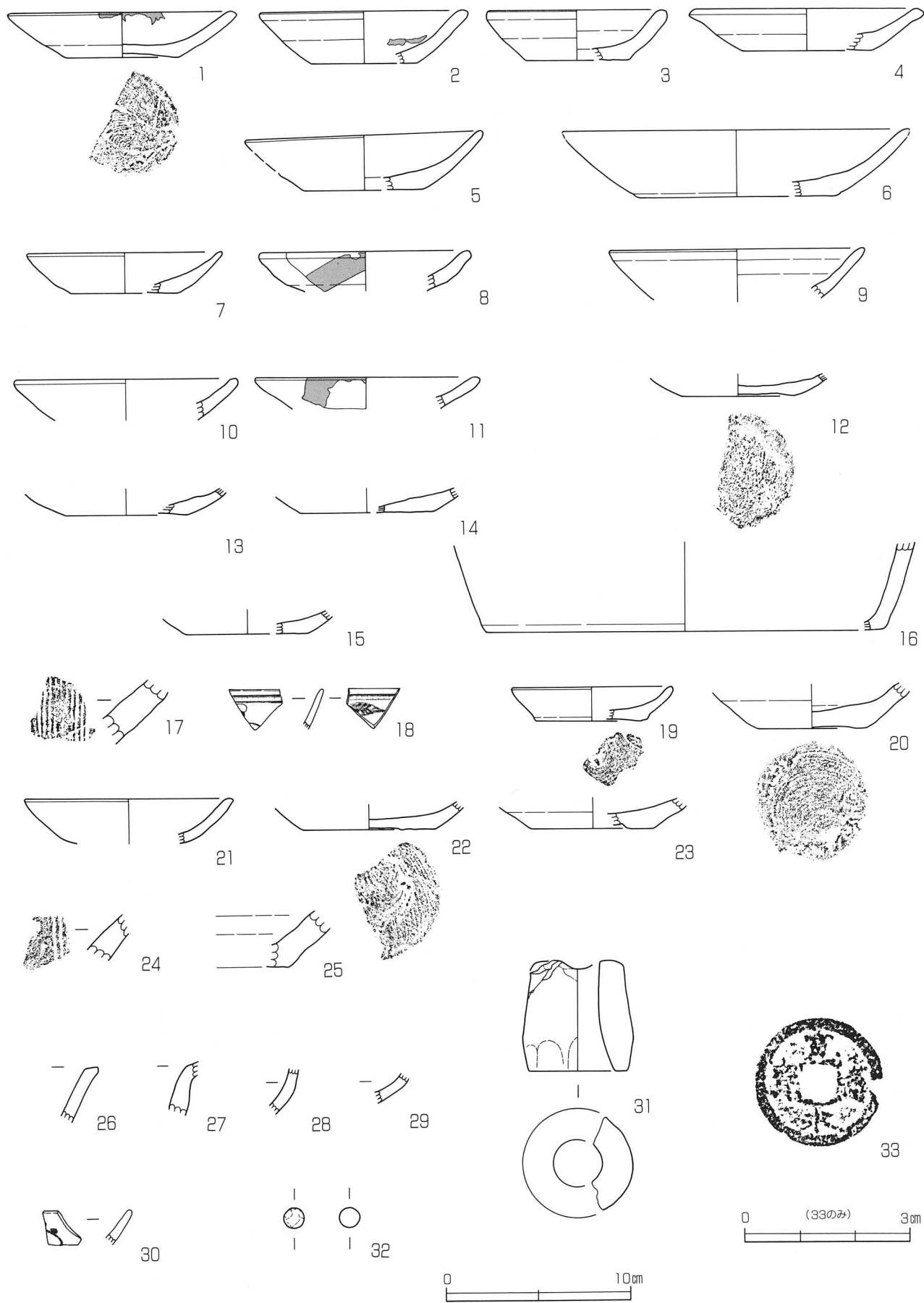


図 37 無名曲輪出土遺物(4)

表6 無名曲輪出土遺物観察表

() 復元値

図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考(時代等)
				口径	底径	器高					
34	1	1号土壘	土器 かわらけ		(7.2)		体部 ~底部	ロクロ成形	やや密	明赤褐色	
〃	2	1号土壘	土器 香炉	9.4	5.8	4.0	完形	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	明赤褐色	
〃	3	1号土壘	土器 かわらけ	(9.8)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	4	1号土壘	土器 かわらけ	(10.4)	(6.4)	(2.3)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	5	整地層II 1号土壘北	土器 かわらけ	(11.8)	(6.6)	(2.2)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	6	整地層II 1号土壘北	土器 かわらけ	(10.2)	(6.0)	(2.3)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	7	整地層II 1号土壘北	土器 かわらけ	(11.0)	(7.5)	(2.6)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	8	整地層II 1号土壘北	土器 かわらけ	(11.6)			口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	9	2号土壘	土器 かわらけ	(9.4)	(5.4)	(2.3)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り 口縁部スス附着	やや密	橙色	
〃	10	2号土壘	土器 かわらけ	(6.0)	(3.6)	(1.5)	口縁 ~底部	ロクロ成形	密	橙色	
〃	11	2号土壘 拡張部	土器 かわらけ	(9.4)	(4.6)	(1.4)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	12	2号土壘	土器 かわらけ	(7.8)			口縁 ~体部	ロクロ成形、口縁部タール附着	密	橙色	
〃	13	整地層II 2号土壘南	土器 かわらけ	(11.0)	(4.8)	(2.4)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	14	整地層II 2号土壘南	土器 かわらけ		(6.4)		体部 ~底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	15	2号土壘	土器 かわらけ		(5.2)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	16	2号土壘 拡張部	土器 かわらけ		(7.0)		底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	17	2号土壘	瀬戸美濃 天目茶碗		4.4		底部	削り出し高台、錆釉	密	胎土/浅黄橙色 釉/黒褐色	大窯1
〃	18	整地層II 2号土壘南	土器 捏鉢(?)				体部	ロクロ成形	やや密	明赤褐色	
〃	19	2号土壘	染付 端反皿		(8.4)		底部	高台部へラ削り	緻密	灰白色	15c後半~16c中頃
〃	20	整地層I	土器 かわらけ	(10.8)	(5.8)	(2.4)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	
〃	21	整地層I	土器 かわらけ	(9.8)	(5.8)	(1.9)	口縁 ~底部	ロクロ成形、口縁部スス附着	やや粗	橙色	
〃	22	整地層I	土器 かわらけ	(12.6)			口縁 ~体部	ロクロ成形	密	橙色	
〃	23	整地層I	土器 かわらけ		(7.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	24	整地層I	土器 片口鉢				口縁部		やや密	橙色	
〃	25	2号土壘 拡張部	土器 かわらけ	12.1	6.6	2.6	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
〃	26	2号土壘 拡張部	土器 かわらけ	(8.2)	(4.2)	(2.0)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り 被熱により瓦質化、内面溶融物附着	密	内面/褐灰色 外面/灰白色	
〃	27	整地層II 1号土壘北	土器 かわらけ		(7.4)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	28	整地層II 2号土壘南	土器 かわらけ	(12.4)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	橙色	
〃	29	2号土壘 拡張部	土器 かわらけ		(5.6)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	30	整地層II 2号土壘南	土器 かわらけ		(6.4)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	褐灰色	
〃	31	2号土壘 拡張部	土器 かわらけ		(6.2)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り 被熱により瓦質化、内面溶融物附着	やや粗	灰白色	
〃	32	2号土壘 拡張部	土器 かわらけ		(6.2)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	33	2号土壘 拡張部	染付 碗		(4.2)		体部 ~底部		緻密	灰白色	
35	1	3号土壘	土器 かわらけ	(9.6)	(5.2)	(2.4)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
〃	2	3号土壘	土器 かわらけ	(12.2)	(5.8)	(2.8)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	
〃	3	3号土壘	土器 かわらけ		(6.2)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	
〃	4	3号土壘	土器 かわらけ		(5.8)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	

図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考(時代等)
				口径	底径	器高					
35	5	3号土壘	土器 かわらけ	(8.4)			口縁 ~底部	ロクロ成形	密	橙色	
"	6	3号土壘	土器 かわらけ		(7.2)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	7	3号土壘	石製品 五輪塔				火輪				
"	8	整地層II 1号堀	土器 かわらけ	(12.2)	6.0	2.5	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	鈍い橙色	
"	9	整地層II 1号堀	土器 かわらけ	(9.7)	5.7	2.0	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り 口縁部スス付着	密	鈍い橙色	
"	10	整地層II 1号堀	土器 かわらけ	(12.0)	(6.1)	(3.0)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り 口縁部スス付着	密	橙色	
"	11	整地層II 1号堀	土器 かわらけ	(9.0)	4.6	1.9	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り 口縁部スス付着	密	橙色	
"	12	整地層II 1号堀	土器 かわらけ	(10.0)	(5.4)	(2.2)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	
"	13	整地層II 1号堀	土器 かわらけ	(11.0)			口縁部	ロクロ成形	密	橙色	
"	14	整地層II 1号堀	土器 かわらけ		(6.2)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	15	整地層II 1号堀	土器 かわらけ		(7.2)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	16	1号堀埋土	土器 かわらけ		4.2		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	17	1号堀埋土	土器 かわらけ		(6.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	18	整地層II 1号堀	瀬戸美濃 鉄釉合子	2.4	3.7	2.6	完形	底部へら切り 外面体部に貼付紐7本	密	胎土/灰白色 釉/オリープ灰色	14c前半~中頃
"	19	整地層II 1号堀	土器 播鉢		(12.0)		体部 ~底部	播鉢摩耗	やや密	橙色	
"	20	整地層II 1号堀	瀬戸美濃 播鉢	(28.2)			口縁部	錆釉	密	胎土/浅黄橙色 釉/褐灰色	大窯2
"	21	1号堀埋土	土器 かわらけ	(10.4)	(6.8)	(2.3)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	22	1号堀埋土	土器 かわらけ	(12.0)			口縁 ~体部	ロクロ成形、口縁部にスス付着	やや粗	橙色	
36	1	石積遺構	土器 かわらけ	(13.0)			口縁部	ロクロ成形	密	橙色	
"	2	石積遺構	土器 かわらけ		(7.2)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	3	5号溝	土器 かわらけ		(5.0)		体部 ~底部	ロクロ成形	やや密	鈍い赤褐色	
"	4	5号溝	瀬戸美濃 天目茶碗				口縁 ~体部	被熱	やや密	胎土/灰白色 釉/黒褐色	大窯2
"	5	6号溝	土器 かわらけ	(8.8)	(5.0)	(2.2)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	6	6号溝	土器 かわらけ		(8.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
"	7	6号溝	瀬戸美濃 天目茶碗				体部	回転へら削り、体部下半露胎	密	胎土/灰白色 釉/暗褐色	古瀬戸後IV
"	8	6号溝	瀬戸美濃 灰釉丸皿				口縁部		やや密	胎土/灰白色 釉/浅黄色	大窯2
"	9	6号溝	瀬戸美濃 灰釉端反皿				口縁 ~体部		やや密	胎土/灰白色 釉/灰オリープ色	大窯1
"	10	6号溝	志戸呂(?) 播鉢	(30.2)			口縁部	青錆	密	胎土/灰白色 釉/暗赤褐色	大窯2
"	11	4号溝	土器 かわらけ	(8.4)	(5.1)	(2.1)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	鈍い橙色	
"	12	整地層III	土器 かわらけ		(7.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	浅黄橙色	
"	13	整地層III	土器 かわらけ		(6.8)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	14	整地層III	土器 かわらけ		(5.0)		体部 ~底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
"	15	整地層III	青磁 碗	(15.0)			口縁部		緻密	胎土/灰白色 釉/灰オリープ色	15c前半
"	16	整地層III	白磁 端反皿				体部	ロクロ成形	緻密	白色	15c後半
"	17	1号土壘	土器 かわらけ	(11.8)	(6.8)	(2.8)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	18	整地層I 3トレ	土器 かわらけ	(13.2)	(7.6)	(2.6)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
"	19	整地層I 3トレ	土器 かわらけ	(12.6)			口縁 ~体部	ロクロ成形、内面タール付着	やや密	内面/橙色 外面/黒褐色	
"	20	整地層I 3トレ	土器 かわらけ		(7.4)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	

図	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考(時代等)
				口径	底径	器高					
36	21	整地層 I 3トレ	土器 かわらけ		(7.2)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	22	整地層 I 3トレ	土器 播鉢(?)	(29.0)			口縁部	ロクロ成形	やや密	橙色	
"	23	整地層 I 3トレ	染付 碗				体部	内面界線、外面波濤文(?)	緻密	灰白色	15c後半~16c中頃
"	24	整地層 II 4トレ	土器 かわらけ	6.6	3.8	1.4	完形	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
"	25	整地層 I 4トレ	土器 かわらけ	(7.2)	(4.4)	(1.6)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	26	整地層 I 4トレ	土器 かわらけ	(11.2)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	浅黄橙色	
"	27	整地層 I 4トレ	土器 かわらけ	(11.8)			口縁 ~体部	ロクロ成形	密	橙色	
"	28	2トレ一括	土器 かわらけ	(12.2)	(7.0)	(3.0)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り 口縁部タール付着、被熱	やや粗	黒褐色	
"	29	2トレ一括	土器 かわらけ		(8.6)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
"	30	整地層 I 4トレ	土器 片口鉢				口縁部	横ナテ	やや粗	鈍い橙色	
"	31	3トレ一括	土器 かわらけ		(7.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	黒褐色	
"	32	2トレ一括	土器 播鉢				体部		やや粗	浅黄橙色	
"	33	2トレ一括	土器 鍋	(24.2)			口縁 ~体部		やや粗	橙色	
37	1	3トレ一括	土器 かわらけ	(12.0)	(6.2)	(2.5)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り 口縁部内外面スス付着	やや密	鈍い橙色	
"	2	3トレ一括	土器 かわらけ	(11.4)	(5.8)	(2.9)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り 見込部タール付着	やや密	明赤褐色	
"	3	3トレ一括	土器 かわらけ	(9.8)	(5.8)	(2.8)	口縁 ~底部	ロクロ成形	やや密	橙色	
"	4	3トレ一括	土器 かわらけ	(12.2)	(7.0)	(2.3)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	5	3トレ一括	土器 かわらけ	(12.9)	(6.5)	(3.0)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	鈍い橙色	
"	6	3トレ一括	土器 かわらけ	(19.0)	(11.2)	(3.7)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	黒褐色	
"	7	3トレ一括	土器 かわらけ	(10.6)	(5.8)	(2.2)	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	浅黄橙色	
"	8	3トレ一括	土器 かわらけ	(11.4)			口縁 ~体部	ロクロ成形 外面体部スス付着	やや密	橙色	
"	9	3トレ一括	土器 かわらけ	(11.8)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや密	浅黄橙色	
"	10	3トレ一括	土器 かわらけ	(12.2)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや粗	橙色	
"	11	3トレ一括	土器 かわらけ	(12.2)			口縁 ~体部	ロクロ成形 内外面タール・スス付着	密	内面/黒褐色 外面/鈍い褐色	
"	12	3トレ一括	土器 かわらけ		(6.0)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	
"	13	3トレ一括	土器 かわらけ		(6.6)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	14	3トレ一括	土器 かわらけ		(7.4)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	15	3トレ一括	土器 かわらけ		(6.6)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	浅黄橙色	
"	16	3トレ一括	土器 (内耳)鍋		(21.2)		体部 ~底部		やや粗	橙色	
"	17	3トレ一括	土器 播鉢				体部		やや密	橙色	
"	18	3トレ一括	染付 碗				口縁部		密	灰白色	
"	19	4トレ一括	土器 かわらけ	(8.6)	(5.8)	1.8	口縁 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや密	橙色	
"	20	4トレ一括	土器 かわらけ		6.0		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	橙色	
"	21	4トレ一括	土器 かわらけ	(11.6)			口縁 ~体部	ロクロ成形	やや粗	橙色	
"	22	4トレ一括	土器 かわらけ		(7.2)		底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	やや粗	鈍い褐色	
"	23	4トレ一括	土器 かわらけ		(6.6)		体部 ~底部	ロクロ成形、底部回転糸切り	密	橙色	
"	24	4トレ一括	土器 播鉢				体部		やや粗	浅黄橙色	
"	25	4トレ一括	土器 播鉢(?)				底部		やや粗	橙色	
"	26	4トレ一括	土器 鉢(?)				口縁部		粗	橙色	

() 復元値

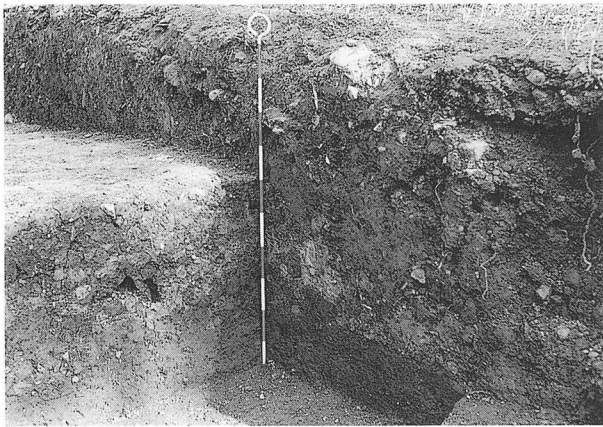
図番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)			部位	観察所見 (調整・文様・その他)	胎土	色調	備考(時代等)		
			口径	底径	器高							
37	27	4トレー括	灰釉陶器	壺(?)				口縁部		緻密	灰白色	
"	28	4トレー括	瀬戸美濃	天目茶碗				体部		緻密	胎土/灰白色 釉/極暗赤褐色	
"	29	4トレー括	瀬戸美濃	灰釉皿				体部		やや密	胎土/浅黄橙色 釉/灰白色	
"	30	4トレー括	染付	碗				口縁部		緻密	灰白色	
"	31	4トレー括	土製品	フイゴ羽口						粗	橙色	
"	32	4トレー括	金属製品	鉛玉	直径1.1cm・重量7.0g							
"	33	4トレー括	銭貨		径2.38cm・孔径0.63cm・厚0.13cm							寛永通宝



御隠居曲輪南作業風景



トレンチ状況



土層堆積状況



主郭部調査状況



主郭部調査状況



作業風景

図版 1 御隠居曲輪南・主郭部調査



主郭部調査状況



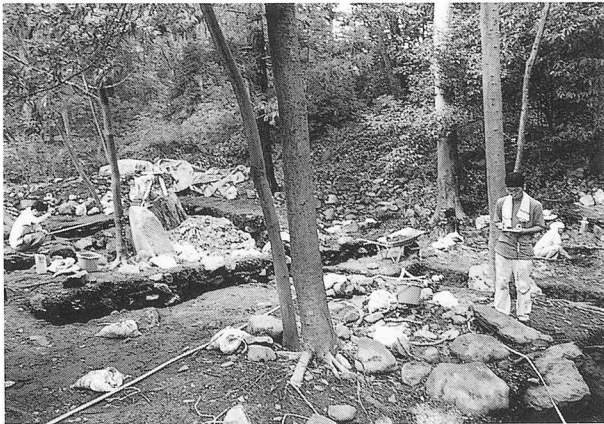
土塁基底層検出状況



土塁基底層検出遺物



土層堆積状況



作業風景



埋戻し状況

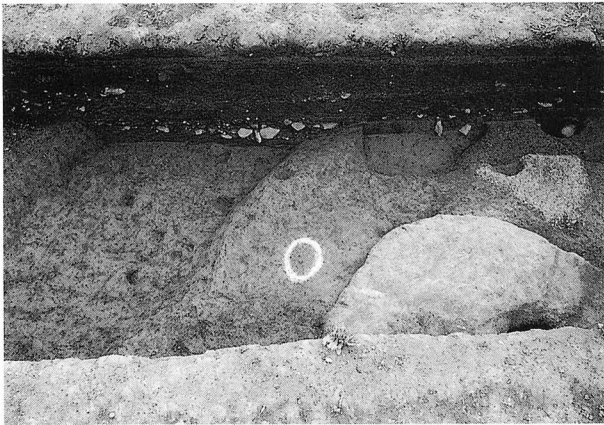
図版2 主郭部調査



1号石塁



1号石塁



6・9号溝



トレンチ1



トレンチ1

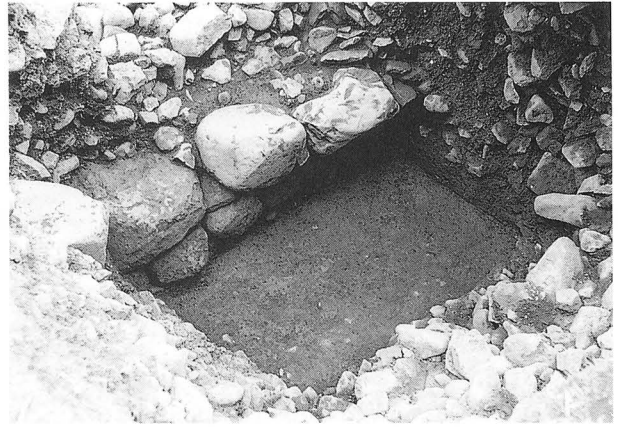


1号土坑

図版3 大手調査



1号石塁東側石積



1号石塁西側石積



1号石塁土層堆積



1号堀



2・3号溝



2・3号土坑、ピット1～3

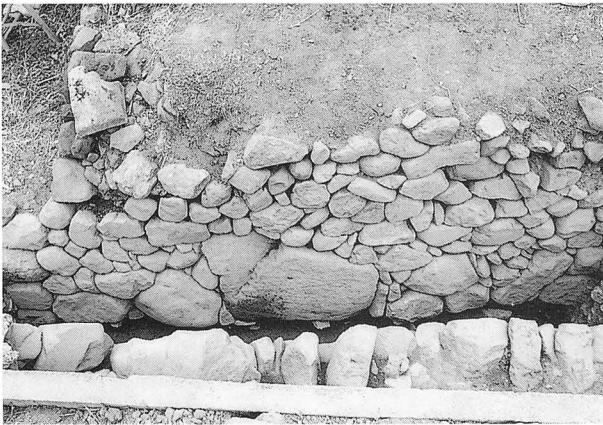
図版4 大手調査



掘立柱建物跡



作業風景



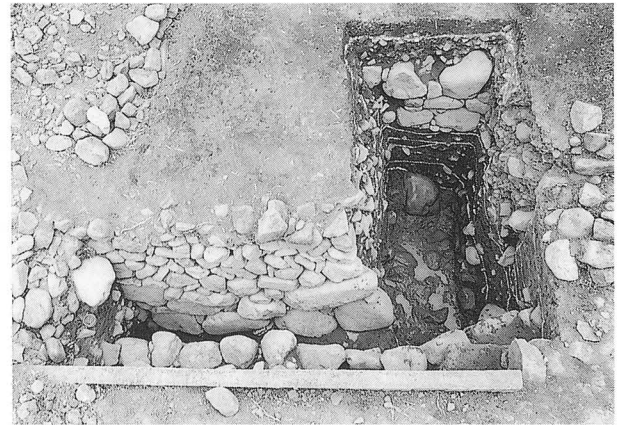
1号溝石積



1号溝石積

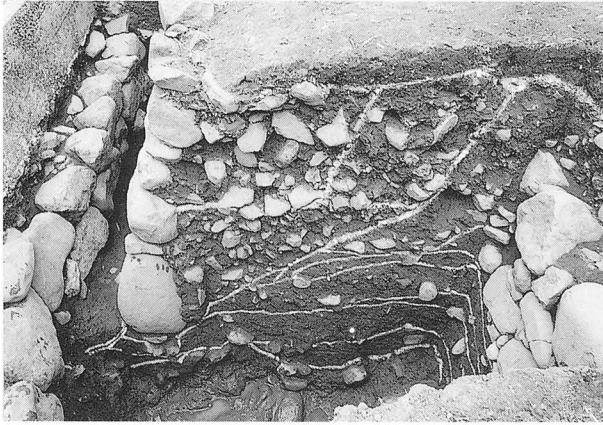


1号溝石積



トレンチ 2

図版5 大手調査



トレンチ 2 土層堆積



1・2号石列



トレンチ 3



1号石塁石積・3号石列



4号石列

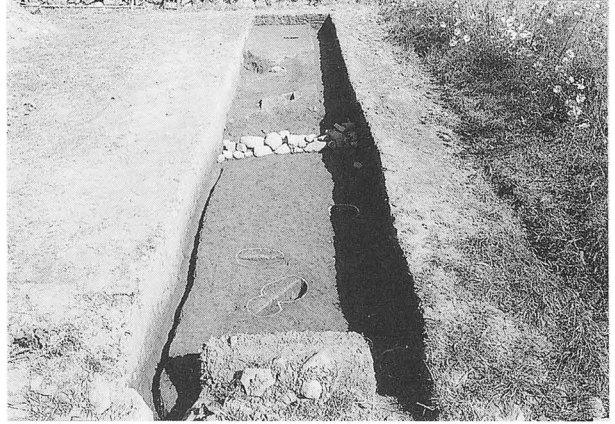


トレンチ 4

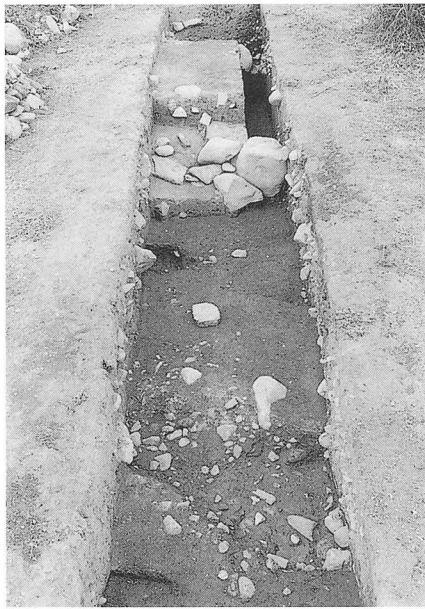
図版 6 大 手 調 査



遺構養生状況



無名曲輪トレンチ 1



無名曲輪トレンチ 2



作業風景



1号土塁



土層堆積状況

図版 7 大手・無名曲輪調査



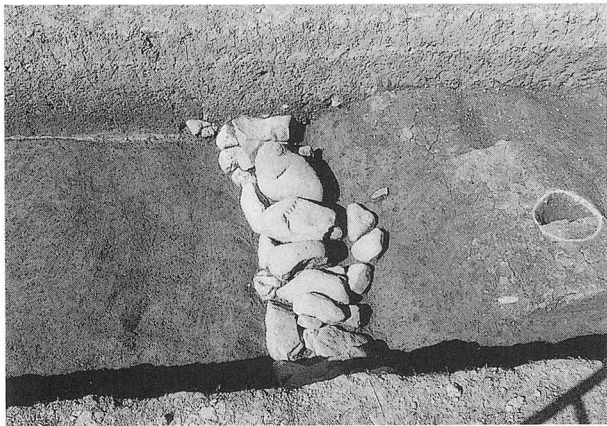
1号堀



2号土塁



トレンチ2土層堆積



6号溝

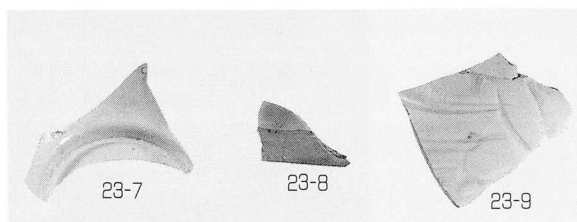
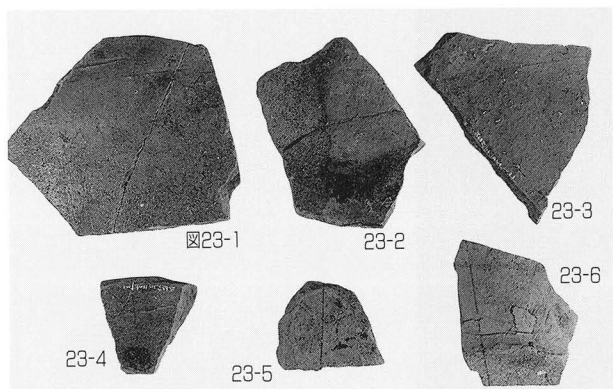
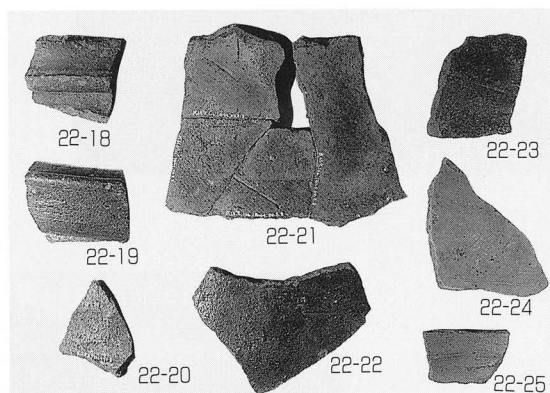
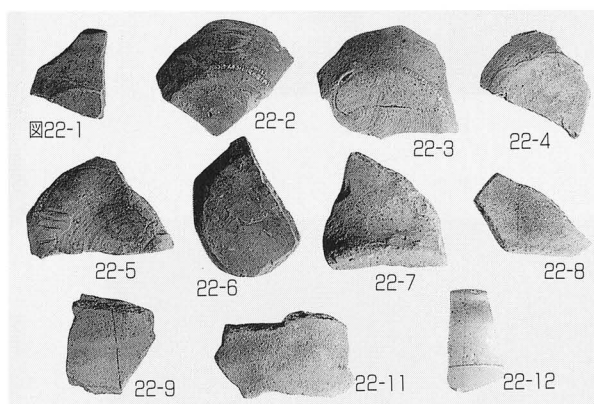
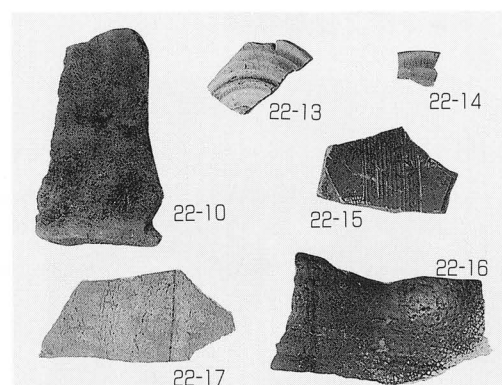
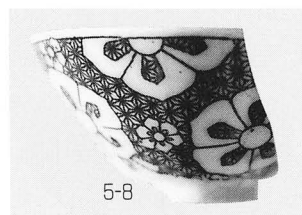
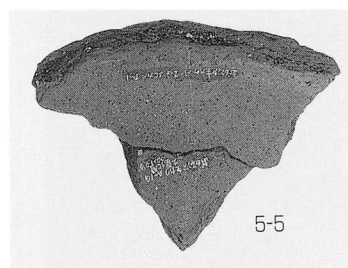
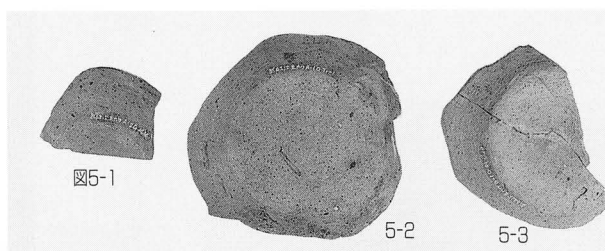
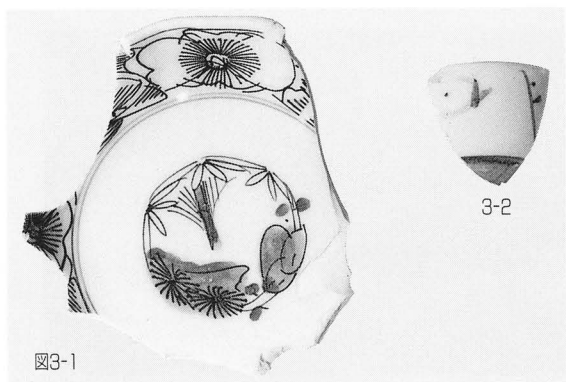


石積遺構

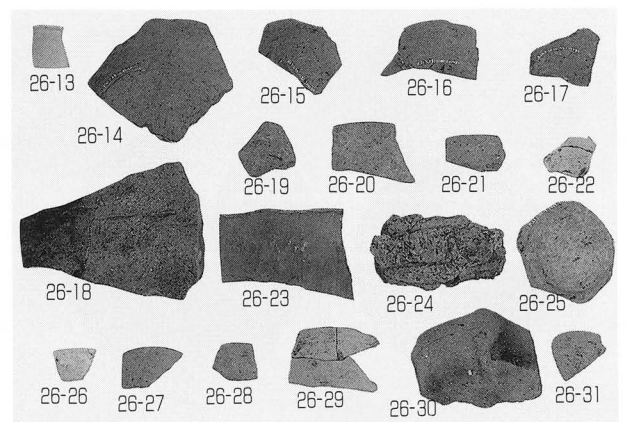
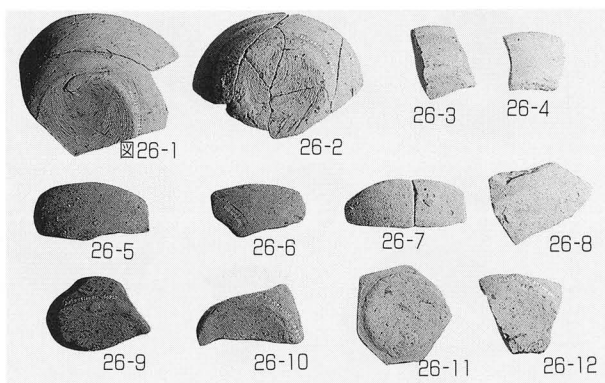
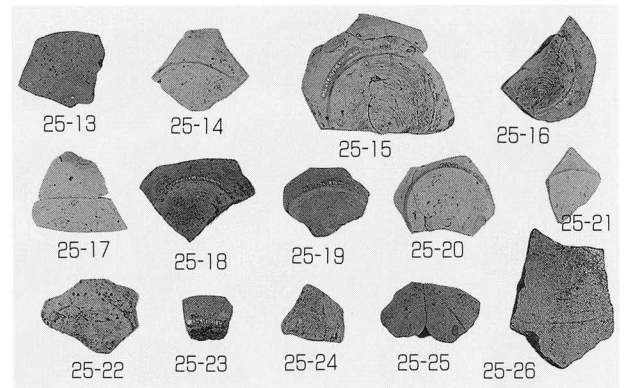
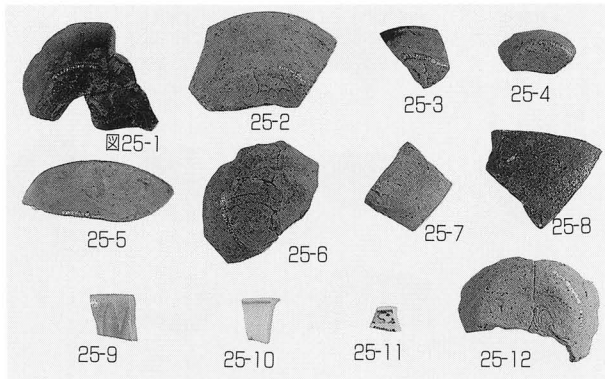
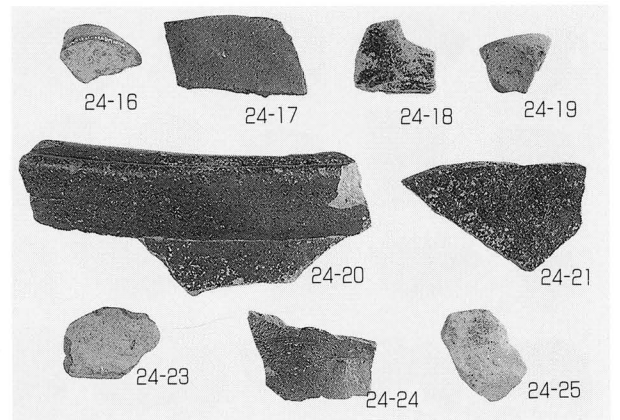
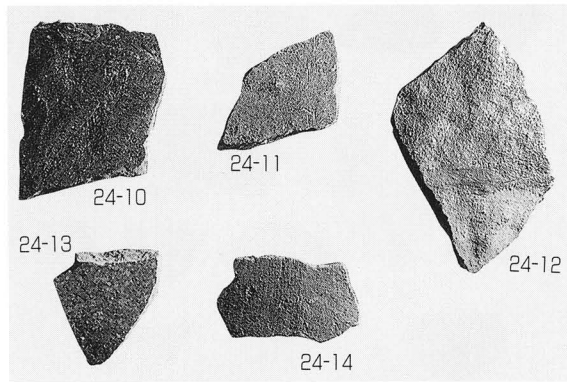
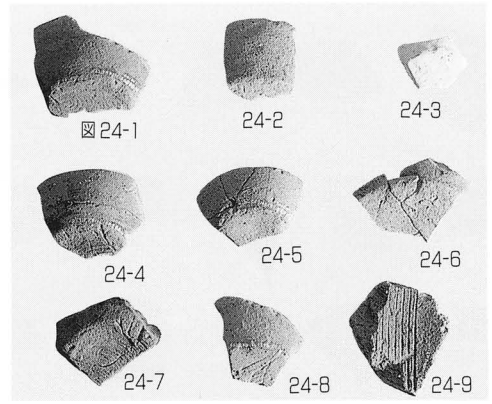
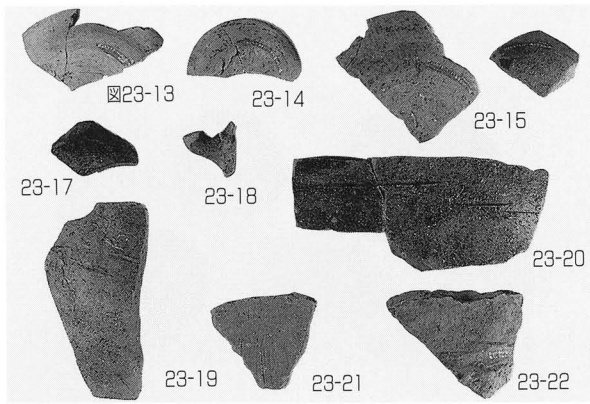


調査参加者

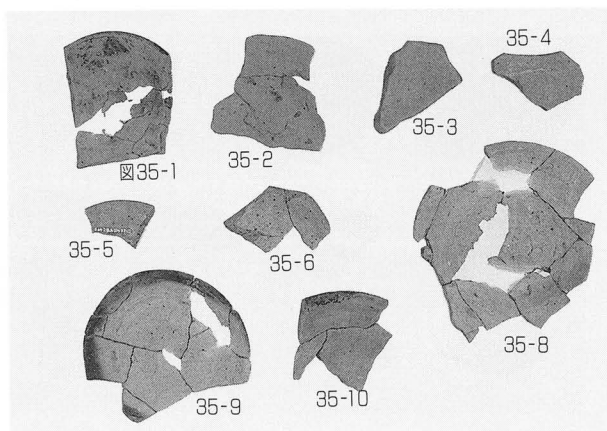
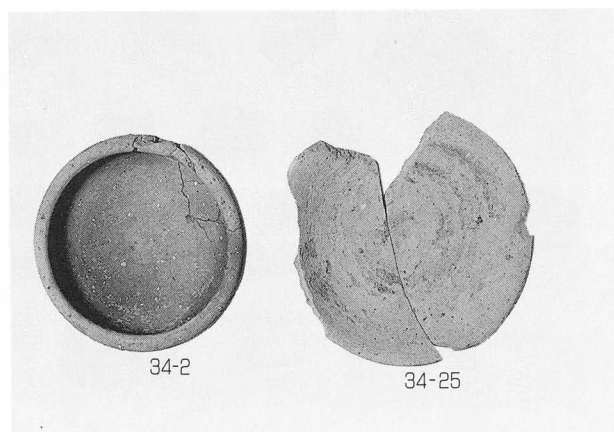
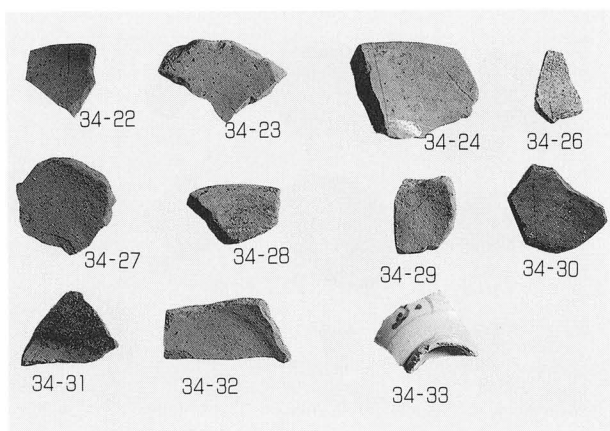
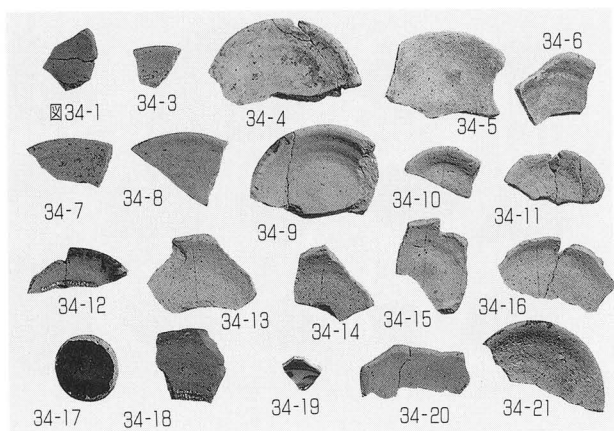
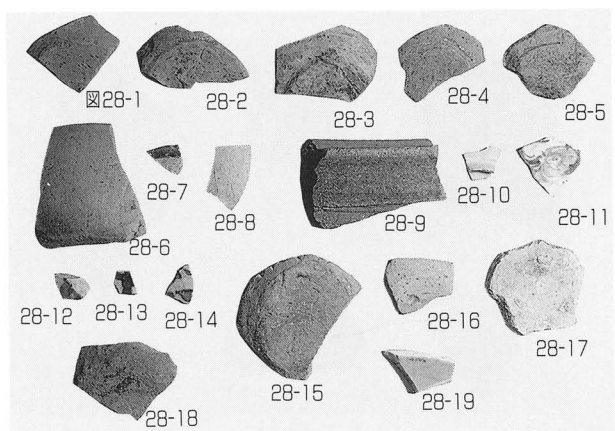
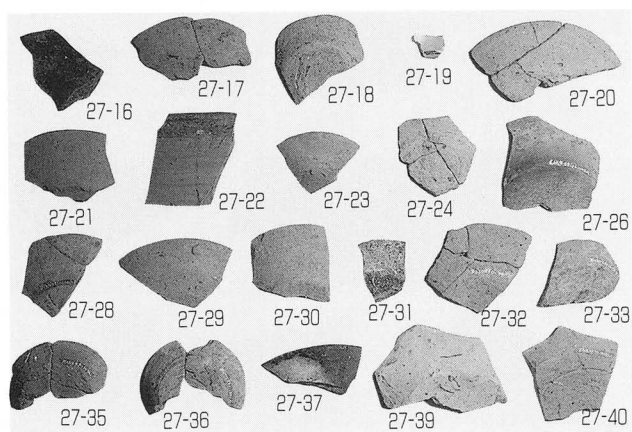
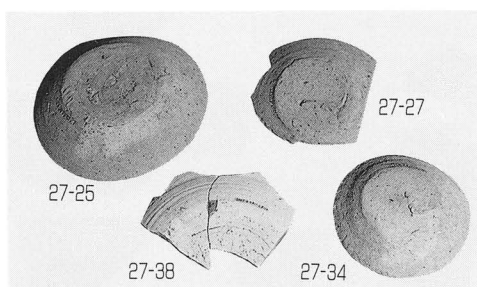
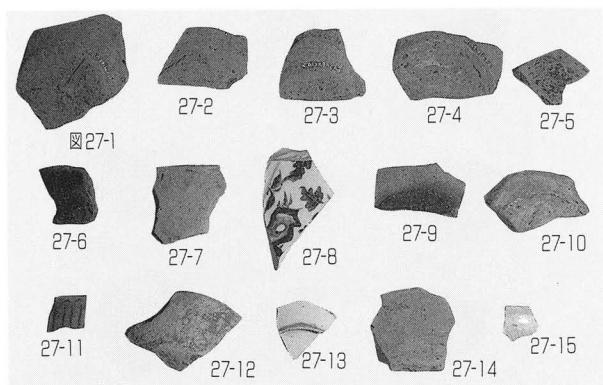
図版8 無名曲輪調査



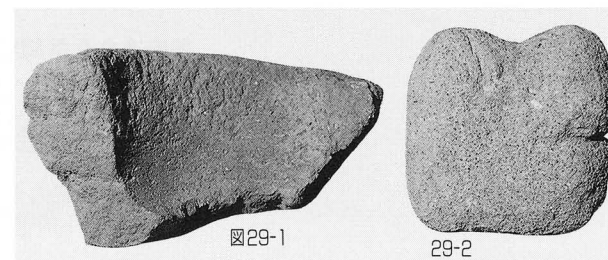
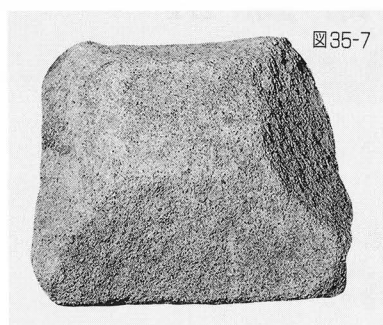
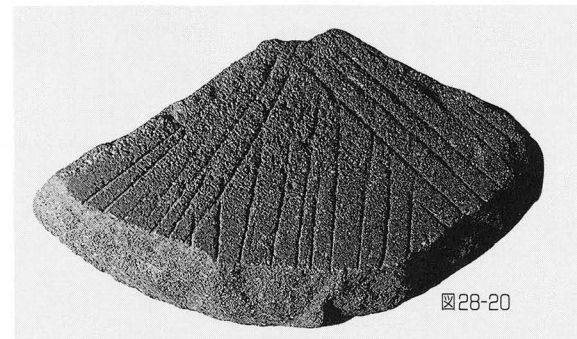
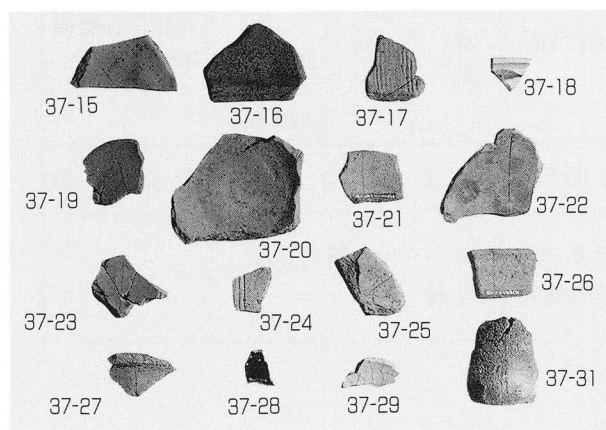
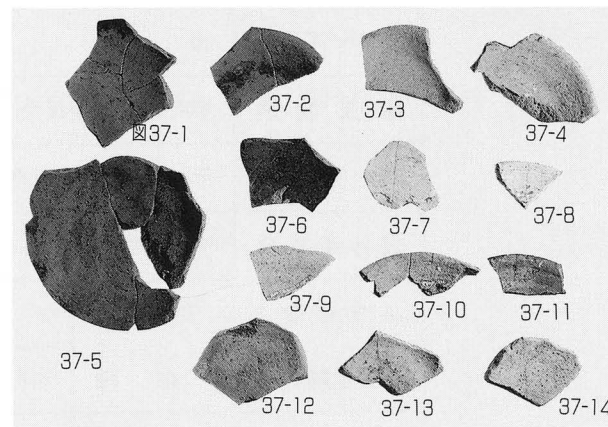
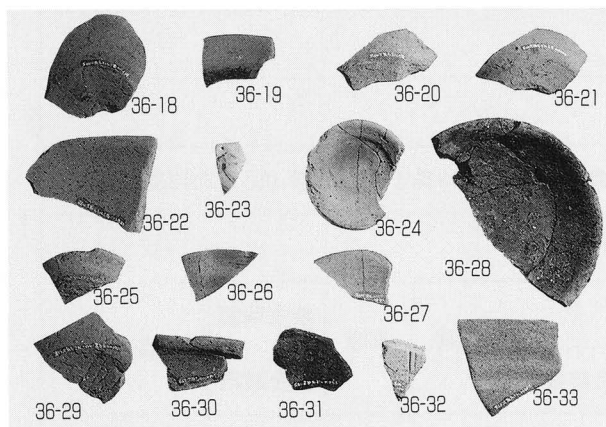
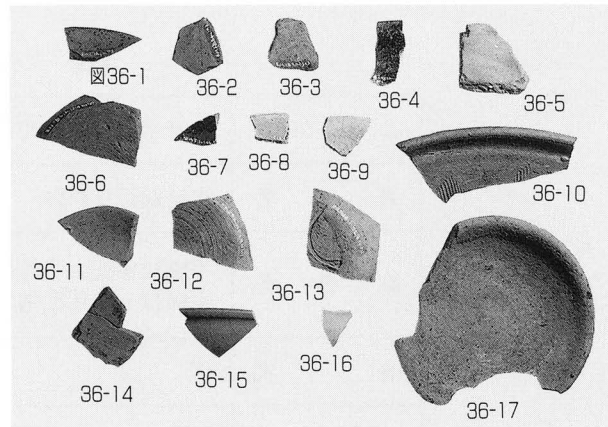
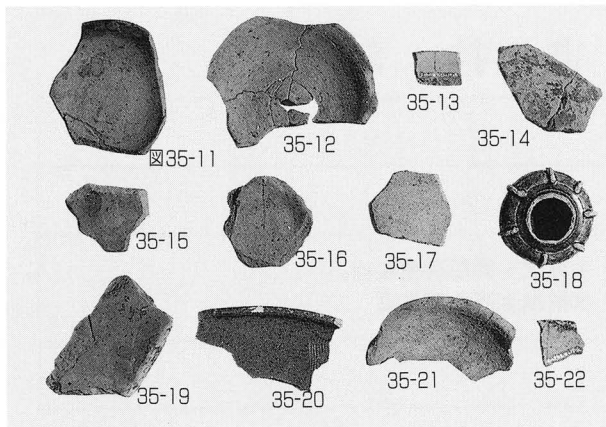
图版9 出土遺物(1)



图版10 出土遺物(2)



图版11 出土遺物 (3)



图版12 出土遺物(4)

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきたけだしやかたあと						
書名	史跡武田氏館跡						
副書名	平成12年度大手馬出土墓・主郭部・御隠居曲輪南、 平成12～13年度無名曲輪、試掘調査概要報告書						
巻次	IX						
シリーズ名	甲府市文化財調査報告						
シリーズ番号	20						
編集機関	甲府市教育委員会						
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話 055(223)7324						
発行年月日	平成14年3月25日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / ''	東経 ° / ' / ''	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号			調査面積	
たけだしやかたあと 武田氏館跡	やまなしけんこうふし 山梨県甲府市 こふちゅうまち 古府中町 やかたさんちようめ 屋形三丁目 おおてさんちようめ 大手三丁目	19201	01110	35° 40' 58''	138° 34' 50''	20000727 ～ 20010620 459.3㎡	史跡保存整備 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
武田氏館跡	城館跡	中世	石墓、土墓、堀、 溝、掘立柱建物	かわらけ、瀬戸美濃、 染付			

甲府市文化財調査報告20

史跡 武田氏館跡 IX

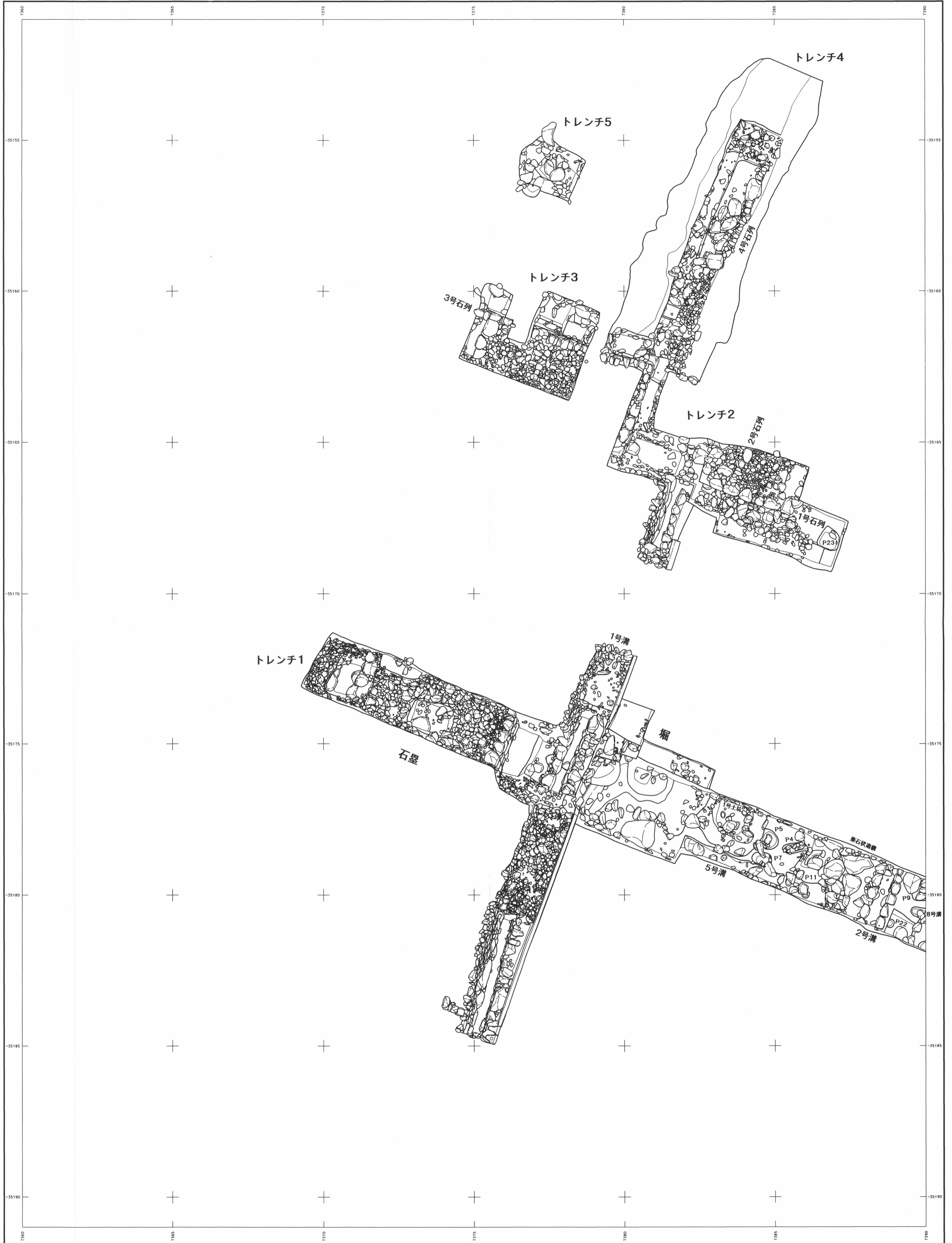
平成12年度大手馬出土墓・主郭部・御隠居曲輪南、
平成12～13年度無名曲輪、試掘調査概要報告書

平成14年3月25日

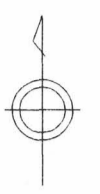
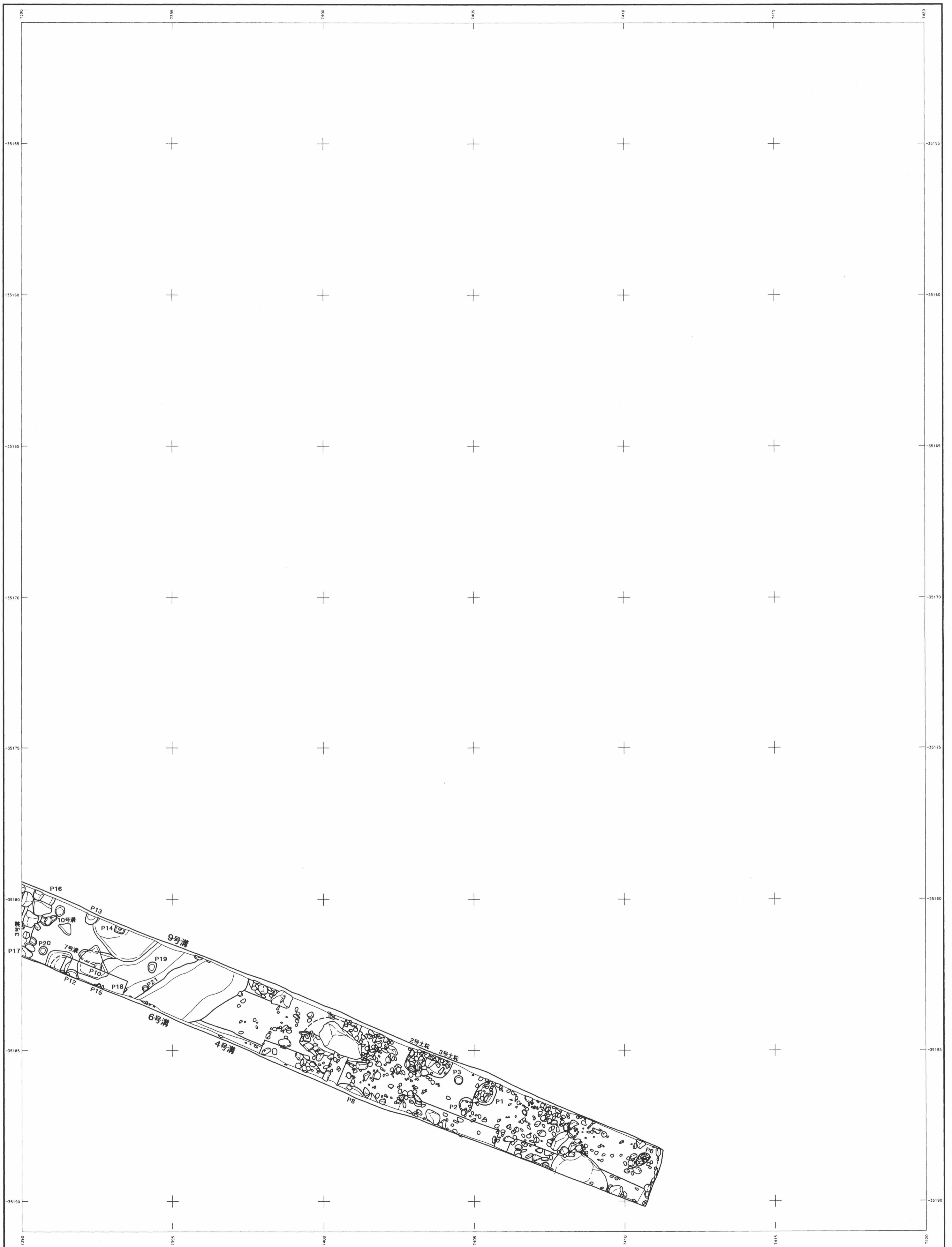
発行 甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号
TEL 055 (223) 7324
FAX 055 (226) 4889

印刷 榎内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18

史跡武田氏館跡大手馬出地点平面図 No. 1



史跡武田氏館跡大手馬出地点平面図 NO. 2



2

S=1:80
0 2 4m

